

# 西野原遺跡(1)(2)

一般県道国定敷塚線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 6

群馬県東部県民局 太田土木事務所  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 西野原遺跡(1)(2)

一般県道国定薮塚線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 6

群馬県東部県民局 太田土木事務所  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 序

西野原遺跡は太田市藪塚町に所在し、北関東自動車道とその側道及び石田川流域調整池などの建設に伴って、平成15年度から17年度にかけて当事業团によって発掘調査が実施されました。

このほど、北関東自動車道の側道として新たに整備されることになった一般県道国定藪塚線にかかる部分の整理事業が、群馬県東部県民局太田土木事務所の委託を受けて実施され、他事業に伴う調査箇所在先駆けて、本報告書刊行の運びとなりました。

この遺跡では、平成17年度末まで続けられた石田川調整池の建設にかかる調査においては、古墳群や古代における東日本最大級ともみられる巨大な製鉄遺跡群が発見され、大いに注目を集めたところであります。本報告書では、それらの周辺部分において検出された遺構群についての調査成果を収録しております。

本報告書の刊行に至るまでには、太田土木事務所、県教育委員会、太田市教育委員会、当時の藪塚本町教育委員会はじめ関係諸機関並びに関係各位に大変なご尽力を賜りました。ここに銘記して心よりの感謝を申し上げますとともに、本報告書が広く資料として活用されますことを願ひまして、序といたします。

平成18年9月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 高橋 勇夫



## 例 言

1. 本報告書は、一般県道国定藪塚線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡の所在地は、群馬県太田市藪塚町大字藪塚字西野である。
3. 本発掘調査および整理事業は、群馬県東部県民局太田土木事務所の委託を受けた財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 調査対象地は北関東自動車道本線の北側、石田川流域調節池との間に挟まれた東西に細長い3,650㎡である。
5. 西野原遺跡は、北関東自動車道本線部分（委託者：日本道路公団（当時））、一般県道国定藪塚線（北関東自動車道側道）部分（委託者：群馬県太田土木事務所）、石田川流域調節池部分（委託者：群馬県太田土木事務所）と3事業地に対応してそれぞれ調査が行われている。  
事業実施時には、藪塚本町内にかかる北関東自動車道本線部分・一般県道国定藪塚線部分・石田川流域調節池部分に関しては当事業団が「藪塚西野原遺跡」として、一般県道国定藪塚線特定道路整備事業にかかる旧太田市域にかかる部分の調査は太田市教育委員会文化財課が「西野原遺跡」としてそれぞれ調査を実施したが、平成18年3月28日、太田市と藪塚本町との合併が成立し、藪塚西野原遺跡・西野原遺跡ともに太田市内に属することになった。平成18年4月、県教育委員会文化課と太田市教育委員会文化財課との協議によって、本遺跡の名称について「西野原遺跡」と統一して呼称することとなり、当事業団にもその旨、通告された。以後、本遺跡については「西野原遺跡」と称する。  
なお、各事業に伴う遺跡呼称は下記の通りであり、本報告書で報告するのは、新呼称で西野原遺跡（1）及び西野原遺跡（2）にかかる部分である。

表1 西野原遺跡発掘調査原因事業別呼称一覧

	発掘調査記録保存措置原因事業名	県道太田大間々線以西呼称 (旧藪塚本町域)	県道太田大間々線以東呼称	
			旧藪塚本町域	旧太田市域
1	一般県道国定藪塚線 (北関東自動車道側道)	西野原遺跡（1）	西野原遺跡（2）	西野原遺跡（6）*
2	北関東自動車道	西野原遺跡（3）	西野原遺跡（3）	西野原遺跡（4）
3	石田川流域調整池	西野原遺跡（5）	西野原遺跡（7）	-

\*一般県道国定藪塚線特定道路整備事業に伴う旧太田市域での太田市教育委員会文化財課による調査に関しては、別途、同市教育委員会から発掘調査報告書刊行予定。

6. 発掘調査・整理期間及び調査整理担当者、事務局体制

(1) 発掘 第一次調査 平成16年2月1日～3月31日

担当：東毛調査事務所調査研究部調査研究第2課 専門員 今井和久、調査研究員 森田真一

第二次調査 平成16年12月1日～平成17年3月31日

担当：東毛調査事務所調査研究部調査研究第1課 専門員 春山秀幸・大澤務

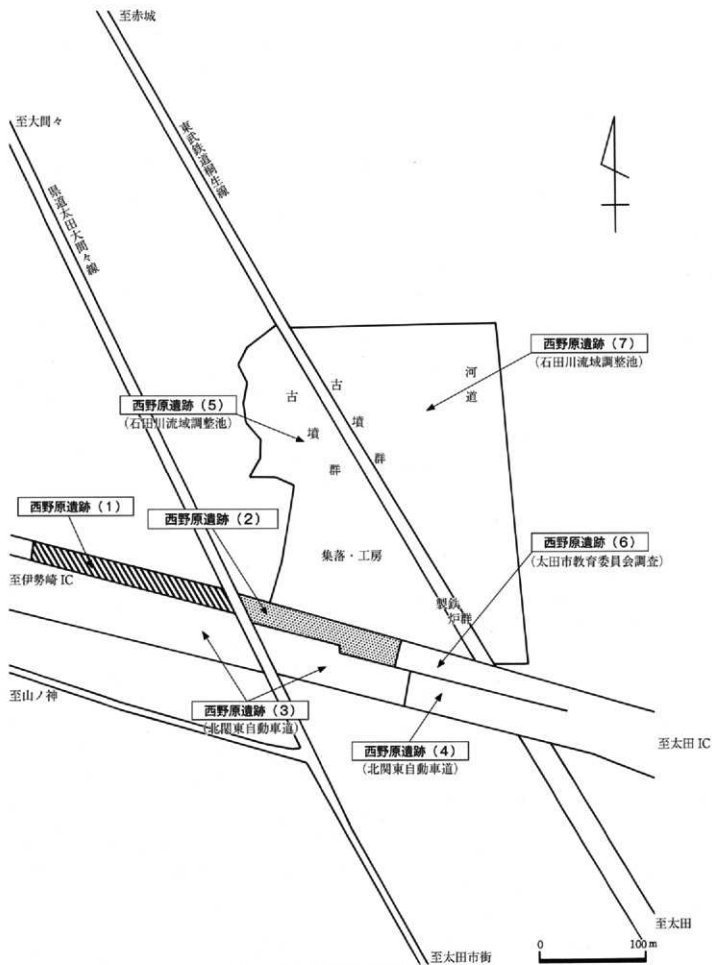


図1 西野原遺跡調査区位置概念図



(2) 整理 平成18年5月1日～7月31日

担当：事務局資料整理部資料整理第2グループ 専門員（主幹）高島英之

(3) 調査整理機関組織事務体制

役員 理事長 小野宇三郎（平成15～16年度）・高橋勇夫

常務理事 住谷永市（平成15～16年度）・木村裕紀

事務局 事業局長 神保侑史（平成15～16年度）・津金沢吉茂

資料整理部長 中東耕志、資料整理第2グループリーダー 関晴彦

管理部長 萩原利通（平成15年度）・総務部長 矢崎俊夫（平成16年度）・萩原勉

総務課長 榎原恒夫（平成15年度）・丸岡道雄（平成16年度）・総務グループリーダー 笠原

秀樹・経理グループリーダー 石井清

総務係長 竹内宏（平成15～16年度）・経理係長 高橋房雄（平成15～16年度）

総務課主幹（総括）須田朋子・斎藤恵利子、主幹 吉田有光（平成15～16年度）・今泉大作・

柳岡良宏、主任 栗原幸代・阿久澤玄洋（平成15～16年度）・佐藤聖行

総務課補助員 今井もと子・内山佳子・若田誠・佐藤美佐子・本間久美子・北原かおり・狩野

真子・松下次男（平成15～16年度）・吉田茂（平成15～16年度）・武藤秀典

経理課 所長 平野進一（平成15～16年度）、調査研究部長 真下高幸（平成15～16年度）

調査研究第2課長 井川達雄（平成15年度）、調査研究第1課長 藤巻幸男（平成16年度）

庶務課長 笠原秀樹（平成15～16年度）、副主幹 柳岡良宏（平成15～16年度）・今泉大作（平

成16年度）、主任 清水秀紀（平成16年度）、補助員 中沢恵子・金子三枝子（平成15～16年度）

7. 報告書作成関係者

- (1) 本文執筆、編集 資料整理部長 中東耕志（第3章第3節縄文土器・石器観察表）、高島英之（前記以外）
- (2) 遺構写真撮影 東毛調査事務所調査研究部調査研究第2課専門員 今井和久、調査研究員 森田真一（平成15年度）、同調査研究第1課専門員 春山秀幸・大澤務（平成16年度）
- (3) 遺物写真撮影 資料整理第1グループ主幹（総括） 佐藤元彦
- (4) 整理指導助言 資料整理部長 中東耕志（縄文土器・石器）、第2グループリーダー 上席専門員 関晴彦・第2グループ 上席専門員 井川達雄（土師器・須恵器）、第1グループ 主任専門員（総括） 大木紳一郎・友廣哲也（弥生土器）、第2グループ 主任調査研究員 春山秀幸、調査研究部調査研究グループ専門員（総括） 谷藤保彦（遺構図・遺構写真）
- (5) 整理作業 資料整理第2グループ整理補助員 岩淵節子・阿部幸恵・掛川智子・笛田広美・吉田明恵・水野さかえ
- (6) 機械遺物実測 資料整理第2グループ整理補助員 田中精子・小菅優子

8. 出土遺物・図面・写真類は、一括して群馬県埋蔵文化財調査センター（群馬県渋川市北碓町784-2）に保管している。

9. 発掘調査及び報告書作成に際しては、下記の関係各機関にご高配・ご指導・ご教示を賜った。記して深甚なる謝意を表する。

群馬県教育委員会、蕨塚本町教育委員会（当時）、太田市教育委員会

## 凡 例

1. 本報告書に掲載する遺構平面図の方位記号は、国家座標の北を表す。座標系は国家座標IX系である。今回の調査区は、X=38240～38310、Y=-45250～45535の範囲に収まる。
2. 遺構平面・断面実測図に示した標高値の単位はmである。
3. 遺構・遺物実測図の縮尺は各図にそれぞれ示した。
4. 遺構の土層及び土器の色調の表現は、農林水産省農林水産技術会事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帳」1993年版に準拠した。
5. 遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版ともすべて共通している。
6. 本報告書で使用した地形図は、「桐生」1/25000である。
7. 遺構の面積はデジタルプランメーターを使用して3回の計測値を平均したものである。
8. 本遺跡で検出された竪穴建物跡の中には、後述するように、竈は有するもののみならず住居跡とは見なしたい建物跡も存在するため、本報告書では「掘立柱建物」・「平地建物」等に対偶する建物遺構の概念として学界にも膾炙している「竪穴建物跡」の用語を使用する。

## 目 次

序

例言

凡例

第1章 調査に至る経緯と調査経過	1
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	3
第3章 発見された遺構と遺物	10
第1節 西野原遺跡（1）で検出された遺構と遺物	10
第2節 西野原遺跡（2）で検出された遺構と遺物	30
第3節 西野原遺跡（1）（2）で検出された縄文時代の遺物	88
まとめ	91

写真図版

# 図版目次

図1	西野原遺跡調査区位置概念図	(4)
図2	西野原遺跡跡周辺部の地形とその他の遺跡	9
図3	西野原遺跡(1) 1・2号掘立柱建物跡平面図・柱穴土層断面図・エレベーション図	11
図4	西野原遺跡(1) 3号掘立柱建物跡平面図・柱穴土層断面図・エレベーション図	12
図5	西野原遺跡(1) 1号溝跡平面図・土層断面図	13
図6	西野原遺跡(1) 2号溝跡平面図・土層断面図	14
図7	西野原遺跡(1) 3・4・6・15号溝跡平面図・土層断面図	15
図8	西野原遺跡(1) 4号溝跡出土遺物	16
図9	西野原遺跡(1) 5号溝跡出土遺物	16
図10	西野原遺跡(1) 5・7・8・9号溝跡平面図・土層断面図	17
図11	西野原遺跡(1) 9号溝跡平面図・土層断面図	18
図12	西野原遺跡(1) 10・11・12号溝跡平面図・土層断面図	20
図13	西野原遺跡(1) 15号溝跡出土遺物	21
図14	西野原遺跡(1) 13・14号溝跡平面図・土層断面図	21
図15	西野原遺跡(1) 1号土坑跡平面図・土層断面図・出土遺物	22
図16	西野原遺跡(1) 2・3号土坑跡平面図・土層断面図	22
図17	西野原遺跡(1) 4・5号土坑跡平面図・土層断面図	23
図18	西野原遺跡(1) 6・8号土坑跡平面図・土層断面図	24
図19	西野原遺跡(1) 9・10号土坑跡平面図・土層断面図	24
図20	西野原遺跡(1) 12・14号土坑跡平面図・土層断面図	25
図21	西野原遺跡(1) 15・18号土坑跡平面図・土層断面図	26
図22	西野原遺跡(1) 19・20号土坑跡平面図・土層断面図	27
図23	西野原遺跡(1) 22号土坑跡平面図・エレベーション図	28
図24	西野原遺跡(1) 22号土坑跡出土遺物	28
図25	西野原遺跡(1) 遺構外出土遺物	29
図26	西野原遺跡(2) 壑穴建物跡分佈図	30
図27	西野原遺跡(2) 116号壑穴建物跡平面図・土層断面図	31
図28	西野原遺跡(2) 116号壑穴建物跡出土遺物	31
図29	西野原遺跡(2) 118号壑穴建物跡出土遺物(1)	32
図30	西野原遺跡(2) 118号壑穴建物跡平面図・土層断面図	33
図31	西野原遺跡(2) 118号壑穴建物跡電磁線図・同土層断面図・同掘方平面図	34
図32	西野原遺跡(2) 118号壑穴建物跡出土遺物(2)	35
図33	西野原遺跡(2) 119号壑穴建物跡平面図・土層断面図・エレベーション図	36
図34	西野原遺跡(2) 119号壑穴建物跡柱穴土層断面図・電磁線図・同掘方平面図・同土層断面図	37
図35	西野原遺跡(2) 119号壑穴建物跡出土状況エレベーション図	38
図36	西野原遺跡(2) 119号壑穴建物跡出土遺物(1)	42
図37	西野原遺跡(2) 119号壑穴建物跡出土遺物(2)	43
図38	西野原遺跡(2) 119号壑穴建物跡出土遺物(3)	44
図39	西野原遺跡(2) 119号壑穴建物跡出土遺物(4)	45
図40	西野原遺跡(2) 120号壑穴建物跡平面図・土層断面図・柱穴土層断面図・エレベーション図	46
図41	西野原遺跡(2) 120号壑穴建物跡電磁線図・同土層断面図・同掘方平面図・エレベーション図	47
図42	西野原遺跡(2) 120号壑穴建物跡出土遺物(1)	49
図43	西野原遺跡(2) 120号壑穴建物跡出土遺物(2)	50
図44	西野原遺跡(2) 120号壑穴建物跡出土遺物(3)	51
図45	西野原遺跡(2) 121号壑穴建物跡平面図・土層断面図	53
図46	西野原遺跡(2) 121号壑穴建物跡電磁線図・同土層断面図・同掘方平面図	54
図47	西野原遺跡(2) 122号壑穴建物跡平面図・土層断面図	55
図48	西野原遺跡(2) 123号壑穴建物跡平面図・土層断面図・柱穴土層断面図	56
図49	西野原遺跡(2) 123号壑穴建物跡電磁線図・同土層断面図・同掘方平面図	57
図50	西野原遺跡(2) 124号壑穴建物跡出土遺物	58
図51	西野原遺跡(2) 124号壑穴建物跡平面図・土層断面図・柱穴土層断面図	59
図52	西野原遺跡(2) 124号壑穴建物跡電磁線図・同土層断面図・同掘方平面図・殿治伊跡微細図	60
図53	西野原遺跡(2) 131号壑穴建物跡平面図・土層断面図・エレベーション図・柱穴土層断面図	62
図54	西野原遺跡(2) 131号壑穴建物跡電磁線図・同土層断面図・同掘方平面図	63
図55	西野原遺跡(2) 131号壑穴建物跡出土遺物	64
図56	西野原遺跡(2) 132号壑穴建物跡平面図・土層断面図・貯蔵穴等土層断面図・電磁線図・同土層断面図・同掘方平面図	65
図57	西野原遺跡(2) 133号壑穴建物跡出土遺物	66
図58	西野原遺跡(2) 133号壑穴建物跡平面図・土層断面図・電磁線図・同土層断面図・同掘方平面図	67
図59	西野原遺跡(2) 134号壑穴建物跡平面図・土層断面図・pit土層断面図	68

図60	西野原遺跡(2) 134号竪穴建物跡電線断面・同エレベーション図	69
図61	西野原遺跡(2) 134号竪穴建物跡出土遺物	69
図62	西野原遺跡(2) 溝跡配置図	70
図63	西野原遺跡(2) 59・65・66・69号溝跡平面図・土層断面図	71
図64	西野原遺跡(2) 56・71号溝跡平面図・土層断面図	73
図65	西野原遺跡(2) 68号溝跡平面図・土層断面図	74
図66	西野原遺跡(2) 64号溝跡平面図	75
図67	西野原遺跡(2) 288・325-328号土坑跡平面図・土層断面図	78
図68	西野原遺跡(2) 329-334号土坑跡平面図・土層断面図	79
図69	西野原遺跡(2) 337・339・408-414号土坑跡平面図・土層断面図	81
図70	西野原遺跡(2) 412号土坑跡出土遺物	82
図71	西野原遺跡(2) 415-427号土坑跡平面図・土層断面図	84
図72	西野原遺跡(2) 428-436・440・490・491号土坑跡平面図・土層断面図	86
図73	西野原遺跡(1)(2) 縄文時代出土遺物(1)	89
図74	西野原遺跡(1)(2) 縄文時代出土遺物(2)	90
付図1	西野原遺跡(1)全体図	
付図2	西野原遺跡(2)全体図	

## 写真図版目次

PL.1	西野原遺跡(1) 全景、1号竪立柱建物跡全景、1号竪立柱建物跡柱穴土層断面	
PL.2	1号竪立柱建物跡柱穴土層断面、2・3号竪立柱建物跡全景、1・2・3・4・5号溝跡全景、3・4・15号溝跡交差地点	
PL.3	5・9号溝跡交差地点、7・8・9・10・11・12・13・14号溝跡全景、1号土坑跡全景	
PL.4	2・3・4・5・6・8・9・10号土坑跡全景	
PL.5	12・14・15・16・17・18・19・22号土坑跡全景	
PL.6	19号土坑跡、1号ピット全景、116号竪穴建物跡全景、同遺物出土状況、同土層断面、118・124号竪穴建物跡全景、同遺物出土状況	
PL.7	118号竪穴建物跡遺物出土状況、同土層断面、同竈、同竈土層断面、同竈南方土層断面	
PL.8	118号竪穴建物跡電線断面土層断面、同貯蔵穴土層断面、124号竪穴建物跡全景、同遺物出土状況、同土層断面、同竈、同竈土層断面	
PL.9	124号竪穴建物跡土層断面、同柱穴土層断面、119号竪穴建物跡全景、同遺物出土状況	
PL.10	119号竪穴建物跡遺物出土状況	
PL.11	119号竪穴建物跡遺物出土状況、同貯蔵穴遺物出土状況	
PL.12	119号竪穴建物跡土層断面、同竈、同竈土層断面、同竈南方土層断面、120号竪穴建物跡全景、同遺物出土状況	
PL.13	120号竪穴建物跡遺物出土状況、同竈遺物出土状況、同土層断面	
PL.14	120号竪穴建物跡土層断面、同竈南方、同柱穴土層断面、121・122号竪穴建物跡全景	
PL.15	121-122号竪穴建物跡土層断面、121号竪穴建物跡竈、同竈土層断面、123号竪穴建物跡土層断面、131号竪穴建物跡全景、同遺物出土状況	
PL.16	131号竪穴建物跡遺物出土状況、同土層断面、同竈、同竈土層断面、同竈南方	
PL.17	131号竪穴建物跡貯蔵穴全景、132号竪穴建物跡全景、同土層断面、同竈、同竈土層断面、同貯蔵穴全景、133号竪穴建物跡全景	
PL.18	133号竪穴建物跡竈、同竈遺物出土状況、134号竪穴建物跡全景、同竈、同遺物出土状況、同土層断面、56号溝跡全景	
PL.19	59・60号溝跡土層断面、64号溝跡全景、65号溝跡土層断面、68号溝跡土層断面、69号溝跡土層断面、71号溝跡土層断面	
PL.20	325号土坑跡全景、同土層断面、326号土坑跡全景、同土層断面、327号土坑跡全景、同土層断面、328号土坑跡全景、同土層断面	
PL.21	329号土坑跡全景、同土層断面、330号土坑跡全景、同土層断面、331号土坑跡全景、同土層断面、332号土坑跡全景、332・333号土坑跡土層断面	
PL.22	334号土坑跡全景、同土層断面、337号土坑跡全景、同土層断面、339号土坑跡全景、同土層断面	
PL.23	西野原遺跡(1) 土坑跡・遺物出土遺物、縄文時代出土遺物	
PL.24	西野原遺跡(1) 縄文時代出土遺物、西野原遺跡(2) 116-119号竪穴建物跡出土遺物	
PL.25	西野原遺跡(2) 119号竪穴建物跡出土遺物	
PL.26	西野原遺跡(2) 119-120号竪穴建物跡出土遺物	
PL.27	西野原遺跡(2) 120号竪穴建物跡出土遺物	
PL.28	西野原遺跡(2) 120-134号竪穴建物跡出土遺物、土坑跡出土遺物	

## 第1章 調査に至る経緯と調査の経過

本事業は群馬県太田土木事務所によって計画された一般県道国定藪塚線地方特定道路整備事業に伴い、埋蔵文化財発掘調査による記録保存の措置が当事業団に委託されたものである。

本事業は、北関東自動車道の北側にとりつく幅約12mの側道であり、この側道部分の工事取り扱いは、在来一般県道の整備という形で群馬県が管掌することが取り決められていた。平成13年に、この地域における北関東自動車道本線にかかる部分に関する埋蔵文化財の取り扱いについて日本道路公団（当時）高崎工事事務所から県教育委員会文化財保護課（当時）に照会がなされたのを受けて、北関東自動車道本線部分とあわせて埋蔵文化財発掘調査がなされ、用地の一部に埋蔵文化財の包蔵が認められた。

これを受けて、県教育委員会文化課と県太田土木事務所、日本道路公団（当時）の協議がたびたびなされた。その後、県教育委員会文化課の調整を経て、平成15年7月、県太田土木事務所より当事業団に対して事業地内での埋蔵文化財発掘調査の依頼が正式になされた。

調査区は北関東自動車道の予定路線の北側に接し、一般県道太田大間々線を挟んで東側（2区）と西側（1区）に調査区が分かっているが、東側調査区の東端で太田市西長岡町と接しており、遺跡自体の範囲も太田市西長岡町側に広がっていたため、調査箇所も当時は、太田市と藪塚本町と2つの自治体にまたがることとなった。そのため、県、太田市、藪塚本町（当時）各教育委員会及び当事業団を交えての協議及び県教育委員会文化課による調整を経て、側道部分に関しては、藪塚本町にかかる部分（西野原遺跡（1）及び西野原遺跡（2））を当事業団が、太田市域にかかる部分（西野原遺跡（6））は太田市教育委員会文化財課がそれぞれ発掘調査を分担することとなった。

当事業団が平成16年度に調査した一般県道太田・大間々線以東調査区の東端に接する当時の太田市域部分の調査は、平成16年度に太田市教育委員会文化財課が実施し、発掘調査報告書も別途、太田市教育委員会から刊行される予定である。

当事業団による発掘調査は、翌16年2月1日から3月末にかけて一般県道太田大間々線以西の範囲1,850㎡を第一次調査として実施し、調査は翌年度に持ち越された。第二次調査は、平成16年度に一般県道太田大間々線以東の1,800㎡を対象に実施した。

発掘調査は当事業団東毛調査事務所調査研究部が実施した。調査区の測量基点は国家座標新日本測地系第IX系X=29180・Y=46260に設定し、各グリッドは5m四方を一単位とし、調査区内に40グリッドを設定した。グリッドは国家座標X軸とY軸との交点の数値をそのまま呼称した。

第一次調査は、平成16年2月2日に現地での作業に着手。遺構調査は3月1日に終了。その後3月17日まで旧石器の確認調査及び縄文時代包含層の調査を行ったが、旧石器時代の遺物は全く確認されなかった。その後、調査区の埋め戻し、整地作業を行い、3月17日に発掘作業を終了し、その後、月末までの間に調査区の埋め戻し、整地、関係事務手続、基本整理等を行った。

第二次調査は、平成16年12月13日に工事用迂回路部分の先行調査を行った後、平成17年1月5日より発掘調査に着手。調査は北側に隣接する石田川調整池にかかる部分（西野原遺跡（5）（7））の調査と並行して進められ、3月24日まで調査を実施し、3月29日より埋め戻し、3月31日に埋め戻し及び整地作業を終了し、現場から撤収した。なお、隣接する西野原遺跡（5）（7）の調査は次年度以降も継続して進められた。

### ・発掘調査日誌抄

- (1) 平成15年度 平成16年2月2日（月） 調査着手、表土掘削。

## 第1章 調査に至る経緯と調査の経過

- 2月12日(木) 1区1号掘立柱建物跡、1～4号溝跡、土坑跡掘削精査。  
2月18日(水) 1区3～9号溝跡、土坑跡掘削精査、断面・平面実測、写真撮影。  
2月19日(木) 1区10～15号溝跡、土坑跡掘削精査、断面実測、写真撮影。  
2月24日(火) 1区全景写真撮影。旧石器確認調査着手。  
3月4日(木) 1区縄文時代遺物包含層調査着手。  
3月17日(水) 1区旧石器確認調査及び縄文時代遺物包含層調査終了。1区の発掘調査を終了。  
3月22日(月) 現場撤収。
- (2) 平成16年度 平成16年12月13日(月) 2区工事用迂回路部分先行調査、土坑調査。終了後、埋め戻し。  
平成17年1月5日(水) 2区表土掘削着手。  
1月14日(金) 2区116・118・119・120号住居跡、60号溝跡、土坑群掘削精査、溝・土坑群写真撮影。  
1月24日(月) 2区118・119・120・131・133・134号住居跡掘削精査、断面・平面実測、写真撮影。  
2月3日(木) 2区空撮。  
2月8日(火) 2区住居跡・溝跡・土坑群調査継続。  
2月15日(火) 2区119・120号住居跡、131号住居跡周辺遺構精査、写真撮影。  
2月25日(金) 2区井戸跡調査、調査区中央部遺構精査。  
3月10日(木) 2区住居跡堀方精査、写真撮影。土壌選別。  
3月21日(月) 2区119・120号住居跡床面再精査、土壌選別。  
3月24日(木) 2区遺構調査終了、全景写真撮影。  
3月31日(木) 2区埋め戻し作業終了、現場撤収。

整理作業は当事業団資料整理部(担当:資料整理第2グループ)が担当し、当事業団分室において平成18年5月1日から7月31日まで3ヶ月間実施し、9月に発掘調査報告書を刊行した。

### ・基本土層

I	I層:表土、現地表面から約15cmまで、暗灰色土。
II	II層:厚さ約15cm、暗褐色砂質土、As-B軽石・ローム塊を含む。
III	III層:厚さ約3cm、黒褐色粘質土、Hr-S・As-Cを含む。2区の一部で検出されたのみ。
IV	IV層:厚さ約10～25cm、褐色土で、白色軽石粒を少量混入。縄文時代中期後半遺物包含層。
V	V層:厚さ約12～18cm、黄褐色土、砂礫を少量混含む。
VI	VI層:厚さ約30～40cm、褐色土、砂礫を多く含む。
VII	VII層:厚さ約20～35cm、堅く締まった砂層。
VIII	VIII層:大小の礫大量。

## 第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

**位置** 藪塚西野原遺跡は旧藪塚本町の南東端、旧藪塚本町と太田市西長岡町との市町境に位置していた。平成18年の太田市と藪塚本町との合併により、現在では太田市の北郊に当たる。

調査区は北関東自動車道の予定路線の北側に接し、一般県道太田・大間々線を挟んで東側と西側に調査区が分かれているが、東側調査区の東端で太田市西長岡町と接しており、遺跡自体の範囲も太田市西長岡町側に広がっている。

**地形** 地形的には、渡良瀬川によって形成された大間々扇状地の扇尖部にあたり、標高約100m前後の平地である。

大間々扇状地は、南流する渡良瀬川によって形成された開析扇状地で、標高約200mのみどり市大間々町一帯を扇頂部として、現在の桐生市、太田市、伊勢崎市東北部などの地域にまたがり、扇頂から扇端まで南北約20km、東西約15km、平均勾配10パーミルという規模を呈する関東平野第三位、群馬県内筆頭の巨大な扇状地である。この大間々扇状地は、高位から桐原面（古期扇状地面）、藪塚面（新期扇状地面）の二つの扇状地からなり、太田市藪塚町の平坦地はこの新期扇状地藪塚面上に形成されており、藪塚台地と通称されている。渡良瀬川はその後、八王子丘陵の東側に流路を変えているため、現在は現流河川のない欠水性の扇状地となっており、近世に用水路が開削されるまでは笠懸野と称される不毛の土地であった。この扇状地は、この地方の遺跡の立地に大きく関わっている。

**立地** 遺跡地は、桐生市との市境をなす八王子丘陵西麓の平地の水田地帯の中に立地する。この八王子丘陵は秩父古成層によって形成された足尾山塊の残丘で、最高峰は標高298.9m、複雑な地質を有する。西側に当たる藪塚側には、なだらかな尾根がいくつも張り出しており、それらの支脈には凝灰岩が発達している。水利に恵まれない藪塚台地中西部に比べればこれらの谷には湧水が認められ、温泉が湧出する箇所も知られ、古くから集落が形成された様子が判明している。旧藪塚本町内における遺跡の分布も、旧町域東部の、八王子丘陵西麓の平地から八王子丘陵西麓一帯に集中している。

八王子丘陵西麓に沿って帯状に展開する水田地帯は、近世の寛文4年（1664）に代官岡上景能の指揮によって開墾用水が計画されてから本格的に開田されたものであり、よく知られているように開墾用水の本格的活用も明治初頭以降のことであり、本格的な水田の展開もここ百数十年のことと考えられる。大間々扇状地中西部に比べて恵まれていたとは言っても、従来、水利の便が良好とは決して言い難い土地であったようである。

**旧石器時代の遺跡** 周辺で旧石器がみついているのは、旧藪塚本町北東端の桐生市との旧市町境に近い位置、西に延びる八王子丘陵の一支丘上の南斜面に立地するつつじ山遺跡一箇所である。昭和25～26年に明治大学によって発掘調査が行われ、暗褐色粘土層から黒曜石ナイフ型石器、剥片、石核などが出土している。約2万2千年前くらいのものと考えられる。

**縄文時代の遺跡** 早期の遺物は、旧藪塚本町域の南東に位置する八王子丘陵支脈の一つの先端部に立地する岩崎遺跡で、田戸下層式土器片が出土しているが、量は少なく、関連遺構も検出されていない。また、八王子丘陵西麓に位置する滝之入前遺跡からは早期後半茅山式の土器片が出土している。

前期の遺跡は、中頃の黒浜式土器片が、前記岩崎遺跡のすぐ南西に位置する台山遺跡や、その南側の愛宕神社西遺跡、八王子丘陵町城南端部に近い尾根上に立地する岩崎遺跡、同じく八王子丘陵西麓にある滝之入前遺跡などから出土している。前期後半の諸磯式土器片は、先述の旧石器が出土したつつじ山遺跡、前期黒

## 第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

浜式土器が出土した愛宕神社西遺跡・滝之入遺跡、諏訪山遺跡など、いずれも八王子丘陵尾根上の遺跡から出土している。つつじ山遺跡からは床面らしき遺構や柱穴痕跡なども検出されている。

縄文時代中期の集落跡は、滝之入前遺跡・中原遺跡から検出されている。加曾利E式土器を主体とする時期である。滝之入前遺跡では堅穴住居跡1棟と落とし穴・土坑などが多数検出された。八王子丘陵西麓の平地に立地する中原遺跡では敷石住居跡が検出されている。両遺跡とも後期前半堀之内式にかけての遺構・遺物が発見されており、長い期間にわたって人々の営みが存続したことが判明している。

縄文時代後・晩期の遺構・遺物は、旧藪塚本町域北部の八王子丘陵西麓に位置する石之塔遺跡で発見されている。石囲炉跡、敷石状遺構、配石状遺構、埋設土器などが検出されている。縄文時代の堀之内Ⅱ式や加曾利B式期の土器が出土しているが、主体となるのは安行Ⅲa式期の土器であり、この遺跡から出土した縄文土器の大部分を占める。さらに土偶・土板・岩板・耳飾りなど特殊な遺物の出土が多い。群馬県内において数少ない縄文晩期を主体とする遺跡として著名になった。

**弥生時代の遺跡** 周辺部に展開する弥生時代の遺跡は、縄文時代の遺跡に比べて非常に少なく、4箇所を数えるのみで、いずれも旧町域東部の、八王子丘陵西麓一帯である。旧藪塚本町域では、現在までのところ弥生時代の住居跡が検出された遺跡は本遺跡以外にはなく、いずれも弥生式土器が出土しているに過ぎない。

八王子丘陵西麓の現在水田地帯になっている平地に立地する藪塚町藪塚の元屋敷遺跡からは、弥生時代中期後半の竜見町式の壺型土器が出土しており、再葬墓の可能性が指摘されている。

八王子丘陵西麓すぐのところの緩傾斜地に立地する藪塚町中原の中原遺跡からも、中期後半ながら竜見町式よりは若干後代の壺型土器が出土し、壺棺として使用された土器である可能性がある。

八王子丘陵西麓に接する緩傾斜地に立地する滝之入前遺跡では、後期前半の樽式の壺型土器が埋土中から出土しており、町域北部の、同じく八王子丘陵西麓に接する緩傾斜地に立地する石之塔遺跡からは後期後半の土器片が出土している。

このように、本遺跡周辺部では弥生時代集落は本遺跡を除いて現在のところ全く検出されておらず、その意味では本報告書で報告する116号住居跡は、この地域においてはじめてみつかった弥生時代の住居跡として注目されよう。さらに、北側に隣接する西野原遺跡(5)(7)調査区でも、弥生時代の集落が検出されている。しかしながら、弥生時代における本地域の全般的な動向には未だ不明点が多い。

**古墳時代の遺跡** 昭和10年(1935)から翌年にかけて群馬県が県下に残存する古墳を一斉に調査し、その結果として昭和13年(1938)に公開された『上毛古墳総覧』には、旧藪塚本町域に所在が確認出来る古墳として121基が収録されている。その後、平成3年(1991)に刊行された『藪塚本町誌』編纂に関わる分布調査で、『上毛古墳総覧』収録外の古墳として新たに14基の古墳が確認されている。しかしながら町誌編纂時の調査によって確認できた旧町域内の古墳は55基に過ぎず、『上毛古墳総覧』以降、昭和末年までの間に旧町域に所在する古墳の半数以上が、何らかの形で破壊され消滅したことになる。

町誌編纂段階で確認された古墳55基のうち、本遺跡の一角を占める西野の古墳群以外は、湯之入、滝之入の河谷周辺の八王子丘陵西麓尾根上及びそこから伸びる緩傾斜地に造営されたものである。また、墳形は圧倒的に円墳が多く、規模は径5mから20mくらいと小型のものが多く。

湯之入と滝之入の谷に挟まれた八王子丘陵西麓根の先端部に立地する西山古墳は、全長34m、後円部径18m、後円部高4mの前方後円墳で、八王子丘陵西麓の平野部を睥睨するかのような尾根先端部の高所に位置し、湯之入・滝之入地区の八王子丘陵尾根上に展開する数十基に及ぶ古墳群の主墳的性格を有する古墳と考えられている。横穴式石室が設けられ、墳丘裾部に円筒埴輪配列の痕跡が認められるという。町誌では6



世紀末～7世紀初頭の年代観が示されている。

同じく湯之入の尾根の奥の標高135mの地点に立地する北山古墳は、尾根の南斜面に山寄式に構築された径22mの横穴式石室を有する円墳である。埴輪の配列は現状では全く確認できず、可能では6世紀末から7世紀初頭頃の年代観が示されている。

また、同様に湯之入と滝之入山の谷に挟まれた八王子丘陵の山頂から南西方向に延びる尾根の末端、北東から南西方向に傾斜した標高およそ110mのところに位置する向山古墳は、墳丘はほとんど失われているが、山寄せ古墳としての形状をよくとどめており、横穴式石室を有する半径約11.4mの円墳と見られる。埴輪の配列はなく、石室は後世に大きく破壊されているが、太刀、刀子、鉄鏝、轡、金環など豊富な遺物が出土している。古墳下の基盤層に6世紀後半降下の榛名山二ッ岳火山灰の混入がわずかに認められるとのことで、この古墳の年代は6世紀後半以降と考えられるが、出土遺物から見て下限は7世紀前半と見られるようである。

このように本遺跡およびその周辺で古墳が築造されるようになるのは6世紀以降のことである。本遺跡周辺で最大の規模を有し、本遺跡の南、数百メートルに位置する太田市新田天良の二ッ山古墳群の二つの前方後円墳（1号-全長74m、高さ6m、2号-全長45m、高さ6m）が築造された6世紀後半以降に、その勢力下にある人びとによって築造されたものと見るのが妥当であろう。ただ、二ッ山古墳群にそのままつながる当遺跡を中心とする古墳群と、湯之入と滝之入山の谷に挟まれた八王子丘陵の山頂から延びる尾根上に築かれた山寄せの古墳群とでは、やや様相を異にしており、山寄せの古墳群はそれらだけで西山古墳を盟主墳として、小規模な独自のまとまりを見せるようである。

一方、この時代の集落は、縄文時代の集落や弥生時代の土器が出土した場所とはほぼ同様、東に八王子丘陵、西を大開々扇状地の台地にはさまれた低台地上に展開しており、その多くが複合遺跡である。地形上、人びとが生活する場所が本遺跡周辺では限られていた様子がわかる。

**奈良・平安時代の遺跡** 周知の通り、7世紀後半、古代国家が成立し地方支配体制が確立すると、地方は各段階に応じて国・評（のち郡）・五十戸（のち里）という地方行政組織に編成された。本遺跡の所在する場所は、古代においては新田郡の祝人郷に当たると考えられているが、古代の地方行政組織は、本来的には人間集団の集合体を編成するものであって、現在の自治体のように領域としての範囲が必ずしも明確なものではない。しかしながら、本遺跡及び周辺で検出された集落が、里（のちに郷）という行政単位に組織されないことはあり得ないわけであるから、そのような意味においては、本遺跡で検出された集落は、律令制下に祝人里（のちに祝人郷）を構成する集落の一つであるとみられよう。

律令制下の新田評、のちに新田郡の役所である郡家は、太田市天良町及び新田天良町で発掘調査されている天良七堂遺跡がそれに当たると考えられており、「延喜式」などの文献史料の記述から、新田郡内を東山道駅路が東西に貫通し、上野国から武蔵国・下野国への分岐点となった陸上交通上の要衝である新田駅家も郡内に設けられていたことが判明している。古代において、官衙はそれぞれが比較的近辺にまとまって配置されていた様子が判明していることから、新田駅家も新田郡家からさほど遠くない場所に設置されていたものと考えられる。

旧新田町内では、牛堀・矢ノ原ルートと称される高崎市南部の平地から玉村町を経て旧境町にかけて東西に貫く幅約12mの古代道路遺構に続く道路遺構と、その南側数百メートルの位置を、牛堀・矢ノ原ルートと並行して東西に貫く幅約10mの下新田ルート之二系統の駅路遺構が検出されている。また、北関東自動車道の建設に関わる調査では、さらに東に寄った金山丘陵の東麓地域である太田市東今泉町の地域で、約1kmに

わたり幅約12mの古代道路遺構が検出され、これは牛堀・矢ノ原ルートにつながる道路遺構であると考えられているが、いずれも本遺跡からは1km以上も南の位置を通っており、これらの道路遺構に関しては、本遺跡周辺には特段の影響を及ぼすものではないと言える。しかしながら、高崎市南部から玉村町、旧境町、旧新田町南部にかけて検出されている牛堀・矢ノ原ルートと、その延長上の道路と考えられる太田市東今泉町付近で検出された幅12mの古代道路遺構は、いずれも8世紀中葉から後半にかけて廃絶していることが調査の結果明らかになっており、牛堀・矢ノ原ルート、下新田ルートいずれも「延喜式」兵部省諸国駅伝馬条に記載のある段階の東山道駅路とは異なる段階の駅路の跡とみられ、むしろ「延喜式」段階における東山道駅路は、牛堀・矢ノ原ルートや下新田ルートよりはかなり北側に位置する榛名山東麓から赤城山南麓の台地上を通っていたものと考えられる。本遺跡の北側、ほど近い位置を通っていた可能性が高いが、旧飯塚本町域内において現在までのところ、古代の道路遺構が検出された遺跡はない。

周辺における奈良・平安時代の遺跡として注目されるのが台之原遺跡で検出された寺院遺構であろう。遺構の残存状態が悪く、寺域全体の規模や構造は明確ではない。瓦の出土状態から、基壇を有する瓦葺の堂宇が存在していたことは間違いないが、いわゆる「村落寺院」的な小規模な寺院であったと考えられている。出土した瓦の中には、新田郡上野園分寺創建期の瓦と同范のものがあり、小規模な寺院とは言え、園分寺の造営事業やそのためのシステムの何らかの影響下あるいは関連があって造立されたことが分かり、本寺院造営の背景を考える上で重要なカギとなろう。

遺構の存続時期も8世紀末から9世紀中頃までと推定されている。本遺跡の南西約1.2kmの地点には新田郡家と密接な関連を有するとみられている本格的寺院である寺井庵寺が所在するが、台之原遺跡で検出された瓦葺堂跡は、そのような都レベルの寺院よりさらに下位のレベルの村堂的な仏教施設とみられよう。

そのほか八王子丘陵西麓平地に立地する滝之入前遺跡、中原遺跡、石之塔遺跡、元屋敷遺跡、六地藏遺跡、薬師前遺跡などで古代の住居跡などが検出されているが、いずれも古墳時代後期から連絡と続く集落であり、この地域においては、6世紀後半から9世紀後半までの約300年間、人びとの居住形態にほとんど変化がなかった様子がうかがえる。

また、本遺跡から北西に約2kmのところには元屋敷遺跡では、鍛冶跡が検出され鉄滓が多量に出土している。本遺跡、石田川調整池部分において巨大な製鉄遺構が検出されていることと関連して、周辺一帯で広く製鉄・鍛冶の作業が行われていたことが伺える。

**中世以降における歴史的環境** 12世紀、上野国の平野部には天仁元年(1108)の浅間山大噴火による降灰によって壊滅した耕地を復興する過程で、各地で荘園や御野が成立していった。仁安3年(1168)の「新田義重遺状」に示されている新田荘もそれらの一つとして形成された荘園である。

周知のように、源義家の三男である義国が勅勘を被って板東に下向、土着し、その長男である源義重(?～建仁2年(1202))が上野国新田郡に入室して開発し、久寿元年(1154)頃には新田郡西部の「こかの郷々」とよばれた19郷からなる荘園を成立させ、これを権門貴族である藤原忠雅(領家)と金剛心院(本所)とに寄進した。義重は、保元2年(1157)、下司職に任命され、新田荘を立荘、新田庄司を称した。嘉応2年(1170)に作成された「新田荘田畠在家注文」(正本文書)には、新田荘に属する39郷の田・畠・在家の数が記されているが、そこにみられる「やふつかの郷」が飯塚の地名の初見である。

新田義重の嫡男・義兼は、元久2年(1205)8月、將軍源実朝から「飯塚郷」を含む新田荘12郷の地頭職に任じられた。これが鎌倉幕府による新田荘地頭職の初任である。新田義兼は従兄弟の子に当たる畠山(足利)義純を女婿に迎え、その間に生まれた畠山(足利)時兼は、建保3年(1215)3月、外祖父に当た

る新田義兼の後室である新田尼から新田本宗家の所領であった新田莊田島郷など「藪塚郷」を含む12ヶ郷を譲られ、將軍源実朝から地頭職に任じられ（「正文書」）、さらに嘉禄2年（1226）には岩松郷（現：太田市岩松町一帯）の地頭職をも併せ、岩松郷に居住。以後、「岩松」を苗字に名乗った。岩松時兼は、新田尼から新田本宗家領の一部を相続したことによって、父系から見れば足利家一門でありながらも、新田家一門の有力庶子家として新田荘内に勢力を振るうことになった。

太田市尾高町世良田の長楽寺に伝存する「長楽寺源氏系図」に岩松家の系図も収録されているが、その史料によれば、岩松時兼の六男である朝兼が「藪塚六良（郎）」を名乗っており、13世紀前半頃に岩松家の支族が藪塚郷を領有し、「藪塚」を苗字としていたことがわかる。この長楽寺源氏系図によれば、藪塚六良（郎）朝兼には、仏門に入った一男子の他に「太良三良時綱」と「六良三良朝綱」の二人の男子がいたことになっているが、彼らの事績を物語る史料はなく、藪塚氏の居館の伝承・遺構ともに不明である。

その後の藪塚氏の事績は、本宗筋に当たる足利・新田両氏が激しく活動した南北朝期にも、史料上全く見えないので、動静は一切不明である。なお、『太平記』巻31に、北朝親貞3・南朝正平7年（1352）に上野国において新田義貞の次男義興と三男義宗が挙兵した際の記事が伝えられるが、挙兵に参加した新田氏一門の中に「藪塚」氏を名乗る人物がおり、写本によってはその部分を「藪塚」と記すものがあるが、藪塚氏の一門が、南北朝期には南朝方の新田氏に臣従していた可能性が指摘できるが、現在のところ確証は無い。

南北朝動乱の鎮定後、この地域を支配したのは島山氏と岩松氏であることが、15世紀中葉の享徳の乱の最中に岩松家当主持国によって作成されたと考えられる所領注文「新田荘内岩松方庶子方寺領等相分注文」（正文書）に見える。同史料によれば、藪塚郷の半分を岩松家惣領の岩松持国が、半分を金山丘陵西南部に本拠を有する岩松庶子家の島山式部大輔が領有していたことが判明するが、この島山氏については不明な点が多い。

応永23年（1416）、前関東管領上杉禪秀氏兼鎌倉公方足利持氏に対して起こした上杉禪秀の乱に際して新田党を糾合して上杉禪秀方に与した岩松家当主の満純は、岩松直国女を母に、新田義貞三男義宗を父として生まれた人物であり、新田本宗家の嫡宗の血筋を引く満純が岩松家を嗣いだことによって、岩松家は滅亡した新田本宗家に代わる新田家一門の惣領格として勢力を振るうことになった。

岩松満純の子・長純は、永享の乱（永享9、1437）が勃発すると將軍足利義教に召し出されて鎌倉公方討伐軍の将に任じられ、その戦功により岩松家の家督を回復して岩松家純と名乗り、享徳の乱（享徳3、1454）が起きると対立する一門の岩松持国・成純父子を誅殺して岩松家の内紛を平定し、文明元年（1469）には五十余年振りに本領である上野国新田郡を回復し、家臣の横瀬国繁（岩松満純の弟、新田貞氏末裔）をして金山丘陵に金山城築城させ居城となしたが、岩松家中では家臣である横瀬氏が次第に力を振るうようになっていった。

享禄年間（1528～32）、家臣横瀬氏の専横を排除しようとした岩松家当主の高純・昌純父子は逆に家臣横瀬氏に攻められて自害。岩松昌純に代わって岩松家の家督を嗣いだ昌純の弟・氏純も実権を横瀬氏に握られたままで、ついには自害させられるに至った。氏純の子の守純は、金山城を追われて山田郡葭（現：桐生市葭）に隠棲し、岩松家は家臣横瀬氏の下克上によって没落した。

金山城から主君・岩松守純を追放して、自ら金山城主となった横瀬成繁は、苗字として由良の姓を名乗り、戦国大名由良氏による当地支配がその後、しばらく続く。八王子丘陵には由良氏により、広沢茶臼山の南約400mに位置する標高270mの山頂付近に八王子城を、また、湯之入の集落から初山峠に向かう道の鞍部北側の丘頂を削平して雷電山砦を築城する。天正2年（1574）3月下旬には上杉謙信が小田原北条氏方

## 第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

に属した由良氏領の割生・新田を攻め、由良氏当主の国繁がこれを防戦するも、天正13年（1585）、小田原北条氏は臣従していた由良国繁を攻めて屈服させ、金山城は小田原北条氏に接收され、当地一帯も北条氏の支配するところとなった。その北条氏も天正18年（1890）には豊臣秀吉に攻め滅ぼされ、当地一帯は江戸に移封された徳川家康の支配地に入った。江戸幕府成立後、由良家も岩松家とともに、名家の血筋であるによって少祿ながらも旗本として召し抱えられるが、かつての新田荘の故地に影響力を及ぼすほどの存在ではなかった。

石田川流域調節池の建設に伴う西野原遺跡（5）（7）調査区では中世の掘立柱建物跡が検出されているが、本遺跡周辺に中近世の立った遺構が検出された遺跡は、今のところ見つからない。

表2 周辺の主な遺跡

番号	遺跡名	所在地	概 要
1	つつじ山	萩塚町萩塚	旧石器時代、黒曜石ナイフ型石器・割片・石核など、縄文時代前中期竪穴住居跡等。
2	岩崎	萩塚町谷ッ木	縄文早期～前期～後期土器片出土。
3	諏訪山	萩塚町滝之入	縄文前期土器片出土。
4	滝之入前	萩塚町滝之入	縄文早期後半～後期前半、中心は中期後半、弥生後期土器。古墳後期～奈良・平安集落。
5	中原	萩塚町中原	縄文中期～後期竪穴住居、土坑群、弥生後期土器、古墳後期～奈良・平安集落。
6	石之塔	萩塚町石之塔	縄文後期（瀬之内1式～加曾利B式）～晩期（安行Ⅱ）、晩期主体集落、弥生後期、平安。
7	元屋敷	萩塚町元屋敷	弥生中期土坑跡、古墳後期～奈良・平安時代集落、中世墓坑。
8	西山古墳	萩塚町萩塚	前方後円墳、湯之入古墳群の副主墳、全長34m、後円部径18m、後円部高4m、横穴式石室、6世紀終末～7世紀初頭か、早稲定史跡。
9	北山古墳	萩塚町萩塚	円墳、直径22m、高さ4m、横穴式石室、6世紀終末～7世紀初頭か、早稲定史跡。
10	向山古墳	萩塚町萩塚	諏訪山古墳群の一、円墳、径11.4m、封土流失、横穴式石室、直刀、鞘金具、鏝、刀子、鉄鏝、榎、耳環、馬具等出土。7世紀中葉以前。
11	不動山古墳	萩塚町萩塚	八王子丘陵の尾根の一つが東西に突き出た場所の先端に位置する円墳、旧萩塚本町城八王子丘陵周辺古墳の最北端、横穴式石室、直刀出土。
12	長円寺境内古墳	萩塚町萩塚	八王子丘陵西麓の微高地上、「上毛古墳総覧」は前方後円墳とするが未調査のため詳細不明。埴輪片散見。
13	湯之入古墳群	萩塚町萩塚	八王子丘陵の西南に延びる支脈、湯之入と滝之入の谷に挟まれた尾根上、諏訪山古墳群の更に上の尾根上、径3m前後の円墳が22基。
14	諏訪山古墳群	萩塚町萩塚	八王子丘陵の西南に延びる支脈の末端付近、湯之入と滝之入の谷に挟まれた尾根上、13基の古墳。
15	三島神社境内	萩塚町萩塚	古墳時代後期集落、戦前に子持勾玉が出土。
16	六地藏	萩塚町萩塚	古墳時代後期～奈良・平安集落、奈良時代漆紙出土（文字未確認）。
17	台之草	萩塚町萩塚	古墳時代後期～奈良・平安時代集落、奈良・平安時代寺院跡。上野国分寺創建期瓦、瓦礫出土。
18	榎木八幡	萩塚町萩塚	古墳時代後期集落。
19	薬師前	萩塚町萩塚	古墳時代後期～平安時代集落、中世墓坑群。

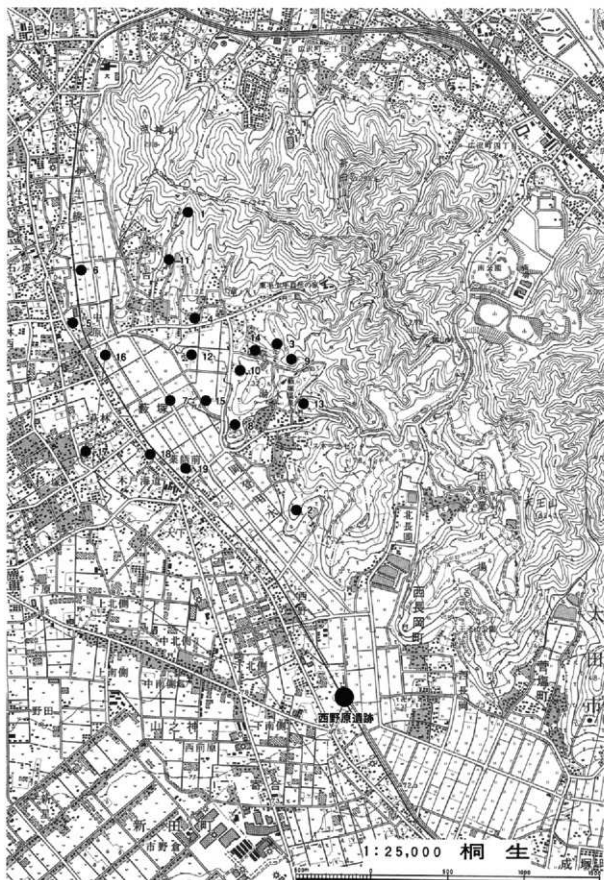


図2 西野原遺跡周辺の地形とその他の遺跡

## 第3章 発見された遺構と遺物

### 第1節 西野原遺跡(1)の遺構と遺物

平成15年度に発掘調査された西野原遺跡(1)調査区は、北関東自動車道本線調査区(西野原遺跡(3))の北側に隣接する調査区であり、北側は未調査区域であるため、第2節で報告する西野原遺跡(2)調査区のような7世紀末の製鉄・鍛冶遺構との関連は全く不明である。本調査区からは、掘立柱建物跡3棟、溝跡15条、土坑跡18基が検出されただけで、竪穴建物跡や製鉄・鍛冶作業に関わる遺構・遺物は全く検出されていない。

#### 第1項 掘立柱建物跡

西野原遺跡(1)では3棟の掘立柱建物跡が検出されたが、いずれも小規模であったり、一部が調査区外にかかっていたり、一部が他の遺構に破壊されていたりと、全容が明らかなものは無い。規模や形状からみて、倉庫や住居として使用されていたようなしっかりした規模のものは皆無である。

##### (1) 1号掘立柱建物跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の西端付近、X38300・Y-45530。 主軸方位：N-28°-E。 重複：なし。規模と形状：桁行2間×梁間1間、長辺約6.5m・短辺約3.3mの南北に長い長方形を呈する。西側に隣接して1号溝跡があり、西辺がそれによって破壊され、桁行が2間以上に広がる可能性を有する。

柱穴：6基検出された。検出された柱穴はいずれも平面楕円形ないし円形状を呈している。

No.1 長径0.72m・短径0.5m・深さ0.11m No.2 長径0.89m・短径0.81m・深さ0.18m

No.3 長径1.28m・短径0.93m・深さ0.14m No.4 長径0.74m・短径0.51m・深さ0.12m

No.5 長径0.52m・短径0.51m・深さ0.06m No.6 長径0.51m・短径0.48m・深さ0.11m

柱穴内の埋土は、ローム塊を多く含む暗褐色土をベースとする。 時期：不詳。

##### (2) 2号掘立柱建物跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の中央部東寄り、X38290・Y-45455。 重複：なし。 規模と形状：桁行1間×梁間1間、長辺約5.01m・短辺約3.18mの東西に長い長方形を呈するが、柱穴が3基しか検出されておらず、掘立柱建物跡ではなく直角状の障壁や櫓列になる可能性も有する。

柱穴：3基検出された。検出された柱穴はいずれも小規模で、平面楕円形ないし円形状を呈している。

No.1 径0.38m・深さ0.21m No.2 長径0.54m・短径0.48m・深さ0.2m No.3 径0.29m・深さ0.11m

柱穴内の埋土は、As-C軽石を多く含む茶褐色土をベースとする。 時期：不詳。

##### (3) 3号掘立柱建物跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の西北端、X38295・Y-45430。 主軸方位：N-28°-W。 重複：なし。

規模と形状：桁行2間×梁間不明、1辺約9m、東側が調査区外に出るため、全体の形状は不明。

柱穴：3基検出された。検出された柱穴はいずれも平面楕円形ないし円形状を呈している。

第1節 西野原遺跡（1）の遺構と遺物

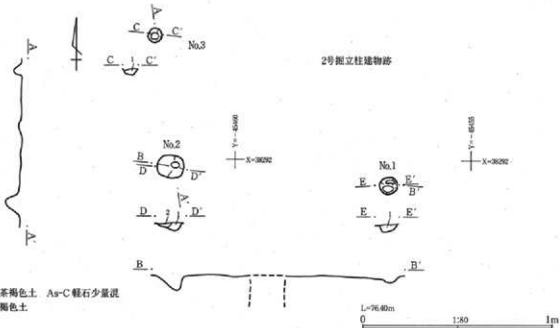
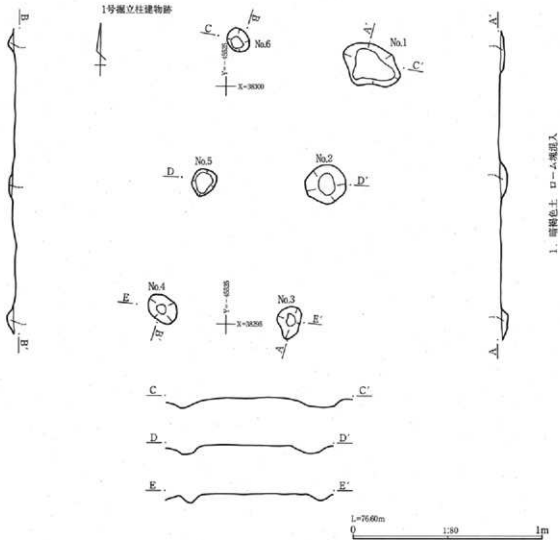


図3 西野原遺跡（1）1・2号掘立柱建物跡平面図・柱穴土層断面図・エレベーション図

### 第3章 発見された遺構と遺物

No.1 長径1.20m・短径0.79m・深さ0.21m、No.2 長径1.12m、短径0.98m、深さ0.31m、No.3 長径1.09m・短径0.94m・深さ0.20m 柱穴内の埋土は、As-C軽石及びHr-S軽石を含む黒褐色土をベースとする。

時期：不詳。

3号掘立柱建物跡

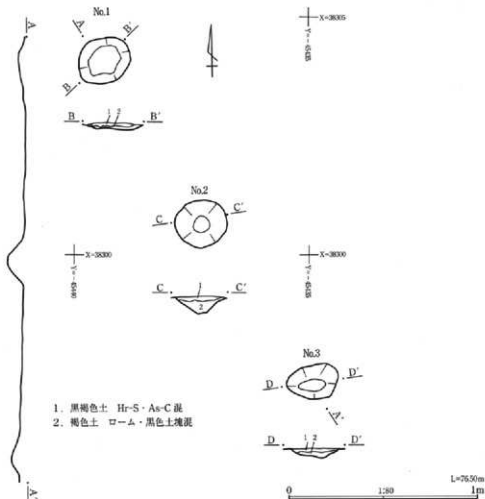


図4 西野原遺跡(1) 3号掘立柱建物跡平面図・柱穴土層断面図・エレベーション図

### 第2項 溝跡

西野原遺跡(1)では、溝跡は15条検出されている。南北方向系統に流れるものは北北東あるいは北北西方向から南南西あるいは南南東方向に流れるものが多いが、調査区の東端付近では急に北東～南西方向に流れるものが多くなる。微妙な地形の変化に拠るものと考えられる。また、調査区自体が南北に狭く、東西方向にも限られているため、北関東自動車道本線部分(西野原遺跡(3))や調査区外に続いているものが少なく、本調査区における検出内容からでは全貌が明らかにしがたい部分が少なくない。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの溝跡の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは溝跡自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。



## (1) 1号溝跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の西端部、X38290~38300・Y-45520。重複：2・3・4号溝跡を一部破壊する。規模と形状：確認全長13.2m・最大上幅2.88m・下幅0.81m・深さ1.66m、断面は緩やかな逆三角形形状を呈する。北北東~南南西方向に流れ、北端は調査区北限の手前で止まり、南側は北関東自動車道本線調査区(西野原遺跡(3))に続く。埋土：暗褐色土をベースとする。

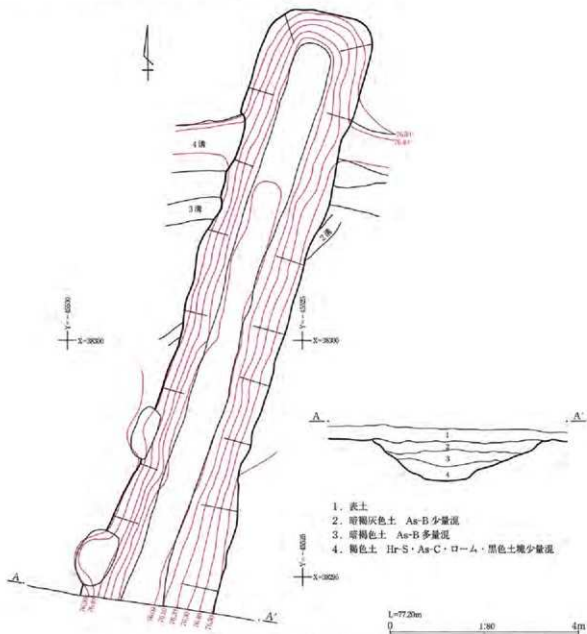


図5 西野原遺跡(1)1号溝跡平面図・土層断面図

## (2) 2号溝跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の西端部、X38290~38300・Y-45525~45530。重複：1・4号溝跡に破壊される。規模と形状：確認全長10.5m・最大上幅0.44m・下幅0.18m・深さ0.18m、断面は緩やかな逆三角形形状を呈する。埋土：暗褐色灰色土をベースとする。

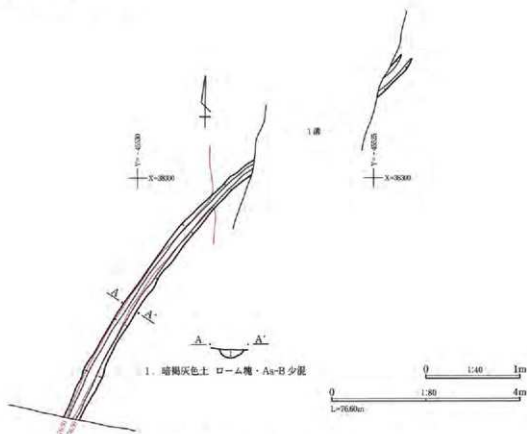


図6 西野原遺跡(1) 2号溝跡平面図・土層断面図

### (3) 3号溝跡

**位置:** 西野原遺跡(1) 調査区の西半分を西北西～東南東方向に流れる。X38280～38290・Y-45470～45530。 **重複:** 4号溝跡に一部破壊され、6・8・15号溝跡を破壊する。 **規模と形状:** 確認全長54.6m、西北端より35.7mの地点で分岐し、ほぼ直角に曲がって南流する3a号溝は、全長5.8m。3号溝跡と続く3b号溝跡の最大上幅1.05m・下幅0.85m・深さ0.52m。西北端は調査区外に、東南端は北関東自動車道本線調査区(西野原遺跡(3))に続く。ほぼ直線的に流れる。 **埋土:** 暗褐色土をベースとする。

### (4) 4号溝跡

**位置:** 西野原遺跡(2) 調査区の西寄りの位置、一部で3号溝跡と交差するものの3号溝跡とほぼ並行して西北西～東南東方向に流れ、3a号溝跡と並行して直角に曲がる。X38280～38290・Y-45470～45530。 **重複:** 3号溝跡に一部破壊される。 **規模と形状:** 確認全長39.4m、西北端より34mの地点でほぼ直角に曲がる。 **埋土:** 暗褐色土をベースとする。

#### 西野原遺跡(1) 4号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②地成 ③胎土	器形・整形の特徴、備考
4溝-1	陶器 打火皿	埋土 約1/4残存	推定口径9.7、底径4.1、 器高1.6、器厚0.7	①5YR4/4赤褐色土 ②良好 ③緻密	轆轤整形、底部回転糸切り、輪郭潰け跡付。
4溝-2	陶器 壺付碗	埋土 破片	器厚0.35	①白色 ②良好 ③緻密	口縁部内面2重圓線模様、体部外面葉状模様。近傍。





図8 西野原遺跡(1) 4号溝跡出土遺物

(5) 5号溝跡

**位置:** 西野原遺跡(1) 調査区の中央部西寄り付近の位置を北西から南東方向に流れる。X38290~38300・Y-45470~45510。北西端は調査区外に出、東端はX38290・Y-45470Gr.で9号溝跡に合流する。**重複:** X38290・Y-45490Gr.にて15号溝が南南西方向に分岐、X38290・Y-45480Gr.付近にて8号溝跡が南方向に分岐する。15号溝跡を破壊する。**規模と形状:** 確認全長39.7m、最大上幅1.7m・下幅1.1m・深さ0.7m、断面は緩やかな逆三角形形状を呈する。調査区の中央部西寄り付近の位置を3・4号溝にほぼ並行して北西から南東方向に流れ、北西端より南東に約31mの地点で約120度屈曲し北東方向に向かって流れ、9号溝に合流する。**埋土:** 暗灰色砂質土をベースとする。

西野原遺跡(1) 5号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴、備考
5溝-1	陶器 埋鉢跡	埋土 破片	器厚0.9	①5YR4/4赤褐色土 ②良好 ③緻密	縦軸整形、体部内面環状痕、19世紀。
5溝-2	磁器 染付碗	埋土 底部のみ約 1/3破片	残存器高1.9、器厚1.8	①白色 ②良好 ③緻密	胎付高台、高台部外面3重圓線模様、近世。



図9 西野原遺跡(1) 5号溝跡出土遺物

(6) 6号溝跡

**位置:** 西野原遺跡(1) 調査区の中央部南寄りの位置を北~南方向に流れ、南端は北関東自動車道本線調査区(西野原遺跡(3))に続く。X38280・Y-45460。**重複:** 北端を3b号溝跡に破壊される。**規模と形状:** 確認全長1.7m・最大上幅0.4m・下幅0.2m・深さ0.03m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。**埋土:** 暗褐色土をベースとする。

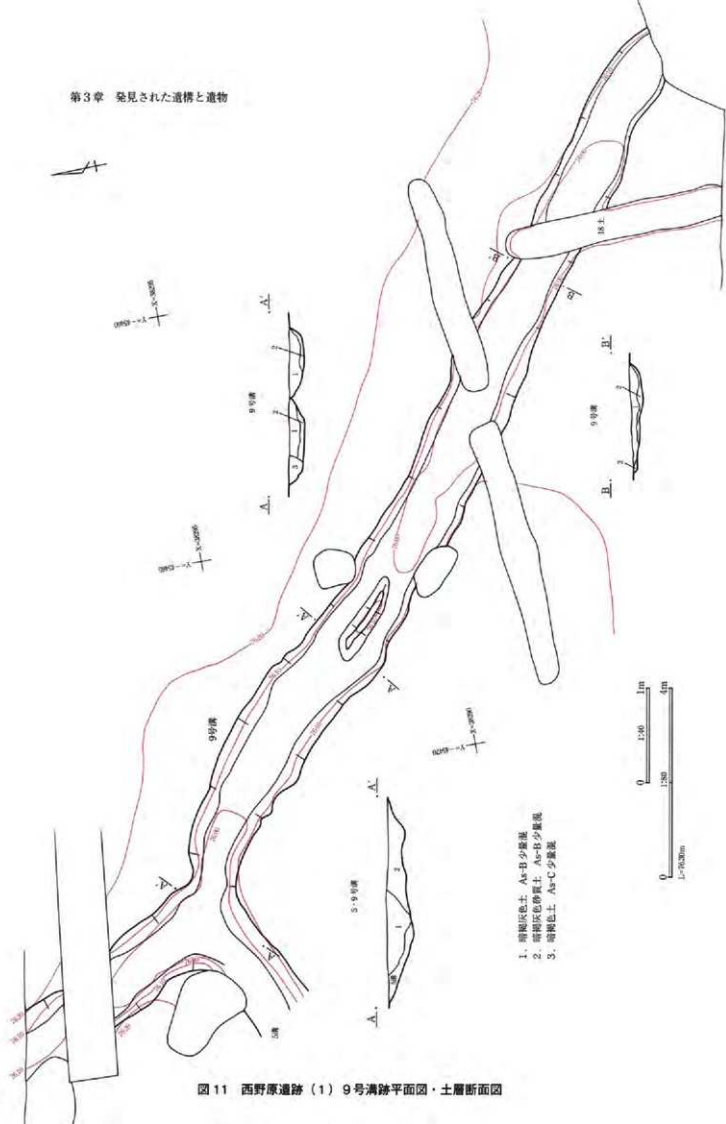
(7) 7号溝跡

**位置:** 西野原遺跡(1) 調査区の中央部南寄り、X38280・Y-45475の範囲を3b号溝跡とほぼ並行して北西~南東方向に流れる。**重複:** なし。**規模と形状:** 確認全長4.28m・上幅0.34m・下幅0.21m。北西端南東端ともに表土の削平により途中で検出不可能になる。**埋土:** 暗褐色土をベースとする。

(8) 8号溝跡

**位置:** 西野原遺跡(1) 調査区の中央部、南端寄り、X38280~38290・Y-45475の範囲を北~南方向に流れる。北端は、X38290・Y-45480Gr.付近の5号溝跡屈曲部に発し、調査区南端の少し手前で表土の削平に





- 1. 暗褐色土 As-B少量混
- 2. 暗褐色砂質土 As-B少量混
- 3. 暗褐色土 As-C少量混

図11 西野原遺跡(1) 9号溝跡平面図・土層断面図

より検出できなくなる。重複：3b号溝跡に破壊される。規模と形状：確認全長3.8m・上幅0.75m・下幅0.04m・深さ0.5m。埋土：暗褐色土をベースとする。

#### (9) 9号溝跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の中央部やや東寄りの位置を北西～南東方向に流れる。X38280～38295・Y-45455～-45475。北端は調査区外に出、南東端はX38285・Y-45455Gr.付近で現代の攪乱により破壊され検出できなくなる。重複：なし。規模と形状：確認全長25.5m・上幅1.68m・下幅1.12m・深さ0.57m。埋土：暗灰色土をベースとする。

#### (10) 10号溝跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の東端の位置。X38285～38305、Y-45400～-45450。北端は調査区外に出、南東端はX38285・Y-45455Gr.付近で確認面の削平により検出できなくなる。重複：12号溝跡を破壊する。規模と形状：確認全長14.5m、上幅0.89m、下幅0.52m、深さ0.11m。北西から南東方向に流れていたと考えられる溝が、調査区内に入ったところで、ほぼ直角にまがり11号溝跡と並行して南西方向に流れる。埋土：暗灰色土をベースとする。

#### (11) 11号溝跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の東端、Y-45430～-45450。南西端はX38295・Y-45430Gr.付近に現代に掘削された攪乱によって破壊され、北東端はX38295・Y-45435Gr.付近で確認面の削平により検出できなくなる。重複：なし。規模と形状：確認全長7.6m、上幅0.72m、下幅0.41m、深さ0.14m。10号溝跡とはほぼ並行して北東～南西方向に流れ、X38300・Y-45440Gr.南でほぼ直角にまがり、南東方向に向きを変える。埋土：暗褐色土をベースとする。

#### (12) 12号溝跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の東端の位置。X38300・Y-45440。西端は10号溝跡によって破壊され、東端はX38300・Y-45440Gr.西側で確認面の削平により検出できなくなる。重複：10号溝跡に破壊される。規模と形状：確認全長1.7m、上幅0.73m、下幅0.52m、深さ0.13m。埋土：暗灰色土をベースとする。

#### (13) 13号溝跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の東端、X38285～38295・Y-45435の範囲をほぼ南北方向に流れる。南端はX38285・Y-45435Gr.の北側で、北端はX38295・Y-45435Gr.のすぐ北側で、それぞれ確認面の削平により検出できなくなる。重複：なし。規模と形状：全長8.92m・上幅1.28m・下幅0.99m・深さ0.11m。埋土：暗褐色土をベースとする。

#### (14) 14号溝跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の東端、X38235～38290・Y-45430の範囲を北北東～南南西方向に流れる。北東端は調査区外に出る。南端はX38290・Y-45435Gr.の北東で確認面の削平により検出できなくなる。重複：なし。規模と形状：全長4m・上幅0.514・下幅0.3m・深さ0.09m。埋土：暗褐色土。

第3章 発見された遺構と遺物

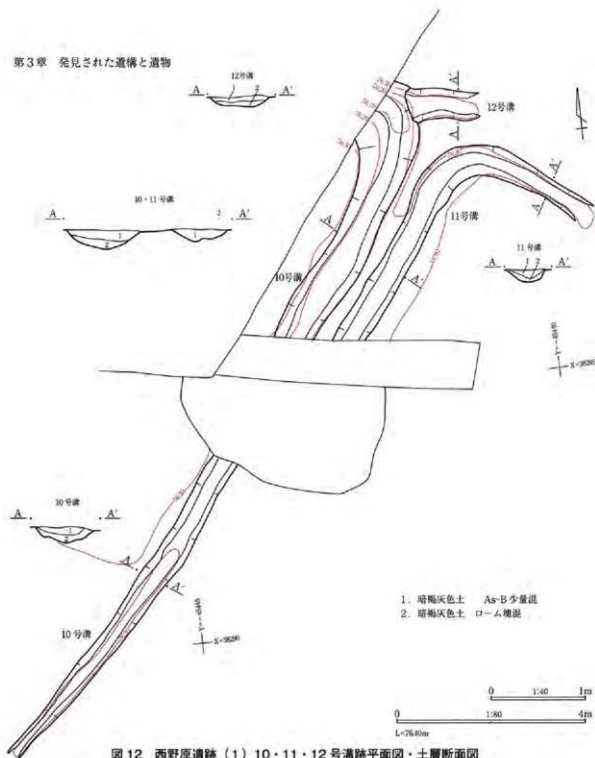


図12 西野原遺跡(1) 10・11・12号溝跡平面図・土層断面図

(15) 15号溝跡

**位置:** 西野原遺跡(1) 調査区のはほぼ中央部。X38295・Y-45495の範囲を北北東～南南西方向に流れる。  
**重畳:** 南端を3号溝跡に破壊され、北端を5号溝跡に破壊される。  
**規模と形状:** 確認全長3.7m・上幅0.1m・下幅0.5m・深さ0.12m。南北端を他溝で破壊され、わずか長さ3.7m分しか検出できなかったため、詳細は不明な点が少ない。  
**埋土:** 暗褐色砂質土をベースとする。

西野原遺跡(1) 15号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	部 種	出土状況 残存状況	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土、 器 形 ・ 整 形 の 特 徴、備 考
15溝-1	青磁 瓦	埋土 破片	残存器高2.4、器厚0.3	①薄青緑色 ②良好 ③ 縦橢圓形、貼付高台、中・近世。 緻密。



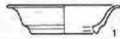


図13 西野原遺跡(1)15号溝跡出土遺物

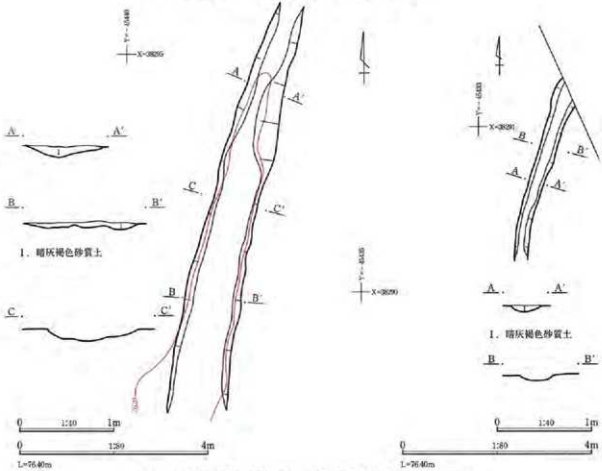


図14 西野原遺跡(1)13・14号溝跡平面図・土層断面図

### 第3項 土坑跡

西野原遺跡(1)では、土坑跡は18基検出されている。いずれも用途不明の穴である。調査区の中央部から西寄り一帯では検出密度が非常に薄い。調査区中央部から東寄り一帯にかけては溝状の南北に長い長隅丸長方形の土坑跡が目立つ。また、東端一帯では比較的まとまって検出されている。ただし、こうした分布の理由は、不明である。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの土坑の時期は不明であるが、それらのいくつかにみられる数少ない出土遺物、あるいは土坑自体の形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

#### (1) 1号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の南西端。1号溝跡及び1号掘立柱建物跡の西、2号溝跡の東、X38290・Y-45525～45530。重複：東側を1号溝跡によって破壊される。規模と形状：確認最大径1.2m・深さ

### 第3章 発見された遺構と遺物

0.24m・検出面積0.761㎡、南北に長い楕円形状を呈する。当初、検出位置からみて、北側に並列し、形状が類似する2号土坑跡と共に1号掘立柱建物跡の西辺を形成する柱穴とも考えられたが、形状や埋土の状態、1点のみで流れ込みである可能性も大きいが一応出土遺物なども勘案すれば1号掘立柱建物跡の柱穴とは考えにくい。埋土：暗灰色土をベースとする。

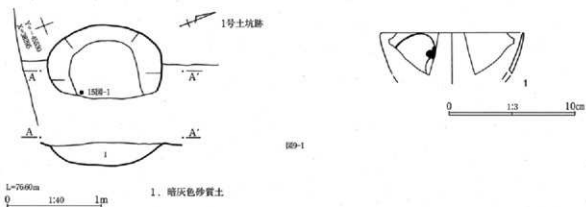


図15 西野原遺跡(1) 1号土坑跡平面図・土層断面図・出土遺物

#### 西野原遺跡(1) 1号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴、備考
1土坑-1	磁器 染付焼	埋土 口縁部~一部 部小破片	器厚0.3	①白色 ②良好 ③緻密	体部外面に模様。近世。

#### (2) 2号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の南西端。1号溝跡及び1号掘立柱建物跡の西、2号溝跡の東、X38295・Y-45525。重複：東側を1号溝跡によって破壊される。規模と形状：確認最大径1.09m・深さ0.14m・検出面積0.444㎡、南北に長い楕円形状を呈する。当初、検出位置からみて、南側に並列し、形状が類似する1号土坑跡と共に1号掘立柱建物跡の西辺を形成する柱穴とも考えられたが、形状や埋土の状態からみて1号掘立柱建物跡の柱穴とは考えにくい。埋土：暗灰色土をベースとする。

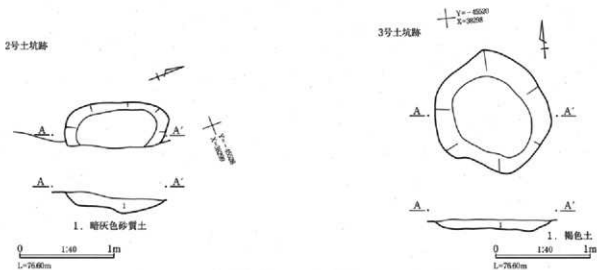


図16 西野原遺跡(1) 2・3号土坑跡平面図・土層断面図

## (3) 3号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の西端付近南寄りの位置。1号掘立柱建物跡の東側に隣接。X38295・Y-45515～-45520。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径1.31m・短径1.24m・深さ0.11m・面積1.147㎡。埋土：褐色土をベースとする。

## (4) 4号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の中央部やや西寄り。5号溝跡の南側に隣接する。X38295・Y-45490。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径1.09m・短径1.06m・深さ0.21m・検出面積0.847㎡。埋土：暗褐色土をベースとする。

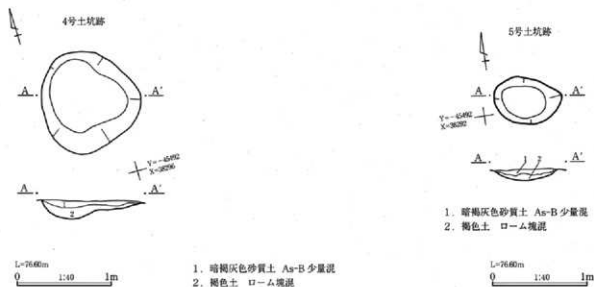


図17 西野原遺跡(1) 4・5号土坑跡平面図・土層断面図

## (5) 5号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の中央部やや西寄り。3号溝跡の南側に隣接。X38290・Y-45490。重複：なし。規模と形状：東西に長い楕円形状を呈し、長径0.71m・短径0.19m・深さ0.12m・面積1.595㎡。埋土：暗褐色土をベースとする。

## (6) 6号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の中央部やや南寄り付近。20号土坑跡の東側に隣接。X38290・Y-45475。重複：北隅のごく一部を現代の機具により破壊される。規模と形状：南北に長い楕円形状を呈し、長径1.05m・短径0.82m・深さ0.23m・面積1.283㎡。埋土：暗褐色土をベースとする。

## (7) 8号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の中央部西寄り付近。2号掘立柱建物跡内、22号土坑跡のすぐ北西隅に隣接。X38285・Y-45455。重複：2号掘立柱建物跡の範囲内に入るが、同建物跡との関係は無い。規模と形状：東西に長い形状を呈し、長径1.51m・短径0.66m・深さ0.25m・面積1.133㎡。埋土：黒褐色土をベースとする。

### 第3章 発見された遺構と遺物

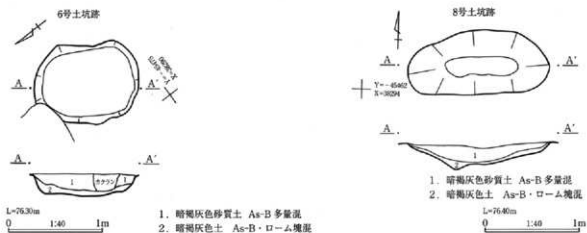


図18 西野原遺跡(1) 6・8号土坑跡平面図・土層断面図

#### (8) 9号土坑跡

位置：西野原遺跡(1) 調査区の中央部南東寄り付近、西側に17号土坑跡が隣接。X38285・Y-45455。  
 重複：なし。規模と形状：北東～南西方向にやや長い楕円形状を呈し、長径1.15m・短径0.85m・深さ0.06m・面積0.832㎡。埋土：黒褐色土をベースとする。

#### (9) 10号土坑跡

位置：西野原遺跡(1) 調査区の中央部東寄り付近、南側に17号土坑跡が隣接。X38285・Y-45455。重  
 複：なし。規模と形状：東西に長い楕円形状を呈し、長径1.45m・短径0.94m・深さ0.34m・確認面積0.828  
 ㎡。埋土：褐色土をベースとする。

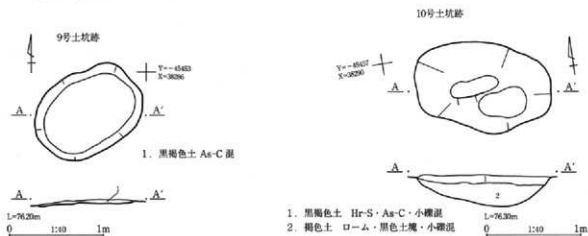


図19 西野原遺跡(1) 9・10号土坑跡平面図・土層断面図

#### (10) 12号土坑跡

位置：西野原遺跡(1) 調査区の東端。19号土坑跡のすぐ北側、15号土坑跡のすぐ東側。東側は調査区外  
 に出る。X38285・Y-45425。重複：なし。規模と形状：楕円状を呈し、現存最大径1.41m・深さ0.58m・  
 面積1.076㎡。埋土：黒褐色土をベースとする。

## (11) 14号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の東端寄り。西側を13号溝跡に、東側を14号溝跡に、それぞれ挟まれた空間に所在。X38290・Y-45435。重複：なし。規模と形状：南北に長い楕円形状を呈し、長径2.81m・短径2.14m・深さ0.11m・面積4.697㎡。埋土：黒褐色土をベースとする。

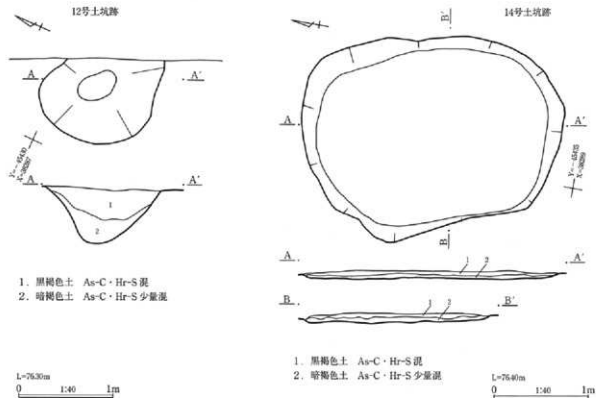


図20 西野原遺跡(1) 12・14号土坑跡平面図・土層断面図

## (12) 15号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の東端付近。19号土坑跡の北側に、12号土坑跡の西側に隣接。X38280-38285・Y-45430。重複：なし。規模と形状：東北～南西にやや長い隅丸長方形形状を呈し、長径2.71m・短径1.35m、深さ0.39m、面積3.045㎡。埋土：暗褐色土をベースとする。

## (13) 16号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の東端寄り。13号溝跡の西側に隣接。X38285・Y-45350。重複：なし。規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈し、長径3.18m・短径0.69m・深さ0.37m、面積2.121㎡。埋土：暗褐色土をベースとする。

## (14) 17号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の中央部やや東寄り。9号土坑跡の西に隣接。18号土坑跡と東西に並立する。X38280-38285・Y-45450。重複：なし。規模と形状：南端が破壊されているため全容は不明であるが、南北に長い溝状を呈し、確認最大長4.08m・上幅0.72m・下幅0.45m・深さ0.22m・検出面積2.777㎡。埋土：暗褐色土をベースとする。

第3章 発見された遺構と遺物

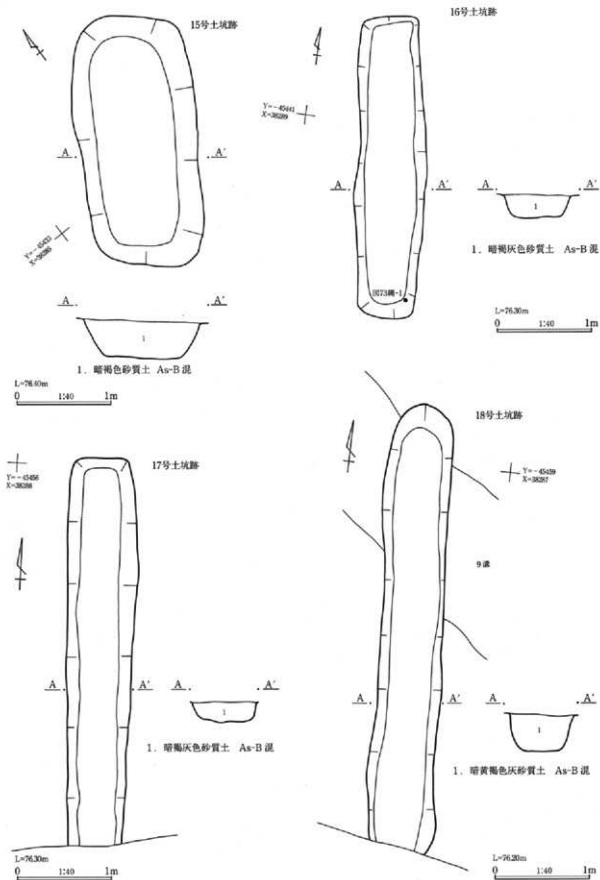


図21 西野原遺跡(1) 15~18号土坑跡平面図・土層断面図

(15) 18号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の中央部やや東寄り南端。X38280～38285・Y-45455。重複：9号溝跡を破壊する。17号土坑跡と東西に並列する。規模と形状：南北に長い溝状を呈し、確認最大長4.71m・上幅0.68m・下幅0.51m・深さ0.38m・面積3.078㎡。埋土：暗黄褐色土をベースとする。

(16) 19号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区の東南端。X38280・Y-45425。重複：なし。規模と形状：東西に長い楕円形状を呈し、長径2.58m・短径1.34m・深さ3.93m・面積3.93㎡、埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

(17) 20号土坑跡

位置：西野原遺跡(1)調査区のほぼ中央部付近。6号土坑跡のすぐ西隣側、7号溝跡のすぐ北側に隣接。X38285～38290・Y-45475。重複：5号溝跡を一部破壊する。規模と形状：南北に長い溝状を呈するが、南北端共に止まるため土坑と解釈した。長径5.82m・上幅0.78m、深さ0.52m、面積4.543㎡。埋土：暗黄褐色土をベースとする。

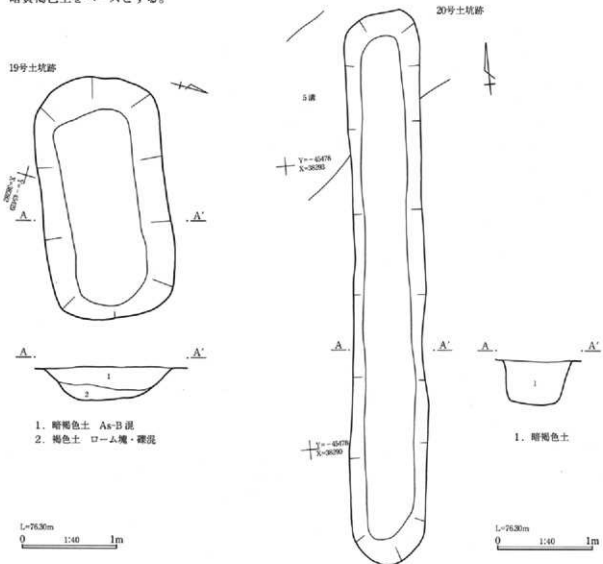


図22 西野原遺跡(1) 19・20号土坑跡平面図・土層断面図

第3章 発見された遺構と遺物

(18) 22号土坑跡

位置：西野原遺跡（1）調査区の中央部やや東寄り。18号土坑跡の北側。X38290・Y-45455。重複：2号掘立柱建物跡の南辺と交差。規模と形状：南北に長い溝状を呈し、全長3.45m・上幅0.87m・下幅0.56m・深さ0.48m・面積2.58㎡。埋土：黒褐色土をベースとする。

22号土坑跡

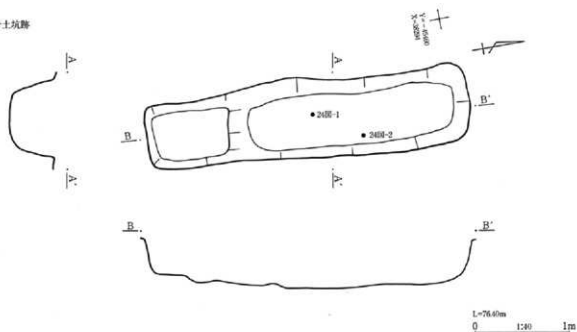


図23 西野原遺跡（1）22号土坑跡平面図・エレベーション図

西野原遺跡（1）22号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴、備考
22土坑-1	磁器 染付焼 (ミニチュア)	埋土 完形	口径24、底径11、器高 09、器厚0.25	①白色 ②良好 ③緻密	体部外面に模様が有り。祭具(神棚・仏壇等用か?)。近世か近代。
22土坑-2	磁器 染付焼	埋土 破片	器厚0.45	①白色 ②良好 ③緻密	体部外面に模様。近世。

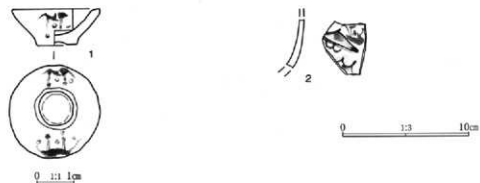


図24 西野原遺跡（1）22号土坑跡出土遺物

第4項 遺構外出土遺物



西野原遺跡(1)グリッド出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴、備考
西野原遺 跡(1)グ リッド-1	鉛製 鉄砲玉	X38295Y-454 90Gr.埋土 完形	径1.3、重さ13.3g	①にふい白色	破裂痕有り。近世。



0 1:2 5cm

図25 西野原遺跡(1)遺構外出土遺物

## 第2節 西野原遺跡（2）の遺構と遺物

平成16年度に発掘調査された西野原遺跡（2）では、石田川流域調節池の建設に伴い、北側に隣接して平成17年度末まで調査された西野原遺跡（5）で発掘調査された7世紀末の大規模な製鉄・鍛冶関連遺構群の縁辺に当たる箇所が検出された。西野原遺跡（2）の調査区内では、製鉄・鍛冶関連の遺構は、わずかに調査区南東隅において検出された124号竪穴建物跡から小規模な鍛冶孔が検出されているに過ぎないが、調査区の北側に展開する西野原遺跡（5）調査区で検出された製鉄・鍛冶遺構群の関連と位置づけられる。

西野原遺跡（2）調査区で検出、調査された主な遺構は、竪穴建物跡12棟、溝跡8条、土坑跡43基である。

### 第1項 竪穴建物跡

西野原遺跡（2）では、竪穴建物跡は12棟検出されている。116号竪穴建物跡が弥生時代のもと考えられる他は、いずれも古墳時代後期の竪穴建物跡である。古墳時代の竪穴建物跡はいずれも竈を有し、竈の位置はおおむね北西方向であるが、そうでないものもある。

なお、西野原遺跡（2）範囲内では、竪穴建物相互の重複は少ない。

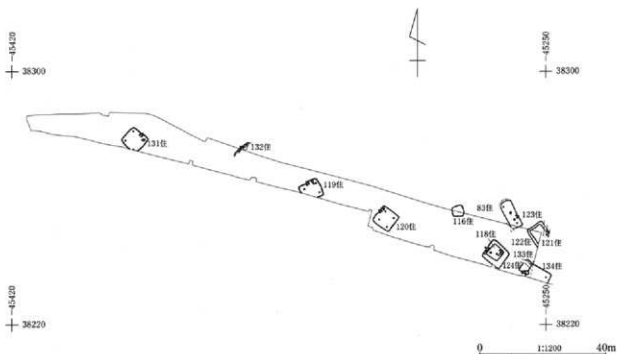


図 26 西野原遺跡（2）竪穴建物跡分布図

#### (1) 116号竪穴建物跡

位置：西野原遺跡（2）の北東隅付近、X38250・Y-45270。北側約半分が西野原遺跡（5）調節池調査区にかかる。床面積：11.244㎡。主軸方位：N-2°-E。重複：なし。規模と形状：長辺約3.5m・短

辺約2.5m・深さ0.35mの不等辺四角形状を呈する。埋土：黒褐色土ベース。床面：地山を平坦に削り整えて形成。床面下の遺構等は検出されなかった。掘り方：堀方と床面はほぼ一致。時期：出土遺物から弥生時代後期と考えられる。弥生時代の竪穴建物跡は、これまで旧塚塚本町域では報告されておらず、本遺跡における調査例が当該地域における初例となる。なお、北側に隣接する石田川流域調整地調査区(西野原遺跡(5))に弥生時代後期の集落が広がっている。

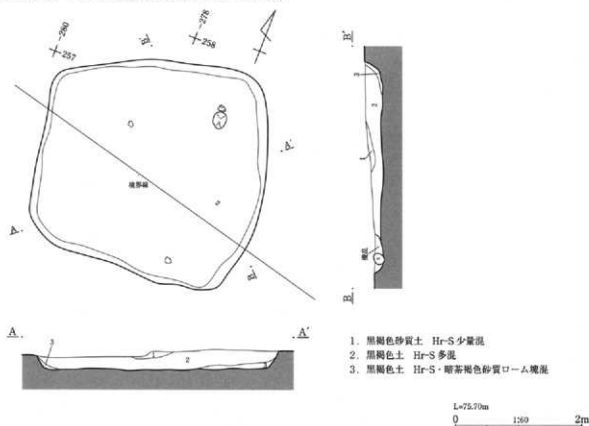


図27 西野原遺跡(2) 116号竪穴建物跡平面図・土層断面図

西野原遺跡(2) 116号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴、備考
116-1	弥生式土器 甕	埋土 口縁部破片	推定口径12.1、残存器高 5.4、器厚0.6	①10YR7/3にふい黄褐色 ②良好 ③径1cm以下の 灰白色・黄褐色・茶褐色粒 子をごく少量含む	口縁外面直下から頂部にかけて泥沈線による 格子と斜線状文様、口縁内面荒磨き 弥生時代後期
116-2	弥生式土器 甕	埋土 口縁部破片	推定口径16.2、残存器高 3.4、器厚0.6	①10YR7/3にふい黄褐色 ②良好 ③径1cm以下の 灰白色・黄褐色・茶褐色粒 子をごく少量含む	口縁外面直下から頂部にかけて泥沈線による 格子と斜線状文様、口縁内面荒磨き 弥生時代後期。116-1と同一側体か?



0 1.3 10cm

図28 西野原遺跡(2) 116号竪穴建物跡出土遺物

## (2) 118号竪穴建物跡

位置：西野原遺跡(2)遺跡の南東隅付近、X38235・Y-45260。床面積：42.948㎡ 主軸方位：N-2°-W 重複：ほぼ中央を124号住居跡に破壊される。規模と形状：長辺約6.6m・短辺約6.1m・深さ0.4mの正方形に近い長方形形状を呈する。埋土：黒褐色土をベースとする。床面：地山を平坦に削り整えて形成。床面下の遺構等は検出されなかった。竈跡：南西側壁面のほぼ中央に取り付く。燃焼部・煙道等は地山を削りだして構築される。両袖は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側につくられる。煙道は燃焼部奥壁から緩やかに立ち上がる。燃焼部内壁はよく焼けており、燃焼部内には焼土・炭化物の堆積がみられる。貯蔵穴：南西側、竈のすぐ傍りに位置し、規模は長径約0.84m・短径約0.69m・深さは約0.15m。堀り方：堀方と床面とはほぼ一致。時期：出土遺物から古墳時代後期、5世紀末～6世紀初頭頃と考えられる。

## 西野原遺跡(2) 118号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
118-1	土師器 坏	磁埋土 約1/3片	推定口径142、器高41、 器厚0.7	①10YR7/2にぶい黄褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横 方向磨削り、底部外面磨削り、底部内面斜方向撫で。
118-2	土師器 坏	埋土 約1/3片	推定口径140、器高46、 器厚0.6	①5YR6/3にぶい黄褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部外面横方向磨削り、体部 内面横撫で、底部外面磨削り、底部内面斜方向撫で、 6世紀前半。
118-3	土師器 坏	埋土 口縁部約1/5 片	推定口径129、推定器高 38、器厚0.4	①10YR5/2 灰黄褐色 ②良好 ③径1mm以下～1 mm程度の灰白色・茶褐色 粒子を多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内外面横撫で、底部外面 磨削り、底部内面斜方向撫で。
118-4	土師器 钵	磁埋土 約2/3残存	口径173、底径85、器高 80、器厚1.0	①10YR8/3浅黄褐色 ② 良好 ③径1mm以下～1mm 程度の黒褐色・茶褐色粒 子を多量に含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜方向撫で、体 部外面横・斜方向磨削り、底部内面斜方向撫で、底 部外面磨削り。
118-5	土師器 広口壺	磁埋土 約4/5残存	口径139、器高108、器厚 1.4	①10YR8/4浅黄褐色 ② 良好 ③径1mm以下～2mm 程度の黒褐色・茶褐色粒 子・灰白色粒子をやや多 く含む。やや粗い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜方向撫で、体 部外面横・斜方向磨削り、底部内面斜方向撫で、底 部外面磨削り。
118-6	土師器 甕	埋土 口縁部1/4残 存、体部約 3/5残存	推定口径156、残存器高 89、器厚1.1	①10YR8/2灰白色 ②良 好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜方向撫で、体 部外面横・斜方向磨削り。
118-7	土師器 甕	埋土 約4/5残存	口径139、器高108、器厚 1.4、底部孔径31	①5YR6/6褐色 ②良好 ③径1mm以下～2mm程 度の灰白色粒子を大量に 含む。やや粗い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜方向撫で、体 部外面横・斜方向磨削り。
118-8	土師器 坏	床面直上 約2/3残存	口径135、器高38、器厚 0.6	①7.5YR7/4にぶい褐色 ②良好 ③径1mm以下の 灰白色・黒褐色粒子を多 く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜方向撫で、底 部外面磨削り。

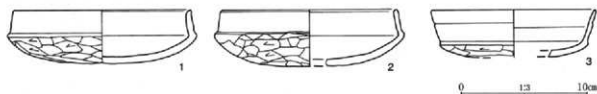


図29 西野原遺跡(2) 118号竪穴建物跡出土遺物(1)

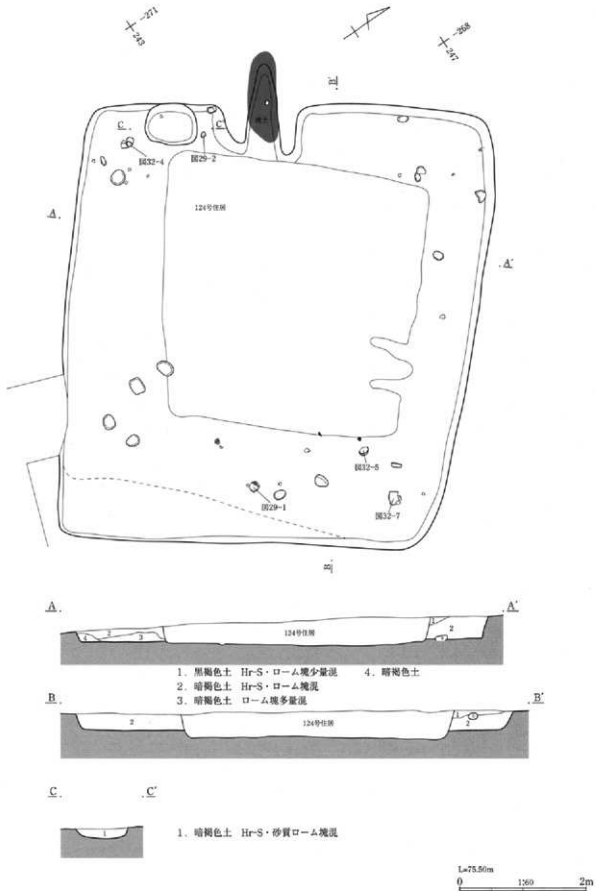


図30 西野原遺跡(2) 118号竪穴建物跡平面図・土層断面図

第3章 発見された遺構と遺物

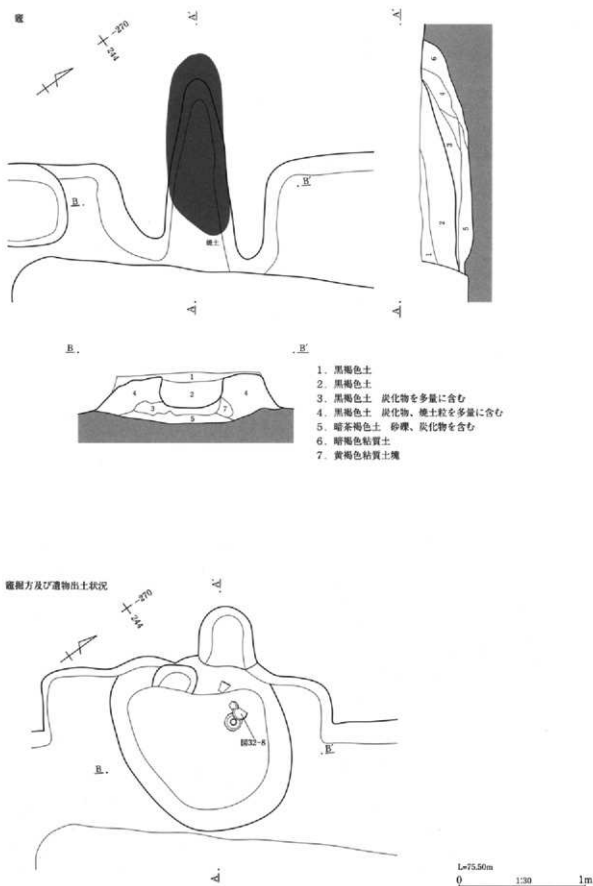


図31 西野原遺跡(2) 118号竪穴建物跡電微細図・同土層断面図・同堀方平面図

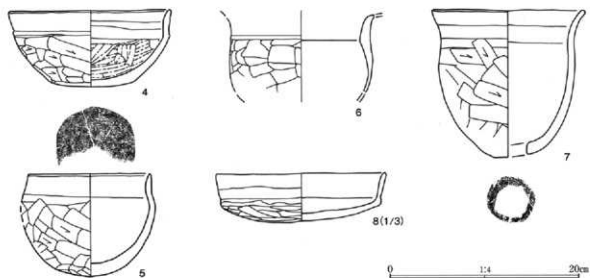


図32 西野原遺跡(2) 118号竪穴建物跡出土遺物(2)

## (3) 119号竪穴建物跡

**位置:** 西野原遺跡(2) 調査区のはほぼ中央付近、X38260・Y-45320。 **検出床面積:** 42.804㎡。 **主軸方位:** N-38°-E。 **重複:** なし。 **規模と形状:** 長辺約6.1m・短辺約6m・深さ0.42mの方形状を呈する。南東辺と南西辺が一部調査区外にかかり、正確な形状は不明である。 **埋土:** Hr-Sを多く含む黒褐色土をベースとする。 **床面:** 地山を平坦に削り整えて形成。床面下の遺構等は検出されなかった。住居跡東北隅一帯の床面上から土師器杯が15点出土しており、とくにNo.1柱穴・pitNo.4周辺、貯蔵穴北東隣付近で顕著である。いずれも丸底の小型の杯であり、住居廃絶に伴って何らかの祭祀行為が執り行われた可能性が考えられる。 **竈跡:** 北西側壁面のはほぼ中央に取り付く。燃焼部・煙道等は地山を削りだして構築される。両袖は住居内に大きく張り出し、土師器長胴甕を倒置して竈袖の芯材とし、上から粘土を貼り付けて形成している。燃焼部は住居壁の内側につくられる。煙道は平坦な燃焼部の奥壁から緩やかに立ち上がるが、燃焼部内の焼土・炭化物の堆積は余り顕著ではない。竈左袖前一部に径5~20cm程度の河原石椽の自然石と土器片が集中的出土している。 **柱穴:** 3基検出された。1基は南西側の調査区域外未調査部分にかかっているものと思われる。検出された柱穴はいずれも平面円形状を呈している。No.1 径0.39m・深さ0.19m、No.2 長径0.36m・短径0.35m・深さ0.23m、No.3 長径0.39m・短径0.37m・深さ0.19m、**ほかPit** pitNo.1のすぐ北西隣に長径0.41m・短径0.39m・深さ0.25mのpitNo.4が検出された。pit内からは多量の土器片が出土している。 **貯蔵穴:** pit4の隣接してすぐ北西側、竈の北東側に位置し、径0.69m、深さ0.18m、体部に稜を有する須恵器模倣の土師器杯及び丸底の小型杯が縁辺にかかる形で、また孔内からは土師器甕などが出土している。縁辺にかかって出土した杯は、床面上から出土した十数点の杯の一環である可能性も指摘できる。 **時期:** 出土遺物から古墳時代後期、5世紀末~6世紀初頭頃と考えられる。

## 西野原遺跡(2) 119号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴
119-1	土師器 杯	埋土 宛影	口径9.4、器高3.8、器厚0.6	①色調 ②焼成 ③粘土 ①7.5YR5/3にふい褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。

第3章 発見された遺構と遺物

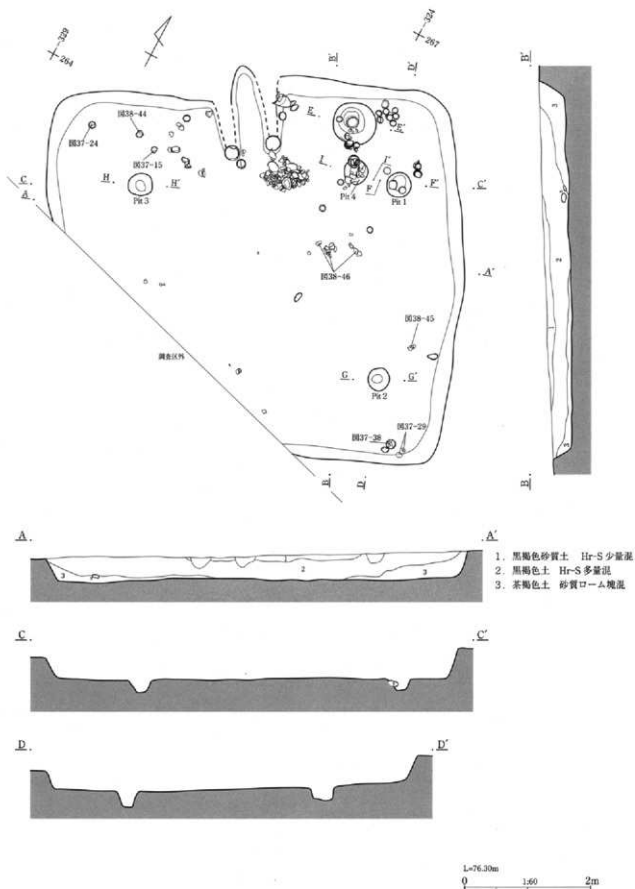


図33 西野原遺跡(2) 119号竪穴建物跡平面図・土層断面図・エレベーション図



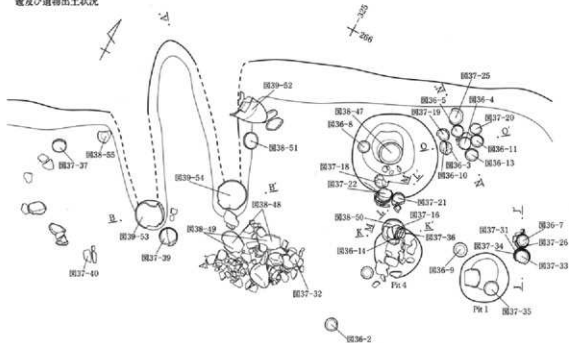
第2節 西野原遺跡(2)の遺構と遺物



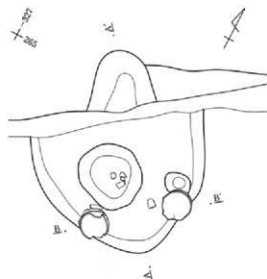
1. 暗褐色土 ローム粒子混



敷及び遺物出土状況



方位方



1. 暗褐色土 Hr-S・焼土粒少量混。
2. 明黄灰色粘質土 Hr-Sを少量混含む。
3. 赤褐色土 粘質土が被熱して硬化赤化した塊。

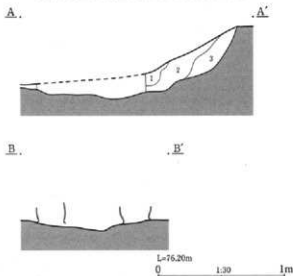


図34 西野原遺跡(2) 119号竪穴建物跡柱穴土層断面図・龜微細図・同堀方平面・同土層断面図

第3章 発見された遺構と遺物

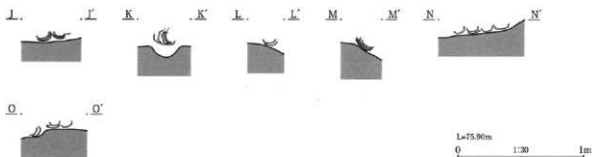


図 35 西野原遺跡(2) 119号竪穴建物跡遺物出土状況エレベーション図

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③粘土	器形・整形の特徴
119-2	土師器 環	竈南東床面直上 完形	口径9.6、器高4.3、器厚1.2	①10YR6/2 灰黄褐色 ②良好 ③径1mm以下の 灰白色粒子をごく少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。底部に井桁状記号様の線刻あり。
119-3	土師器 環	貯蔵穴北東 傍床面直上 完形	口径9.8、器高4.2、器厚1.0	①10YR6/2 灰黄褐色 ② 良好 ③径1mm以下～ 1mm程度の灰白色粒子 を多量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
119-4	土師器 環	貯蔵穴北東 傍床面直上 完形	口径9.4、器高4.8、器厚1.3	①7.5YR7/4 に近い橙色 ②良好 ③径1mm以下の 灰白色粒子をやや多く含む。 砂礫を含む。やや粗い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
119-5	土師器 環	貯蔵穴北東 傍床面直上 完形	口径10.0、器高4.2、器厚0.9	①10YR7/3 に近い黄褐色 ②良好 ③径1mm以下 の灰白色・黒褐色粒子 をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
119-6	土師器 環	Pit4 南西傍 床面直上 完形	口径10.2、器高4.5、器厚0.9	①7.5YR7/4 に近い橙色 ②良好 ③径1mm以下～ 3mm程度の砂礫をやや多 く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
119-7	土師器 環	Pit1 北東傍 床面直上 完形	口径10.9、器高4.1、器厚1.1	①7.5YR6/3 に近い橙色 ②良好 ③径1mm以下の 灰白色粒子をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
119-8	土師器 環	貯蔵穴内 完形	口径10.4、器高4.2、器厚1.0	①7.5YR7/6 橙褐色 ②良 好 ③径1mm以下の灰白 色粒子を若干含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。底部に木葉痕状風形あり。
119-9	土師器 環	Pit1 北西傍 床面直上 完形	口径10.9、器高4.5、器厚0.9	①7.5YR7/2 明褐色 ②良好 ③径1mm以下～ 2mm程度の灰白色粒子 をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
119-10	土師器 環	貯蔵穴北東 傍床面直上 完形	口径11.0、器高3.6、器厚0.7	①7.5YR6/4 に近い橙色 ②良好 ③径1mm以下の 灰白色粒子を少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
119-11	土師器 環	貯蔵穴北東 傍床面直上 完形	口径9.9、器高4.3、器厚0.8	①7.5YR7/4 に近い橙色 ②良好 ③径1mm以下～ 1mm程度の灰白色粒子を 多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。

## 第2節 西野原遺跡(2)の遺構と遺物

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
119-12	土師器 坏	羅南西床面直上 完形	口径100、器高48、器厚1.0	①75YR3/1黒褐色 ②良好 ③径1mm以下の灰白色・黄褐色粒子・雲母片等を多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。
119-13	土師器 坏	貯蔵穴北東 傳床面直上 完形	口径100、器高48、器厚1.4	①10YR7/3にぶい黄褐色 ②良好 ③径1mm以下の粒子を多量に含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。
119-14	土師器 坏	埋土	口径100、器高44、器厚0.9	①10YR7/2にぶい黄褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。
119-15	土師器 坏	Pa3北東傳 床面直上 完形	口径100、器高39、器厚1.0	①10YR6/3にぶい黄褐色 ②良好 ③径1mm以下の灰白色粒子を少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。
119-16	土師器 坏	Pa4内 完形	口径100、器高41、器厚1.0	①10YR3/1黒褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。
119-17	土師器 坏	羅南東床面 直上 完形	口径96、器高43、器厚1.2	①10YR3/1黄褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。
119-18	土師器 坏	貯蔵穴北東 傳床面直上 完形	口径109、器高45、器厚1.1	①10YR6/2灰黄褐色 ②良好 ③径1mm以下～1mm程度の灰白色・茶褐色粒子をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。
119-19	土師器 坏	貯蔵穴北東 傳床面直上 完形	口径109、器高46、器厚1.2	①10YR7/3にぶい黄褐色 ②良好 ③径1mm以下の灰白色粒子を少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。
119-20	土師器 坏	貯蔵穴北東 傳床面直上 完形	口径101、器高42、器厚0.9	①10YR6/4にぶい黄褐色 ②良好 ③径1mm以下の灰白色粒子を少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。底部に木葉脈痕状線刻あり。
119-21	土師器 坏	貯蔵穴口縁 床面直上 完形	口径104、器高40、器厚0.8	①10YR6/3にぶい黄褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。
119-22	土師器 坏	貯蔵穴口縁 床面直上 完形	口径109、器高41、器厚0.9	①10YR6/3にぶい褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。底部に木葉脈痕状線刻あり。
119-23	土師器 坏	貯蔵穴内 完形	口径101、器高40、器厚1.0	①10YR6/2灰黄褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。底部に木葉脈痕状線刻あり。
119-24	土師器 坏	住居北西隅 床面直上 完形	口径116、器高46、器厚0.8	①75YR7/2明褐灰色 ②良好 ③径1mm以下の灰白色・櫻褐色粒子をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。
119-25	土師器 坏	貯蔵穴北東 傳床面直上 完形	口径124、器高46、器厚0.6	①75YR6/3にぶい褐色 ②良好 ③径1mm以下～2mm程度の灰白色・茶褐色粒子をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。
119-26	土師器 坏	Pin1北東傳 床面直上 完形	口径120、器高48、器厚0.6	①25YR6/6橙色 ②良好 ③径1mm以下～2mm程度の灰白色・茶褐色粒子を少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向匳削り、底部内面斜方向撫で、底部外面匳削り。

第3章 発見された遺構と遺物

遺物番号	器 種	出土状況 残存状態	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
119-27	土師器 坏	貯蔵穴内 完形	口径 11.5、器高 4.8、器厚 0.8	① 75YR6/4 に近い橙色 ② 良好 ③ 径 1mm 以下～ 1mm 前後の灰白色・茶褐色 色粒子をごく少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横・斜方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外 面施削り。
119-28	土師器 坏	貯蔵穴内 完形	口径 12.1、器高 4.2、器厚 0.9	① 75YR5/3 に近い褐色 ② 良好 ③ 径 1mm 以下～ 2mm 程度の灰白色・茶褐色 色粒子をごく少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横・斜方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外 面施削り。
119-29	土師器 坏	竈南東床面 直上 完形	口径 10.6、器高 4.7、器厚 0.6	① 75YR6/6 褐色 ② 良好 ③ 緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横・斜方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外 面施削り。
119-30	土師器 坏	竈南東床面 直上 完形	口径 12.0、器高 4.4、器厚 1.1	① 75YR5/3 に近い褐色 ② 良好 ③ 径 1mm 以下～ 1mm 程度の灰白色・茶褐色 色粒子をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横・斜方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外 面施削り。
119-31	土師器 坏	Pit1 北東特 床面直上 完形	口径 11.8、器高 4.5、器厚 0.6	① 10YR6/2 灰黄褐色 ② 良好 ③ 緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横・斜方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外 面施削り。
119-32	土師器 坏	竈南東床面 直上 完形	口径 10.9、器高 5.2、器厚 1.0	① 75YR7/4 に近い橙色 ② 良好 ③ 径 1mm 以下～ 1mm 前後の灰白色・黒褐色 色粒子を少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横・斜方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外 面施削り。
119-33	土師器 坏	Pit1 北東特 床面直上 完形	口径 11.0、器高 5.1、器厚 0.9	① 75YR8/6 浅黄褐色 ② 良好 ③ 径 1mm 以下 ～2mm 前後の茶褐色・黒 褐色粒子をやや多く、径 1mm 以下の微細な灰白色 粒子をごく少量含むが緻 密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横・斜方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外 面施削り。
119-34	土師器 坏	Pit1 北東特 床面直上 完形	口径 12.4、器高 5.0、器厚 0.5	① 75YR7/4 に近い橙色 ② 良好 ③ 径 1mm 以下～ 2mm 前後の灰白色・茶褐色 ・黒褐色粒子を多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横・斜方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外 面施削り。
119-35	土師器 坏	Pit1 内 完形	口径 11.6、器高 4.7、器厚 0.9	① 75YR6/6 褐色 ② 良好 ③ 径 1mm 以下～3mm 程度の灰白色粒子をやや 多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横・斜方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外 面施削り。
119-36	土師器 坏	Pit4 内 完形	口径 11.2、器高 5.0、器厚 0.9	① 75YR8/6 浅黄褐色 ② 良好 ③ 径 1mm 以下 の灰白色・茶褐色粒子を ごく微量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横・斜方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外 面施削り。
119-37	土師器 坏	北西壁仲竈 西床面直上 完形	口径 11.1、器高 5.3、器厚 0.6	① 25YR6/8 褐色 ② 良好 ③ 径 1mm 以下～3mm 程度の灰白色粒子をやや 多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横・斜方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外 面施削り。
119-38	土師器 坏	竈穴南東隅 床面直上 口縁部約 3/4 残存、 底部完存	口径 12.4、器高 4.4、器厚 0.5	① 10YR7/4 に近い黄褐色 ② 良好 ③ 緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横方向施削り、底部内面斜・縦方向撫で、底部外 面施削り。
119-39	土師器 坏	埋土 口縁～体部 約 4/5 残存	口径 12.7、器高 4.3、器厚 0.7	① 10YR7/3 に近い黄褐色 ② 良好 ③ 径 1mm 以下～ 1mm 程度の灰白色・茶褐色 色粒子を多量に含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横方向施削り、底部内面斜・縦方向撫で、底部外 面施削り。

## 第2節 西野原遺跡(2)の遺構と遺物

遺物番号	器 種	出土状況 残存状態	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 装 形 の 特 徴
119-40	土師器 杯	壱穴北西隅 床面直上・ 底面直上・ 定形	口径 126、器高 34、器厚 0.5	①10YR7/4にぶい橙褐色 ②やや不良 ③径1mm以下	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横方向施削り、底部内面斜・縦方向撫で、底部外面施削り。
119-41	土師器 杯	埋土 ほぼ定形	口径 182、器高 5.8、器厚 0.5	①10YR4/1 濁灰色 ② 良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横方向施削り、底部内面斜方向撫で、底部外面施削り。
119-42	須恵器 高杯	Pit4内 脚部のみ欠	口径 136、杯身器高 61、 器厚 0.8	①5Y6/1 灰色 ②良好 ③径1mm以下～1mmの灰 白色粒子を少量含む。	機械整形、内外面回転施削り後撫で。 杯身底部に脚部との接合痕あり。
119-43	土師器 甕	埋土 底部のみ	残存器高 46、底径 52、器 厚 12	①7.5YR7/4にぶい橙褐色 ②良好 ③径1mm以下～ 2mm前後の灰白色・黄褐色 色粒子を大量に含む。粗 い。	体部内面横撫で、体部外面縦方向施削り、底部内 面斜方向撫で、底部外面施撫で。
119-44	土師器 甕	北西壁付床 面直上 底部のみ	残存器高 49、底径 64、器 厚 15	①7.5YR7/3にぶい橙褐色 ②良好 ③径1mm以下～ 2mm前後の灰白色・黄褐色 色・茶褐色粒子を多く含 む。やや粗い。	体部内面横撫で、体部外面斜方向施削り、底部内 外面撫で。
119-45	土師器 小型甕	北東壁付床 面直上 口縁約1/3、 体部約2/3、 底部完存	口径 21.9、底径 7.4、器高 13.4、器厚 1.0	①7.5YR7/4にぶい橙褐色 ②良好 ③径1mm以下～ 2mm前後の灰白色・茶褐色 色・黒褐色粒子を多く含 む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜め方向撫 で、体部外面横・斜方向施削り、底部内外面撫で、 器肌表面の剥落顕著。
119-46	土師器 小型甕	中央部床面 直上、散乱 約1/2	口径 22.8、器高 16.8、器厚 1.4	①5YR7/4にぶい橙褐色 ②良好 ③径1mm以下～ 3mm程度の灰白色・黄褐色 色・黒褐色粒子を含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜め方向撫で、 体部外面横・斜方向施削り、底部内外面撫で。
119-47	土師器 甕	貯蔵穴内 口縁部完存 体部約1/2	口径 189、残存器高 162、 器厚 0.8	①5YR7/4にぶい橙褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜め方向撫で、 体部外面横・斜方向施削り。
119-48	土師器 長柄甕	甕南東付床 面直上 口縁約1/8 体部約2/3 底部完存	口径 19.4、底径 5.9、器高 38.4、器厚 0.8	①7.5YR7/4にぶい橙褐色 ②良好 ③径1mm以下～ 3mm程度の灰白色・茶褐色 色・黒褐色粒子・砂礫を やや多く含む。やや粗い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜め方向撫で、 体部外面斜め・縦方向施削り、底部内面撫で。底 部外面施削り後撫で。
119-49	土師器 長柄甕	甕南東付床 面直上 口縁約2/3 体部約4/5 底部完存	口径 200、底径 5.8、器高 36.1、器厚 0.6	①7.5YR7/4にぶい橙褐色 ②良好 ③径1mm以下の 灰白色・茶褐色・黒褐色 粒子をやや多く含むが、 おおむね緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜め方向撫で、 体部外面斜め・縦方向施削り、底部内面撫で。底 部外面に木葉脈状縦刻あり。
119-50	土師器 杯	Pit4埋土内 ほぼ完存	口径 9.8、器高 4.8、器厚 1.1	①7.5YR6/4にぶい橙褐色 ②良好 ③径1mm以下～ 2mm程度の灰白色粒子・ 砂礫を若干含む。	口縁部内外面横撫で、体部～底部内面斜方向撫で、 体部～底部外面斜・横方向施削り。
119-51	土師器 杯	甕右袖床面 直上、完存	口径 116、器高 5.5、器厚 0.9	①5YR7/4にぶい橙褐色 ②良好 ③径1mm以下～ 2mm程度の灰白色粒子・ 黒褐色粒子・砂礫を大量 に含む。やや粗い。	口縁部内外面横撫で、体部～底部内面斜方向撫 で、体部～底部外面斜・横方向施削り。
119-52	土師器 長柄甕	甕右袖外面 奥北西壁際、 体部末端・ 底部欠損	口径 20.6、残存器高 31.2、 器厚 0.8	①10YR6/3にぶい橙褐色 ②良好 ③径1mm以下～ 2.3mm程度の灰白色粒子・ 砂礫を多く含む。やや粗 い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜方向撫で、 体部外面横・縦・斜方向施削り。

第3章 発見された遺構と遺物

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
119-53	土師器 長胴甕	竈左袖芯材 体部約1/2・ 底部欠損	口径21.7、残存器高164、 器厚0.6	①5YR6/6褐色 ②良好 ③径1mm以下～4mmの灰 白色粒子を多く含む。粗 い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜方向撫で、 体部外面横・縦・斜方向磨削り。
119-54	土師器 長胴甕	竈右袖芯材 体部約1/2・ 底部欠損	口径20.4、残存器高139、 器厚0.9	①7.5YR5/2灰褐色 ② 良好 ③径1mm以下～5 mmの砂礫を大量含む。極 めて粗い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜方向撫で、 体部外面縦・斜方向磨削り。
119-55	土師器 坏	竈左袖外側 奥北西壁際 床面直上	口径10.6、器高4.8、器厚1.3	①10YR6/3にぶい黄褐色 ②良好 ③径1mm以下灰 白色粒子を大量含む。	口縁部内外面横撫で、体部～底部内面斜・横方向 撫で、体部～底部外面横・斜方向磨削り。

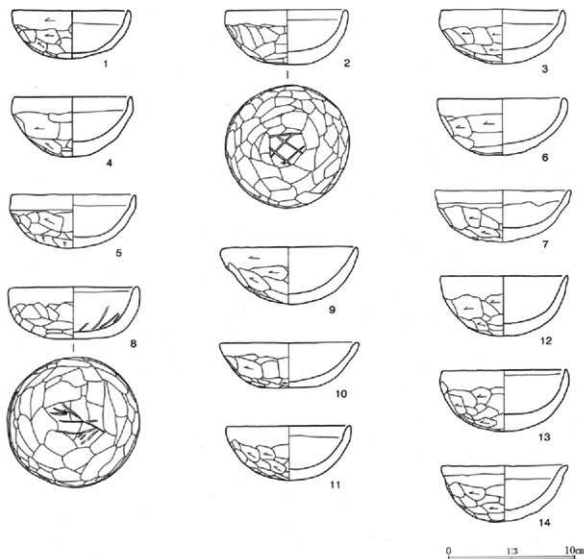


図36 西野原遺跡(2) 119号竈穴建物跡出土遺物(1)

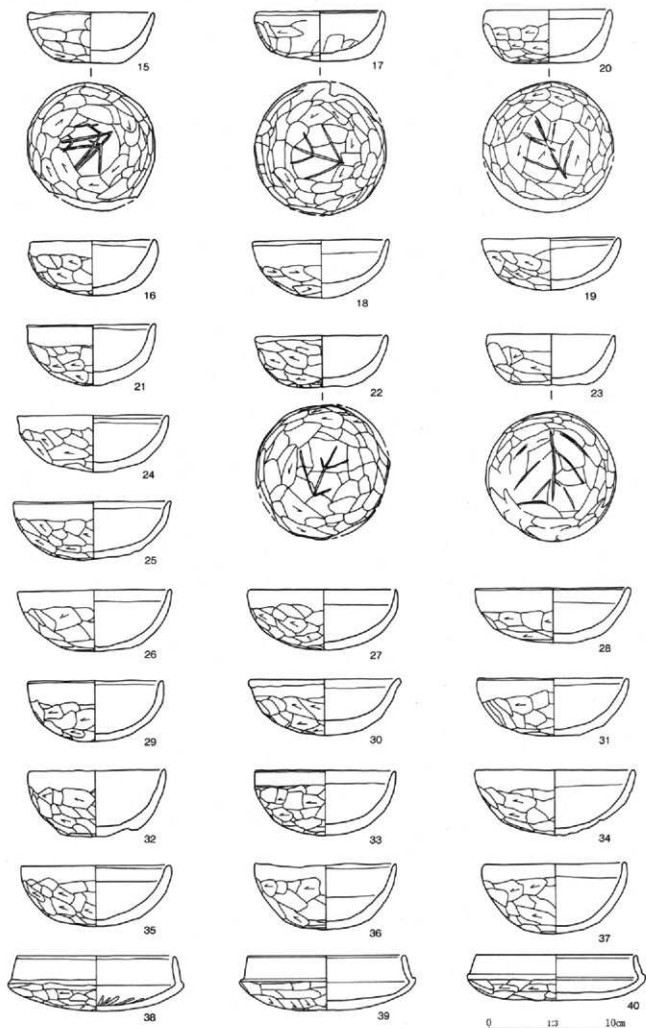


図37 西野原遺跡(2) 119号竪穴建物跡出土遺物(2)

第3章 発見された遺構と遺物

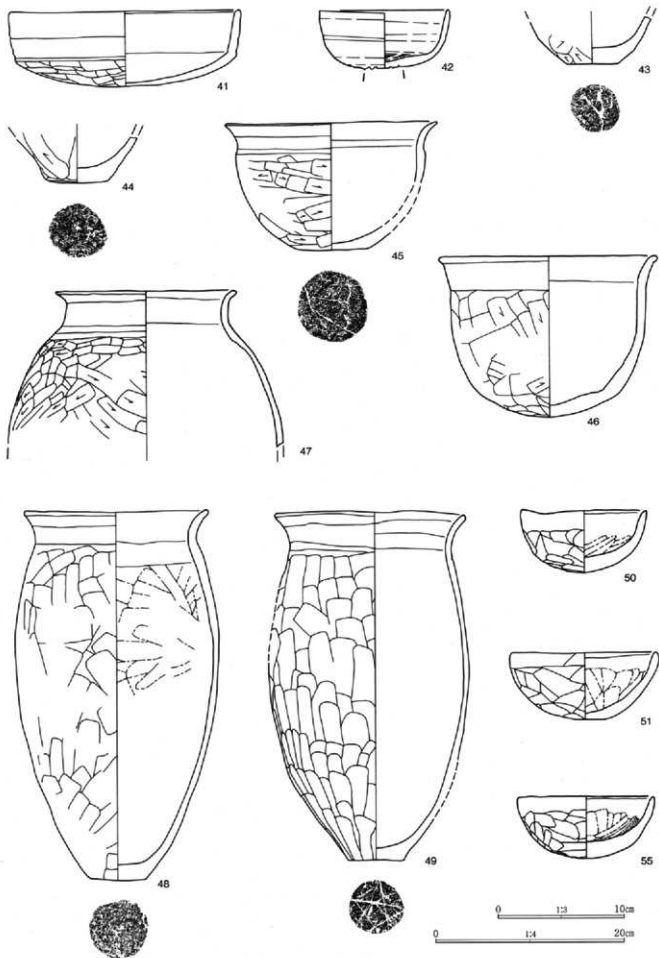


図38 西野原遺跡（2）119号竪穴建物跡出土遺物（3）



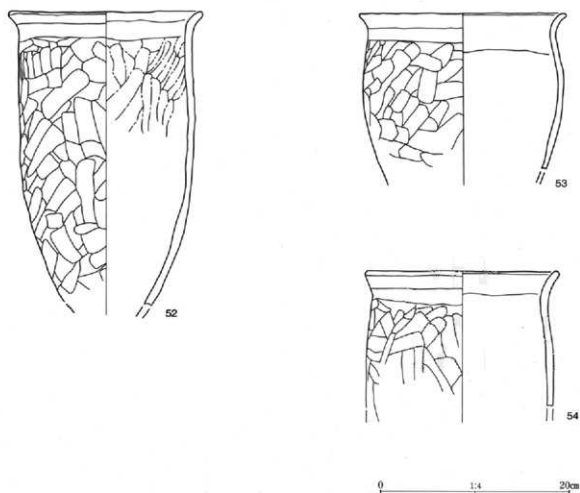


図39 西野原遺跡(2) 119号竪穴建物跡出土遺物(4)

## (4) 120号竪穴建物跡

**位置：**西野原遺跡(2)の中央部付近やや東寄り、X38245・Y-45295。 **床面積：**36.624㎡。 **主軸方位：**N-50°-W。 **重複：**なし。 **規模と形状：**長辺約6.05m・短辺約5.7m・深さ0.28mの長方形状を呈する。

**埋土：**多量の礫を含む黒褐色土をベースとする。 **床面：**地山を平坦に削り整えて形成。床面下の遺構等は検出されなかった。住居跡東北隅一帯の床面上に土器片が散在して出土した。 **竈跡：**北西側壁面のほぼ中央に取り付く。燃焼部・煙道等は地山を削りだして構築される。両袖は住居内に大きく張り出し、土師器長胴甌を倒置して竈袖の芯材とし、上から粘土を貼り付けて形成している。燃焼部は住居壁の内側につくられる。煙道は平坦な燃焼部の奥壁から緩やかに立ち上がるが、燃焼部内の焼土・炭化物の堆積は余り顕著ではない。 **柱穴：**4基検出された。検出された柱穴はいずれも平面円形ないし楕円形状を呈している。No.1 径0.3m・深さ0.13m、No.2 径0.36m・深さ0.15m、No.3 長径0.39m・短径0.34m・深さ0.14m、No.4 長径0.34m・短径0.29cm・深さ0.1m。 **貯蔵穴：**竈の北東側に位置し、長径0.65m・短径0.6m・深さ0.25m、孔内からは顕著な遺物の出土はない。 **時期：**出土遺物から古墳時代後期、5世紀末～6世紀初頭頃と考えられる。

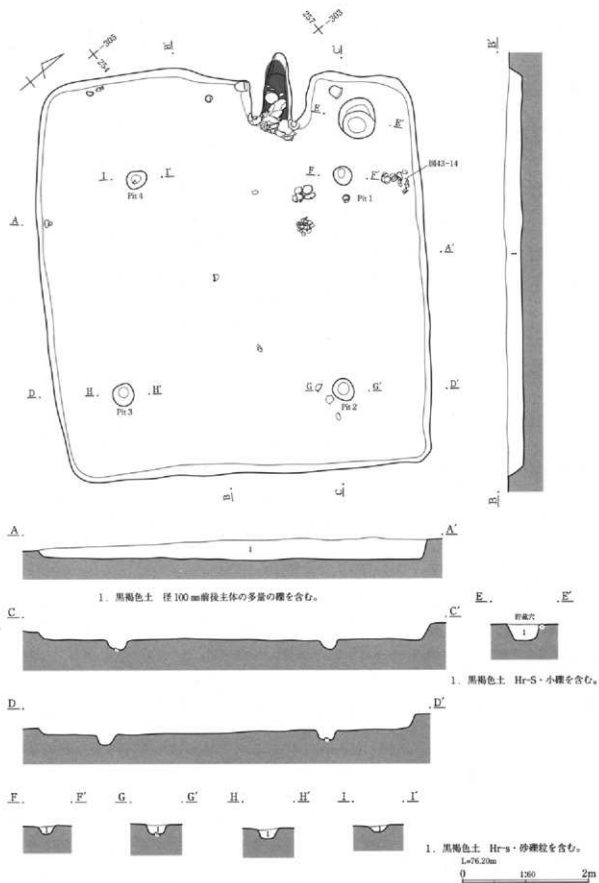


図40 西野原遺跡(2) 120号竪穴建物跡平面図・土層断面図・柱穴土層断面図・エレベーション図

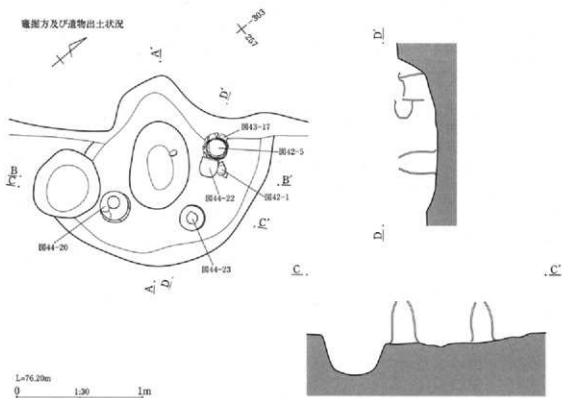
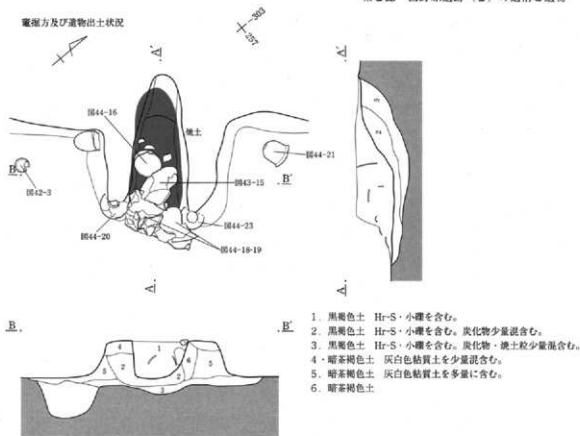


図41 西野原遺跡(2) 120号壁穴建物跡電磁細図・同土層断面図・同壕方平面・エレベーション図

## 第3章 発見された遺構と遺物

西野原遺跡(2) 120号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	器 種	出土状況 残存状態	法 量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器 形 ・ 整 形 の 特 徴
120-1	土師器 坏	甕埋土 完形	口径102、底径74、器高39、 器厚06	①75YR5/3にぶい褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
120-2	土師器 坏	北西壁際床 面直上 口縁約7/8 底部定存	口径104、器高32、器厚07	①5YR6/6 褐色 ②やや 不良 ③径1mm以下の 灰白色・茶褐色粒子を少量 含む。比較的緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
120-3	土師器 坏	甕山西西側床 面直上 完形	口径109、器高46、器厚07	①5YR7/6 褐色 ②良好 ③径1mm以下～2mm程度 の灰白色・茶褐色・黄褐色 粒子を多く含む。粗い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
120-4	土師器 坏	内1南東側 床面直上 口縁約1/2 底部定存	口径120、器高41、器厚09	①5YR6/8褐色 ②やや 不良 ③径1mm以下～3mm の灰白色・茶褐色粒子を 多く含む。粗い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
120-5	土師器 坏	甕埋土 完形	口径154、器高46、器厚11	①10YR8/4浅黄褐色 ②やや不良 ③径1mm以 下～1mm程度の灰白色粒 子をごく少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
120-6	土師器 坏	南西壁際床 面直上 約4/5	口径144、器高47、器厚06	①10YR8/4浅黄褐色 ② やや不良 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面縦方向撫で、後放射状磨き、底部外面彫削り。
120-7	土師器 坏	甕改竅口付近 埋土 約4/5	口径117、器高38、器厚07	①75YR8/6 浅黄褐色 ②やや不良 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
120-8	土師器 坏	甕埋土 完形	口径113、器高42、器厚06	①75YR7/4にぶい褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
120-9	土師器 坏	甕埋土 約1/5	推定口径120、推定器高30、 器厚04	①75YR5/4にぶい褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、底部内面横撫で、底部外面彫削り。
120-10	土師器 坏	埋土 約1/5	推定口径130、器高34、器 厚05	①75YR1/3黒褐色 ②良 好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
120-11	土師器 甕	甕南東前床 面直上 口縁・体部 一部欠	口径126、底径92、器高144、 器厚11	①5YR7/3にぶい褐色 ②良好 ③径1mm以下～1 mm程度の灰白色・茶褐色 粒子を多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面斜方向彫削り、底部内面横撫で、底部外面彫削り。器肌表面割落部分有り。
120-12	土師器 小型甕	甕南東前床 面直上 口縁・体部 一部欠	口径74、器高114、器厚07	①75YR7/4にぶい褐色 ②良好 ③径1mm以下～2 mm程度の灰白色・茶褐色・ 黒褐色粒子を多く含む。 やや粗い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面横撫で、底部外面彫削り後撫で。
120-13	須恵器 鉢	甕2南西側 床面直上 約1/3	推定口径189、推定底径87、 器高110、器厚14	①N5灰色 ②良好 ③ 径1mm以下～1mm程度の灰 白色・黒褐色粒子を多量 に含む。	縦軸形、内外面同縦彫削り後撫で。 体部外面縦方向彫削り。
120-14	土師器 甕	北東壁際床 面直上 口縁一部欠 体部上半部 約2/3	口径224、残存器高196、器 厚09	①75YR7/4にぶい褐色 ②良好 ③径1mm以下の 灰白色粒子を少量、径 1mm以下の砂粒を多く含 む。	口縁内外面横撫で、体部内面横・斜方向撫で、体部外面横・斜方向彫削り。
120-15	土師器 長胴甕	甕内 口縁約1/2 体部約7/10 底部約1/2	推定口径194、底径54 推定器高351、器厚06	①5YR4/2 灰褐色 ②良 好 ③径1mm以下～1mm前 後の灰白色・黄褐色・茶 褐色粒子、砂礫等を大量 に含む。粗い。	口縁内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り、底部内面横撫で。

第2節 西野原遺跡(2)の遺構と遺物

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
120-16	土師器 長胴壺	壺内 口縁約1/2 体部約4/5 底部完存	想定口径21.4, 残存器高38.8, 器厚0.9	①5YR7/4にぶい橙色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜め方向撫で、 体部外面横・斜方向施削り。
120-17	土師器 長胴壺	壺内 口縁約1/2 体部約2/3 底部欠	口径20.8, 残存器高25.9, 器 厚0.7	①7.5YR7/3にぶい橙色 ②良好 ③径1mm以下の 微細な灰白色・茶褐色・ 黒褐色粒子少量含む。緻 密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 斜め・横・縦方向施削り。
120-18	土師器 長胴壺	壺内 口縁約3/5 体部約5/6 底部完存	口径19.0, 底径4.9, 器高37.6, 器厚0.7	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好 ③径1mm以下～ 5mm前後の灰白色・茶褐色・ 黄褐色粒子を大量に 含む。きわめて粗い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜め方向撫で、 体部外面横・斜・縦方向施削り、底部内面撫で、 底部外面施削り後撫で。 底部外面に木葉脈痕状線刻あり。
120-19	土師器 長胴壺	壺内 口縁約1/2 体部約7/8 底部完存	口径19.4, 底径6.1, 器高 36.8, 器厚0.9	①7.5YR8/4 浅黄褐色 ②やや良好 ③径1mm以 下～5mm前後の灰白色粒 子を大量に含む。きわ めて粗い。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜め方向撫で、 体部外面横・斜・縦方向施削り、底部内面撫で。 底部外面に木葉脈痕状線刻あり。
120-20	土師器 長胴瓶	竜左袖芯材 完形	口径23.1, 底径9.9, 器高 31.3, 器厚0.9	①10YR7/3にぶい黄褐色 ②良好 ③径1mm以下～ 10mm大の灰白色粒子・砂 礫を少量含む。緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・縦・斜め方向 撫で、体部外面横・斜方向施削り。
120-21	土師器 瓶	竜右袖輪床 面直上 完形	口径18.6, 底径6.8, 器高 15.5, 器厚1.1, 底部孔径0.8	①10YR7/6明黄褐色 ② 良好 ③径1mm以下～2mm 程度の灰白色粒子・黒褐色 色粒子をやや多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面縦・斜方向撫で、 体部外面縦・斜方向施削り、底部内面横方向撫で・ 底部外面施削り、底部穿孔(17箇所、粘土未乾燥 状態で底部外面から内面に向けて)
120-22	土師器 小型壺	竜右袖掘方 内	口径14.4, 底径7.4, 器高 13.8, 器厚1.9	①10YR6/3にぶい黄褐色 ②良好 ③径1mm以下～3 mm程度の灰白色粒子を多 く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・斜方向撫で、 体部外面縦・斜方向施削り、底部内面撫で、底部 外面施削り。
120-23	土師器 長胴瓶	竜右袖芯材 完形	口径23.6, 底径9.4, 器高 29.9, 器厚0.9	①10YR7/3にぶい黄褐色 ②良好 ③径1mm以 下～10mm大の灰白色粒 子・砂礫を少量含む。緻 密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横・縦・斜め方向 撫で、体部外面横・斜方向施削り。

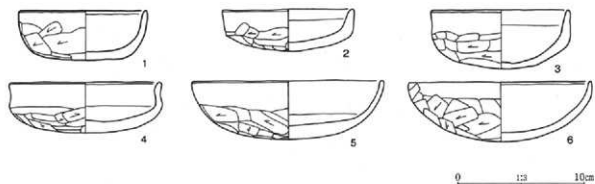


図42 西野原遺跡(2)120号竪穴建物跡出土遺物(1)

第3章 発見された遺構と遺物

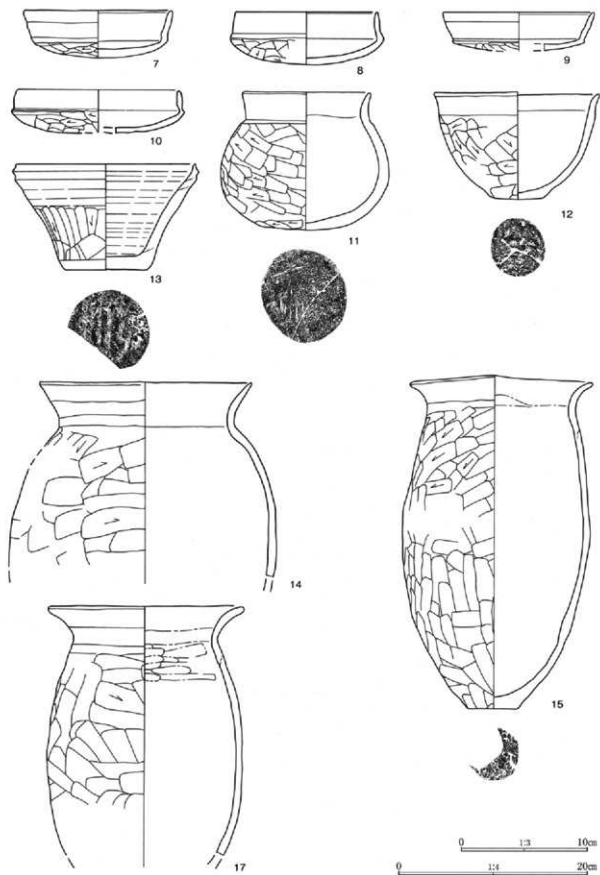


図43 西野原遺跡（2）120号竪穴建物跡出土遺物（2）

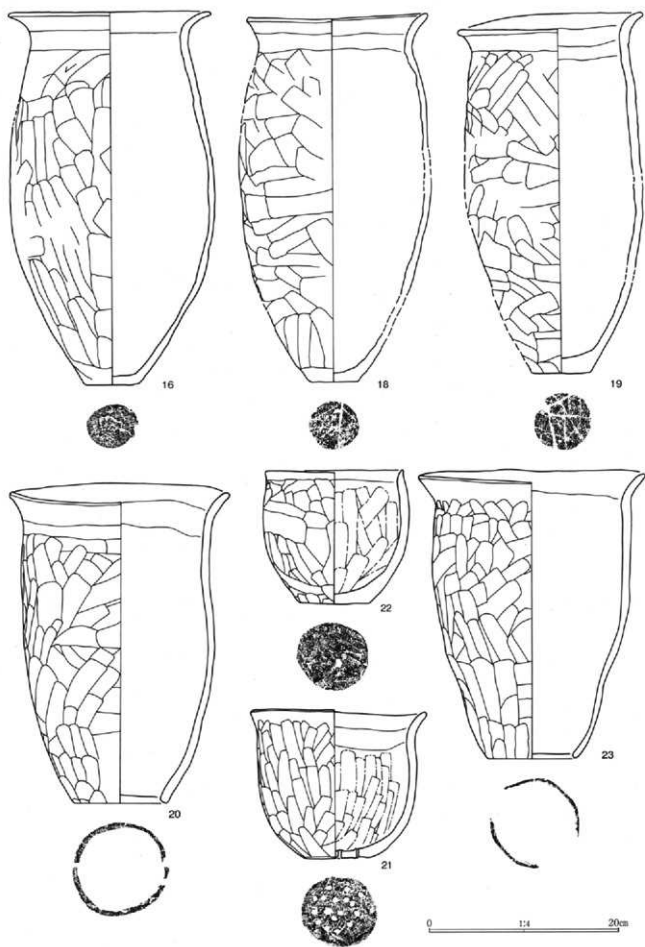


図44 西野原遺跡(2)120号竪穴建物跡出土遺物(3)

(5) 121号竪穴建物跡

**位置：**西野原遺跡(2)調査区の北東隅、南西辺・北西辺・北東辺の一部が石田川流域調節池調査区(西野原遺跡(5))に、南西辺の一部と南東辺のすべてが太田市教育委員会調査区(西野原遺跡(6))にかかる。X38240・Y-45245。 **検出床面積：**16.644㎡。 **主軸方位：**N-64°-E。 **重複：**122号住居跡の中心部を掘り込んで形成される。北東辺の一部、竈のすぐ北西側を溝(西野原遺跡(5))検出、当調査区未検出)によって破壊される。 **規模と形状：**長辺約5m以上・短辺約3.9m・深さ約0.1mの長方形を呈する。上面をかなり削平されている。 **埋土：**黒褐色土をベースとする。 **床面：**地山を平坦に削り整えて形成。床面下の遺構等は検出されなかった。 **竈跡：**北東側壁面に取り付く。北東側壁に竈が取り付く例は、西野原遺跡(2)域内では珍しい。燃焼部・煙道等は地山を削りだして構築される。ほとんど削平をうけ、燃焼部のごく一部が検出されただけである。南側袖は住居内に大きく張り出すが、北側袖は溝に破壊されており、状況は不明である。燃焼部内の焼土・炭化物の堆積が顕著である。 **時期：**出土遺物が全く無いので正確な年代は不明であるが、周辺における遺構の状況から古墳時代後期と考えられる。

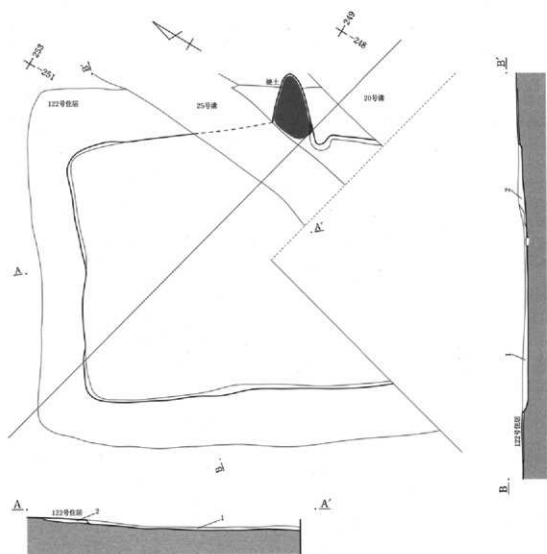
(6) 122号竪穴建物跡

**位置：**西野原遺跡(2)調査区の北東隅、南西辺・北西辺・北東辺の一部が石田川流域調節池調査区(西野原遺跡(5))に、南西辺の一部と南東辺のすべてが太田市教育委員会調査区(西野原遺跡(6))にかかる。X38243・Y-45247。 **検出床面積：**27.636㎡。 **主軸方位：**N-64°-E。 **重複：**121号住居跡の中心部を掘り込まれる。北東辺の北寄りの一部を溝によって破壊される。 **規模と形状：**長辺約6.5m以上・短辺約5.3m・深さ0.05mの長方形を呈する。上面をかなり削平されている。 **埋土：**黒褐色土をベースとする。 **床面：**地山を平坦に削り整えて形成。床面下の遺構等は検出されなかった。 **竈跡：**未検出。 **時期：**出土遺物が全く無いので正確な年代は不明であるが、周辺における遺構の状況から古墳時代後期と考えられる。

(7) 123号竪穴建物跡

**位置：**西野原遺跡(2)調査区の東北寄り、X38250・Y-45256。59号溝によって破壊される南西隅のごく一部が西野原遺跡(2)調査区にかかるのみで、竪穴建物跡の9割方は石田川調節池調査区(西野原遺跡(5))にかかる。 **検出床面積：**32.064㎡。 **主軸方位：**N-60°-E。 **重複：**南西隅を59号溝に、北西隅を362号土坑にそれぞれ破壊される。 **規模と形状：**長辺約8.56m・短辺約3.75m・深さ0.18mの南西～北東方向に極端に長い長方形を呈する。形状から見て、単なる住居跡ではなく工房のような施設であると考えられるが、出土遺物が全く無いので断定は困難である。上面をかなり削平されている。 **埋土：**黒褐色土をベースとする。 **床面：**地山を平坦に削り整えて形成。床面下の遺構等は検出されなかった。 **竈跡：**西側壁面の南寄りに取り付く。燃焼部・煙道等は地山を削りだして構築される。両袖は住居内に大きく張り出す。燃焼部は住居壁の内側につくられ、煙道は平坦な燃焼部の奥壁から緩やかに立ち上がるが、燃焼部内の焼土・炭化物の堆積は余り顕著ではない。 **Pit：**4基検出された。検出されたPitは、いずれも平面円形ないし楕円形状を呈している。Pit2およびpit4が柱穴である可能性を有するが、検出された掘方がきわめて浅いため断言はできない。No.1 長径0.37m・短径0.35m・深さ0.05m、No.2 径0.59m・深さ0.1m、No.3 長径0.51m・短径0.4m・深さ0.05m、No.4 長径0.34m・短径0.29m・深さ0.1m。 **掘り方：**掘方と床面とはほぼ一致。 **時期：**出土遺物が全く無いので正確な年代は不明であるが、周辺における遺構の状況から古墳時代後期と考えられる。





1. 暗褐色土 ローム塊混。
2. 暗褐色土 1層より明るい色調。砂質ローム多く含む。

L=75.80m  
0 100 200

図45 西野原遺跡(2) 121号竪穴建物跡平面図・土層断面図

第3章 発見された遺構と遺物

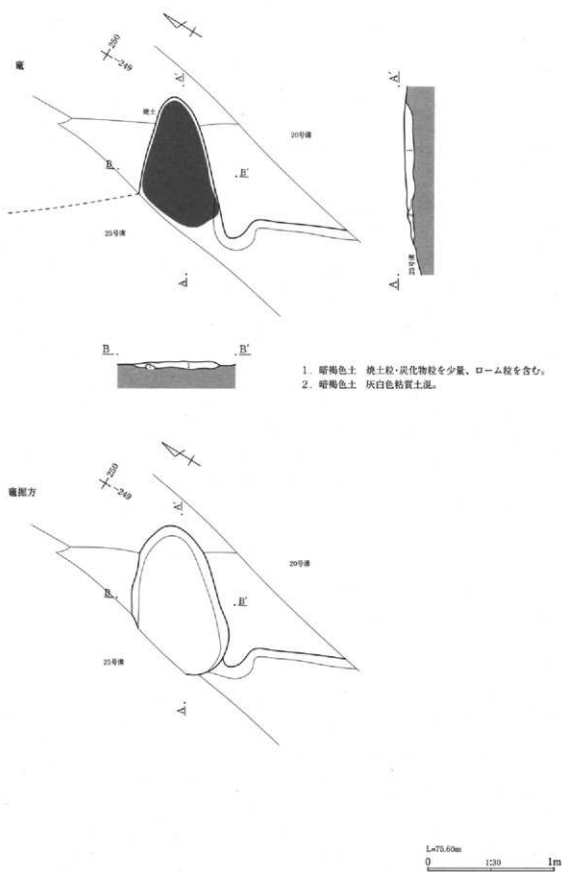
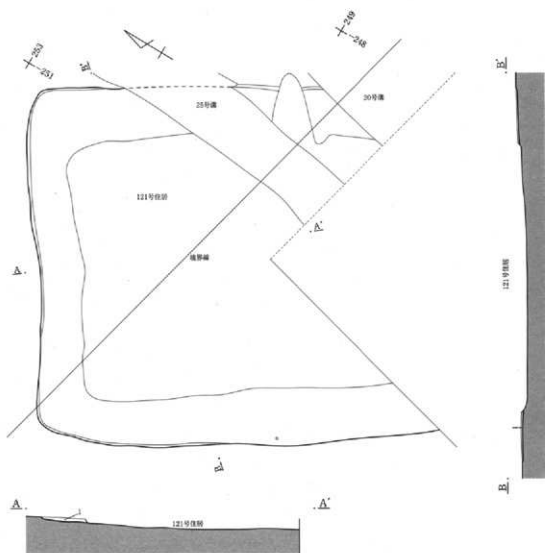


図46 西野原遺跡(2) 121号竪穴建物跡電微細図・同土層断面図・同堀方平面図



1. 暗褐色土 ローム塊を多量に含む。



図47 西野原遺跡(2) 122号髷穴建物跡平面図・土層断面図

第3章 発見された遺構と遺物

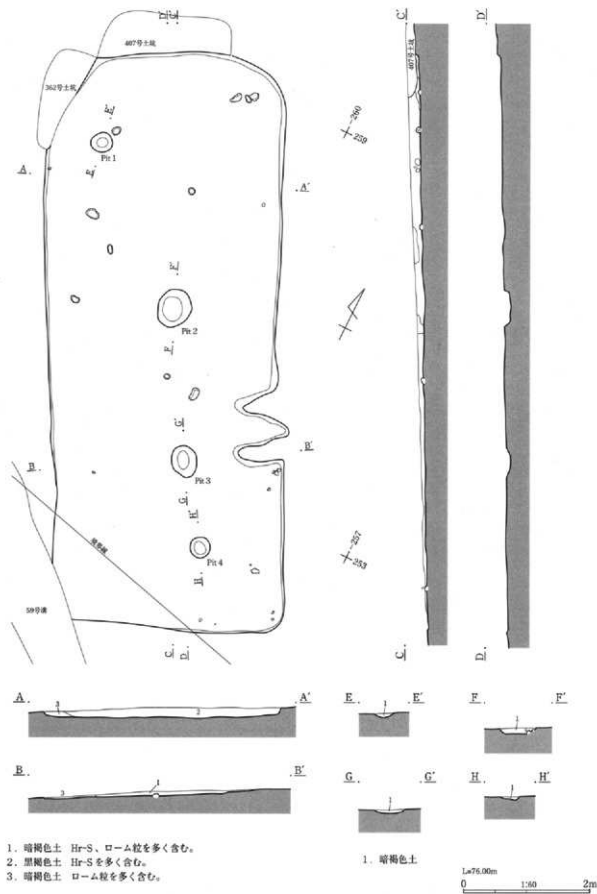


図48 西野原遺跡(2)123号竪穴建物跡平面図・土層断面図・柱穴土層断面図

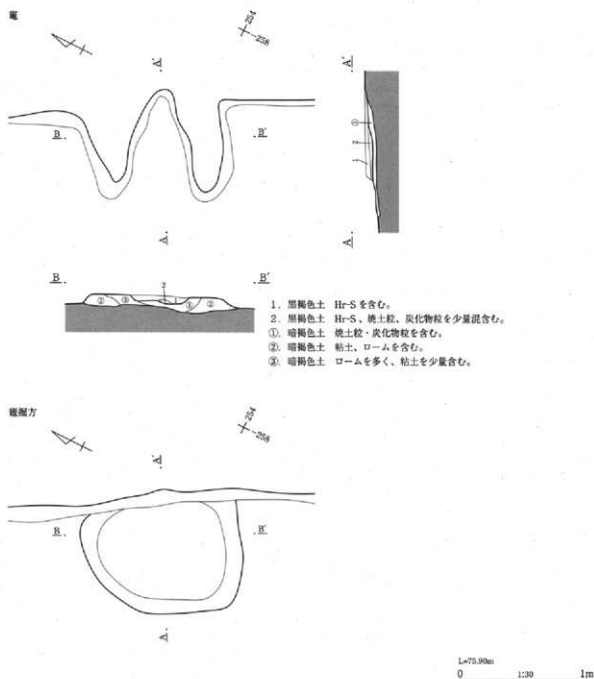


図49 西野原遺跡(2) 123号竪穴建物跡電微細図・同土層断面図・同堀方平面図

(8) 124号竪穴建物跡

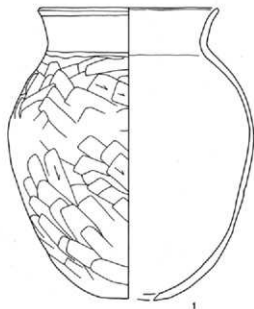
位置：西野原遺跡(2)遺跡の南東隅付近、X38237・Y-45261。床面積：16.272㎡。主軸方位：N-56°-E。重複：118号住居跡のほぼ中央を破壊して掘り込む。規模と形状：長辺約4.18m・短辺約4.15m・深さ0.45mのほぼ正方形を呈する。埋土：黒褐色土をベースとする。埋土中に径20cm前後の礫が混入。床面：礫層上面を平坦に削り整えて形成。硬化面は確認できない。床面下の遺構等は検出されなかった。床

### 第3章 発見された遺構と遺物

面上に部分的に焼土の堆積が3箇所認められた。 **竈跡**：北東側壁面の南東寄りに取り付く。燃焼部・煙道等は地山を削りだして構築される。両袖は住居内に大きく張り出し、燃焼部は住居壁の内側につくられる。煙道は燃焼部奥壁から緩やかに立ち上がる。竈内部は焼土化が顕著であり、燃焼部内の焼土・炭化物の堆積も顕著。 **貯蔵穴**：南東側、竈のすぐ傍りに位置し、規模は径約0.87m・深さは約0.08m。貯蔵穴底部中央には焼土塊の堆積が見られた。孔内から土師器破片が出土した。 **Pit**：3基検出された。検出されたPitは、いずれも平面円形ないし楕円形状を呈している。No.1 径0.52m・深さ0.2m、No.2 長径0.46m・短径0.4m・深さ0.05m、No.3 径0.32m・深さ0.09m。 **鍛冶遺構**：建物内の中央からやや北寄りに位置し皿状の浅いくぼみで、焼土の堆積が顕著。西側に掘られた小孔内から羽口状の土製品が出土している。 **掘り方**：堀方と床面とはほぼ一致。 **時期**：出土遺物から古墳時代後期、5世紀末～6世紀初頭頃と考えられる。

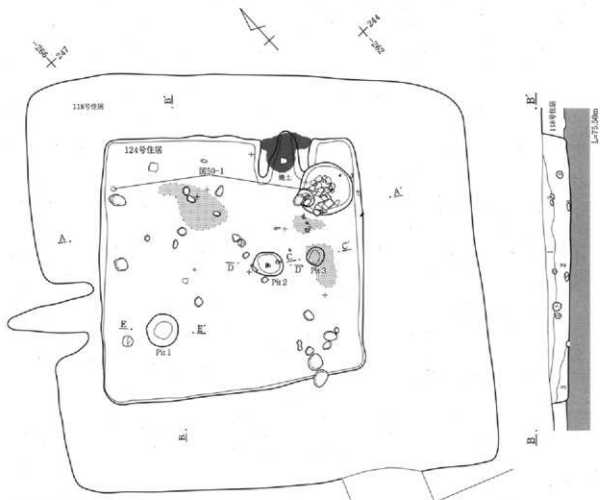
西野原遺跡(2) 124号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・装飾の特徴
124-1	土師器 甕	貯蔵穴内 口縁完存 体部の5/6 底部約2/3	口径19.2、底径6.9、底口 径6.0、器高3.9、器厚0.6	①7.5YR5/3にぶい褐色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横溝で、体部内面横溝で、体部外面横・斜方向刻り。

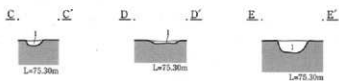
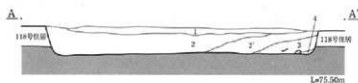


0 1:4 20cm

図50 西野原遺跡(2) 124号竪穴建物跡出土遺物



1. 黒褐色土 Hr-S、ローム粒やや多く含む。
2. 黒褐色土 1層より更に黒い色調を呈し、HR-S、ローム粒やや多く含む。
3. 暗褐色土 やや黄色みがかった色調を呈し、Hr-S、ローム粒、焼土粒、炭化物塊をやや多く含む。
4. 暗黄褐色粘質土



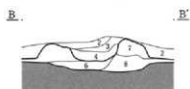
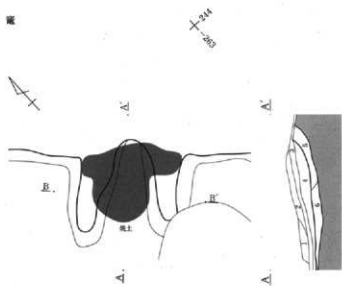
1. 黒褐色土 Hr-S、ローム粒を含み、やや粘質。

0 1:60 2m

図51 西野原遺跡(2) 124号髻穴建物跡平面図・土層断面図・柱穴土層断面図

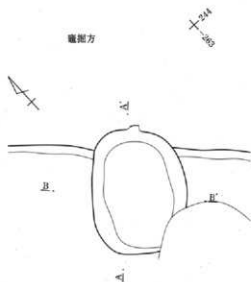
第3章 発見された遺構と遺物

竈



1. 黒褐色土 Hr-S、ローム粒を含み、やや砂質。
2. 黒褐色土 Hr-S、ローム粒を含み、やや粘質で、黒みが強い。
3. 黒褐色土 Hr-S、ローム粒、炭化物塊を含む。
4. 黒褐色土 Hr-S、ローム粒、炭化物塊、焼土粒を含む。
5. 暗茶褐色砂質土。
6. 暗茶褐色砂質土 炭化物の含有少。
7. 暗褐色粘質土。
8. 暗褐色粘質土と暗赤褐色土の混合土。

竈跡方



鍛冶炉



L=75.30m  
0 1:100 1m

図52 西野原遺跡(2) 124号竈穴建物跡竈微細図・同土層断面図・同場方平面図・鍛冶炉跡微細図



## (9) 131号竪穴建物跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の南西端寄り、X38270・Y-45375。南隅のごく一部が西野原遺跡(3)調査区にかかる。検出床面積：37.344㎡。主軸方：N-33°-E。重複：なし。規模と形状：長辺約6.01m・短辺約5.74m・深さ0.44mのはほぼ正方形を呈する。埋土：黒褐色土をベースとする。床面：地山を平坦に削り整えて形成。床面下の遺構等は検出されなかった。竈跡：北東側壁面の中央やや南寄りに取り付く。燃焼部・煙道等は地山を削りだして構築される。両軸は住居内に大きく張り出す。燃焼部は住居壁の内側につくられ、煙道は平坦な燃焼部の奥壁から急激に立ち上がる。燃焼部内に焼土・炭化物の堆積がみられる。柱穴：4基検出された。検出されたPitは、いずれも平面円形ないし楕円形状を呈している。No.1長径0.34m・短径0.29m・深さ0.25m、No.2長径0.34m・短径0.23m、No.3長径0.31m・短径0.29m・深さ0.14m、No.4長径0.36m・短径0.26cm・深さ0.14m。貯蔵穴：竈の南東側に位置し、径0.65m・深さ0.27m、孔内からは土器片が出土。掘り方：掘方と床面とはほぼ一致。時期：出土遺物が少ないので正確な年代は不明であるが、出土遺物や周辺における遺構の状況から古墳時代後期、5世紀末～6世紀初頭頃と考えられる。

西野原遺跡(2) 131号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
131-1	土師器 坏	中央部南東 壁際床面直上 完形	口径131、器高46、器厚0.9	①7.5YR7/3にぶい橙色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横方向彫削り、底部内面撫で、底部外面彫削り。
131-2	土師器 坏	竈南西前床 面直上 約1/2	口径131、器高45、器厚0.5	①7.5YR7/3にぶい橙色 ②良好 ③径1mm以下の 灰白色・茶褐色粒子を多 量に含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
131-3	土師器 坏	埋土 口縁約1/3 底部わずかに 残存	推定口径122、推定器高36、 器厚0.6	①10YR6/2 灰黄褐色 ②やや不良 ③径1mm以 下の灰白色・茶褐色・黄 褐色粒子を多く含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横方向彫削り、底部内面斜方向撫で、底部外面彫削り。
131-4	土師器 高坏	南西壁跡床 面直上 口縁部・体 部約1/4、 脚部欠	推定口径99、残存器高27、 器厚0.9	①7.5YR5/3橙色 ①良好 ②径1mm以下～3mmの灰白 色粒子を若干含む。	口縁部内外面横撫で、体部内外面横撫で、底部内面撫で、底部外面彫削り。
131-5	土師器 小型甕	埋土、貯 蔵穴内 口縁部～体 部約1/2	口径124、残存器高44、器 厚0.6	①10YR8/4 浅黄褐色 ② やや不良 ③径1mm以下 ～3mm程度の灰白色・茶 褐色粒子を少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部上位内外面横撫で。
131-6	土師器 小型甕	埋土 口縁部～体 部上位約1/8	推定口径128、残存器高68、 器厚0.8	①5YR6/6 橙褐色 ②良好 ③径1mm以下、白色黒褐 色粒子を少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部上位内面横撫で、体部上位外面横・斜方向彫削り。
131-7	土師器 甕	貯蔵穴内 口縁部～体 部上位約4/5 残存	推定口径185、残存器高 116、器厚0.7	①5YR6/4にぶい橙色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面横・斜方向彫削り。

第3章 発見された遺構と遺物

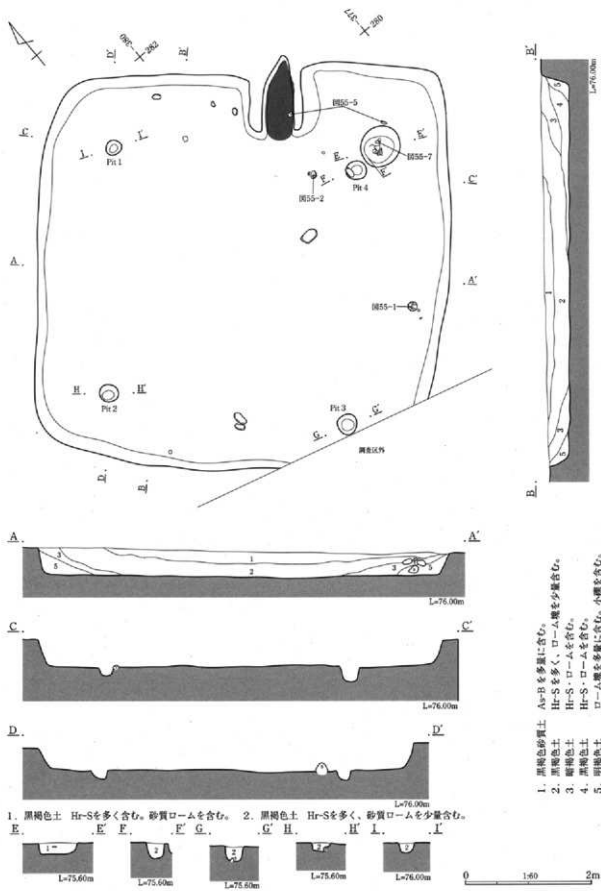
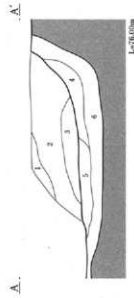
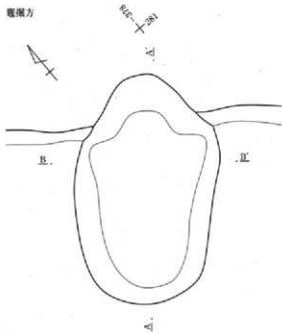
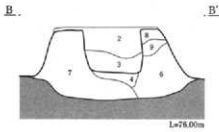
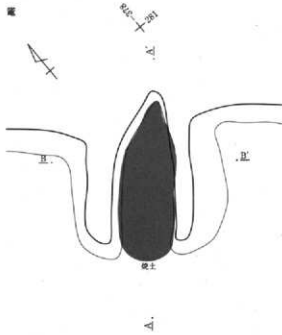


図53 西野原遺跡(2) 131号竪穴建物跡平面図・土層断面図・エレベーション図・柱穴土層断面図



1. 黒褐色砂質土 Hr-Sを含む。
2. 暗茶褐色砂質土 薬清灰材の粘質土塊、炭土粒、炭化物粒を少量含む。
3. 暗茶褐色砂質土 薬清灰材の粘質土塊を多く含む。
4. 暗茶褐色砂質土 炭土・炭化物を少量含む。
5. 暗茶褐色砂質土 炭土・炭化物を多く含む。
6. 暗茶褐色砂質土 小砂粒を多量に含む。
7. 暗茶褐色砂質土 小砂粒を多量に含む、非常に粗い土。
8. 暗褐色砂質土 灰白色粘質土を含む。
9. 暗褐色砂質土 灰白色粘質土の少量を含む。

0 1.50 2m

図54 西野原遺跡(2) 131号竪穴建物跡電微細図・同土層断面図・同堀方平面図

### 第3章 発見された遺構と遺物

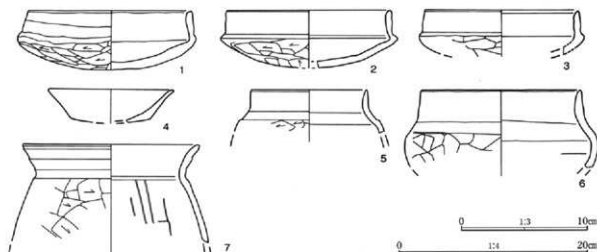


図55 西野原遺跡(2) 131号竪穴建物跡出土遺物

#### (10) 132号竪穴建物跡

**位置:** 西野原遺跡(2) 調査区の中央部西寄り、北調査区境にかかる、X38270・Y-45340、竈から東半分が石田川調節池調査区(西野原遺跡(5))にかかる。 **検出床面積:** 4.284㎡。 **主軸方:** N-43°-W。 **重複:** なし。 **規模と形状:** ほほ中央部に竈が取り付く北西壁の一部から北東隅部分までが検出されただけで、東・南・西壁は上面の削平によって全く検出されず、全体の形状は全く不明である。深さ0.11m。 **埋土:** 暗褐色土をベースとする。 **床面:** 地山を平坦に削り整えて形成。床面下の遺構等は検出されなかった。

**竈跡:** 北西側壁面のほほ中央に取り付く。上面が削平されているため、燃烧部・煙道等の床面に近いプランが辛うじて検出できた程度である。燃烧部は地山を削りだして構築され、煙道は平坦な燃烧部の奥壁から緩やかに立ち上がる。両袖は住居内に大きく張り出す。燃烧部は住居壁の内側につくられている。燃烧部内に焼土・炭化物の堆積がみられる。 **Pit:** 1基検出された。平面形態は南西-北東方向に長い楕円形を呈し、長径0.71m・短径0.56m・深さ0.11m、南東半分が上面の削平を甚だしく受けており、ほほ底部のみ検出されたような状態である。 **貯蔵穴:** 竈の北東側に2基検出された、貯蔵穴1は竪穴建物北東隅寄りに位置し、径0.61m・深さ0.35m、貯蔵穴2は竈のすぐ北東隣に位置し、長径0.49m・短径0.4m・深さ0.11m、孔内からは土器片が出土。 **掘り方:** 掘方と床面とはほほ一致。 **時期:** 出土遺物が少ないので、正確な年代は不明であるが、出土遺物や周辺における遺構の状況から古墳時代後期、5世紀末～6世紀初頭頃と考えられる。

#### (11) 133号竪穴建物跡

**位置:** 西野原遺跡(2) 調査区の南西端、X38240・Y-45250。 **検出床面積:** 27.456㎡。 **主軸方:** N-33°-E。 **重複:** 南辺を134号竪穴建物跡に、中央部東寄りの部分を69号溝に破壊される。 **規模と形状:** 長辺約4.2m・短辺現存長約5.74m・深さ0.23mの北西-南東方向に長い長方形形状を呈する。 **埋土:** 黒褐色土をベースとする。 **床面:** 地山を平坦に削り整えて形成。床面下の遺構等は検出されなかった。 **竈跡:** 北西側壁面に取り付く。上面の削平が甚だしく、ほほ燃烧部の掘方が検出された程度である。燃烧部は住居壁の内側につくられる。 **掘り方:** 掘方と床面とはほほ一致。 **時期:** 出土遺物が少ないので正確な年代は不明であるが、出土遺物や周辺における遺構の状況から古墳時代後期と考えられる。

第2節 西野原遺跡(2)の遺構と遺物

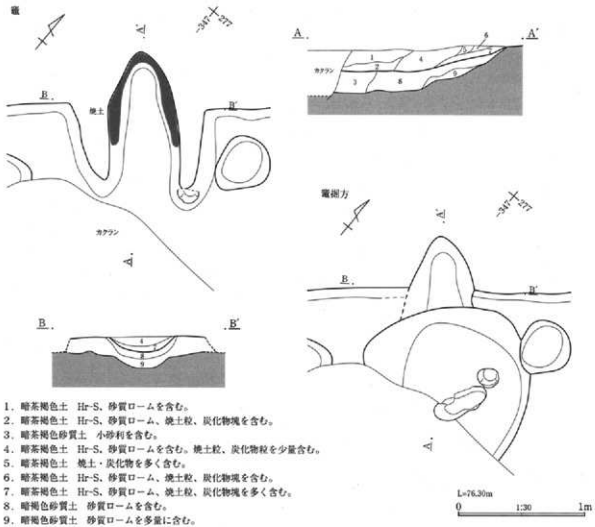
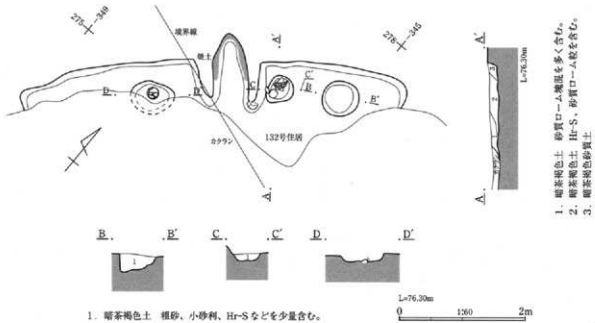
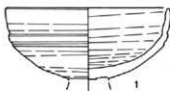


図56 西野原遺跡(2) 132号竪穴建物跡平面図・土層断面図  
 ・貯蔵穴等土層断面図・電磁細図・同土層断面図・同堀方平面図

第3章 発見された遺構と遺物

西野原遺跡(2) 133号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
133-1	須恵器 高坏	甕室方内 脚部のみ欠	口径17.4、杯身器高7.5、 器厚1.2	①5Y6/1灰色 ②良好 ③径1mm以下～2mm前後の 灰白色粒子を多く含む。	楕圓整形、内外面回転削り後施で。 杯身底部に脚部との接合痕あり。



0 1:4 20cm

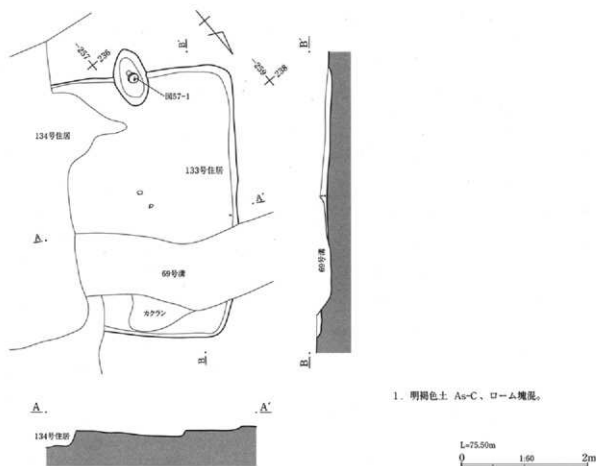
図57 西野原遺跡(2) 133号竪穴建物跡出土遺物

(12) 134号竪穴建物跡

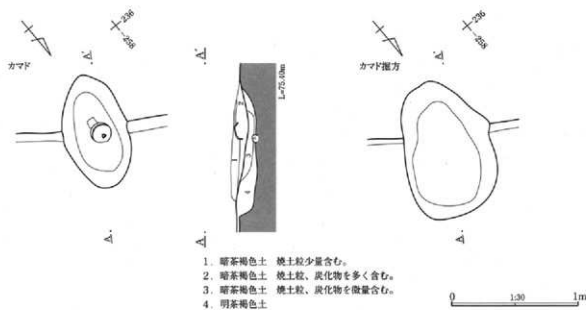
**位置:** 西野原遺跡(2) 調査区の最西端、X38240・Y-45245、竈と西壁のごく一部が西野原遺跡(2) 調査区にかかるのみで、住居跡本体のほぼ北半分が太田市教育委員会文化財課調査部分(西野原遺跡(6))に、ほぼ南半分が北関東自動車道本線調査区(西野原遺跡(3)および(4))にかかる。 **検出床面積:** 27.456㎡。 **主軸方位:** N-56°-E。 **重複:** 133号竪穴建物跡及び69号溝跡の東側を破壊。 **規模と形状:** 北壁6.96m、南・東・西壁は部分的に検出されただけである。深さ0.23m、北西-南東方向に長い長方形状を呈すると推測できる。 **埋土:** 暗褐色土をベースとする。 **床面:** 地山を平坦に削り整えて形成。床面下の遺構等は検出されなかった。 **竈跡:** 北西側壁面に取り付く。上面が削平されているため、燃焼部・煙道等の床面に近いプランが辛うじて検出できた程度である。燃焼部は地山を削りだして構築され、煙道は平坦な燃焼部の奥壁から緩やかに立ち上がり、燃焼部は住居壁の内側につくられている。燃焼部内の焼土・炭化物の堆積は余り顕著ではない。 **Pit:** 北東隅で1基検出された。平面形態は径0.37mのほぼ円形を呈し、深さ0.16m。 **掘り方:** 掘方と床面とはほぼ一致。 **時期:** 出土遺物が少ないので、正確な年代は不明であるが、出土遺物や周辺における遺構の状況から古墳時代後期、5世紀末～6世紀初頭頃と考えられる。

西野原遺跡(2) 134号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
134-1	土師器 坏	甕西側床面 直上 約2/3残存	口径14.1、器高14.6、器厚0.8	①5YR7/4にぶい橙色 ②良好 ③径1mm前後の 茶褐色粒子を多量に、径 1mm以下の灰白色粒子を ごく少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横方向削り、底部内面撫で、底部外面削り。
134-2	土師器 坏	竪穴中央部 床面直上 口縁部約 1/8、底部約 2/3残存	推定口径12.4、器高3.8、 器厚0.6	①10YR7/4にぶい黄橙色 ②良好 ③径1mm以下の 茶褐色・黒褐色粒子を多 く、径1mm以下の灰白色 粒子をごく少量含む。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横方向削り、底部内面斜方向撫で、底部外面削 り。
134-3	土師器 坏	埋土 約1/6残存	推定口径13.3、推定器高3.8、 器厚0.6	①7.5YR7/3にぶい橙色 ②やや不良 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内面横撫で、体部外面 横方向削り、底部内面斜方向撫で、底部外面削 り。



1. 明褐色土 As-C、ローム境況。



1. 暗茶褐色土 焼土粒少量含む。
2. 暗茶褐色土 焼土粒、炭化物を多く含む。
3. 暗茶褐色土 焼土粒、炭化物を微量含む。
4. 明茶褐色土

図58 西野原遺跡(2) 133号竪穴建物跡平面図・土層断面図・竈微細図・同土層断面図・同堀方平面図

第3章 発見された遺構と遺物

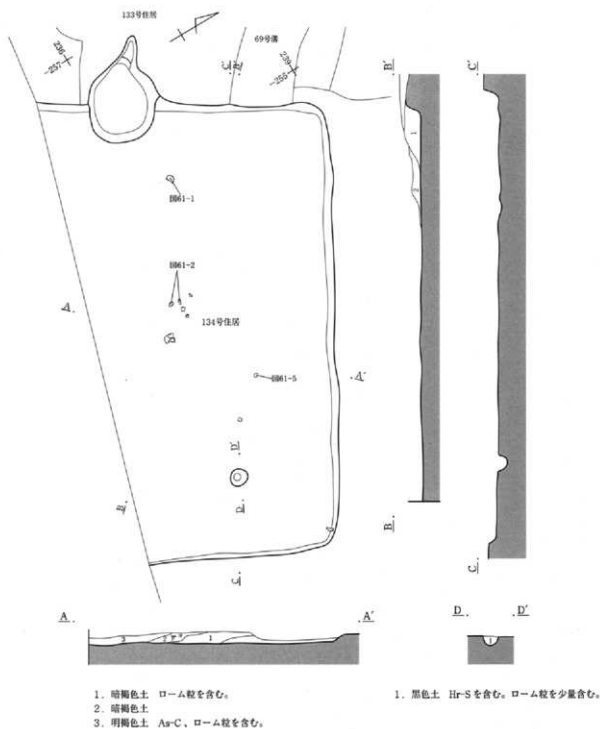


図59 西野原遺跡(2) 134号竪穴建物跡平面図・土層断面図・pit土層断面図



遺物番号	器種	出土状況 残存状態	法量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
134-4	土師器 高坏	壊土 口縁部～底 部一部約1/5 残存。	鑑定口径11.3、器高35、 器厚0.5	①5YR2/1黒褐色 ②良 好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部内外面横撫で、底部内 面撫で底部外面艶削り。
131-5	土師器 小型甕	中央部床面 直上。 口縁部～体 部小片	鑑定口径11.1、残存器高5.9、 器厚0.6	①5YR7/3にぶい橙色 ②良好 ③緻密。	口縁部内外面横撫で、体部上位内外面横撫で。

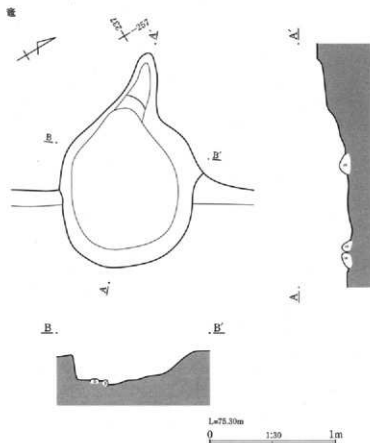


図60 西野原遺跡(2) 134号竪穴建物跡電微細図・同エレベーション図

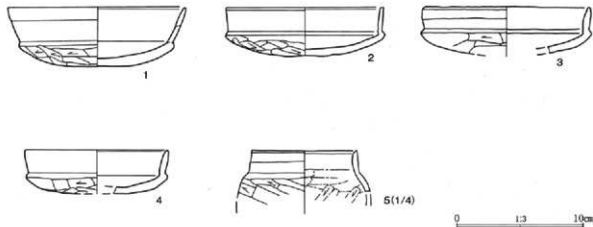


図61 西野原遺跡(2) 134号竪穴建物跡出土遺物

## 第2項 溝跡

西野原遺跡(2)では、溝跡は8条検出されている。正方位にのるものはなく、南北方向系統に流れるものは北北東あるいは北北西方向から南南西あるいは南南東方向に流れるものが多い。また、調査区自体が南北に狭く、東西方向にも限られているため、石田川流域調整池調査区(西野原遺跡(5))および北関東自動車道本線部分(西野原遺跡(3))に続いているものが少なく、本調査区における検出内容からでは全貌が明らかにしがたい部分がある。

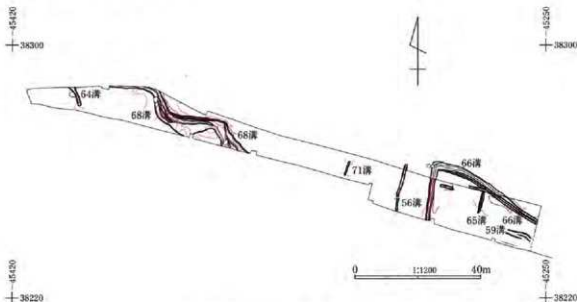


図62 西野原遺跡(2) 溝跡配置図

### (1) 56号溝跡

**位置:** 西野原遺跡(2) 調査区の中央部東寄り、X38245~38260・Y-45295~45290。 **重複:** 120号竪穴建物跡の東北隅を一部破壊する。 **規模と形状:** 確認全長13.5m・最大上幅0.75m・下幅0.6m・深さ0.15m、北北東~南南西方向に流れ、北側は石田川調節池調査区(西野原遺跡(5))に、南側は北関東自動車道本線調査区(西野原遺跡(3))に続く。調査区内南側、120号竪穴建物跡との重複箇所すく南側で、確認面の削平により一部途切れる。 **埋土:** 灰褐色土をベースとする。

### (2) 59号溝跡

**位置:** 西野原遺跡(2) 調査区の最東端部から西北西~東南東方向に流れ、中央部東寄り付近の位置で約90度直角に折れ曲がり、南方向に流れる。西野原遺跡(2) 調査区では、西北西~東南東方向走向部分(X38240~38250・Y-45250~45265)と南北方向走向部分(X38245~38255・Y-45285)が検出され、西北西方向の先、屈曲部分は石田川調節池調査区(西野原遺跡(5))に、南の先は北関東自動車道本線部分調査区(西野原遺跡(3))に続く。 **重複:** 西北西~東南東方向走向部分では、65号溝跡と並行して流れるが、両溝は重複しないので、新旧関係は不明。また、西北西~東南東走向部分では123号竪穴建物跡の東南隅のごく一部を破壊する。 **規模と形状:** 確認全長56.3m(石田川調節池調査区(西野原遺跡(5)) 検出屈曲部分を含む)、西北西~東南東走向部分最大上幅1.3m・下幅0.9m・深さ0.09m、断面は緩やかな造

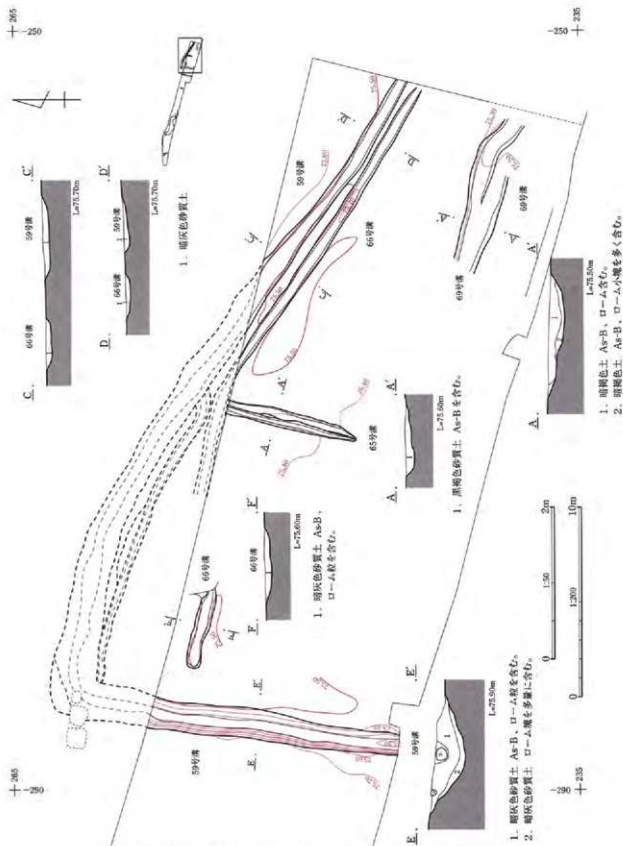


図63 西野原遺跡(2) 59・65・66・69号溝跡平面図・土層断面図

### 第3章 発見された遺構と遺物

台形状を呈する。南北走向部分最大上幅1.5m・下幅0.5m・深さ0.44m、緩やかな逆三角形形状を呈する。

埋土：暗灰色砂質土をベースとする。

#### (3) 64号溝跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の西端寄り、X38275～38280・Y-45395の範囲を北北西～南南東方向に流れる。重複：325号土坑跡の東辺を一部破壊する。規模と形状：確認全長6.1m・最大上幅2.05m・下幅1.85m・深さ0.25m。北側は石田川調節池調査区(西野原遺跡(5))に続き、調査区北端側が扇状に広がるが、南側は直線的で、調査区内南端近くで止まる。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

#### (4) 65号溝跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東寄り付近の位置を南北方向に流れる。X38245～38250・Y-45265～45270北側は石田川調節池調査区(西野原遺跡(5))に続く。重複：なし。規模と形状：確認全長7m、同じ長さで2時期あり、当初の溝の西側に重複して新しい溝が形成される。新溝の最大上幅0.5m・下幅0.34m・深さ0.11m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。旧溝は西側に新溝に破壊されているために幅員は不明。新溝の残存部分の遺構確認面からの深さは0.08mと浅い。埋土：暗灰色砂質土をベースとする。

#### (5) 66号溝跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の最東端部から59号溝のすぐ南側をほぼ並行して西北西～東南東方向に流れ、西端は石田川流域調整池調査区(西野原遺跡(5))に続き、当調査区内X38250・Y-45280Gr付近で再検出され、X38255・Y-45280Gr内で止まる。X38240～38255・Y-45250～45280。重複：59号溝跡と並行して流れるが、西野原遺跡(2)調査区内では、両溝は重複しないので、新旧関係は不明。116号竪穴建物跡との重複による新旧関係は遺構の検出状況からは明確にし得なかったが、116号竪穴建物の時期(弥生時代後期)から勘案すれば、当溝跡の規模や形状から見て当然それよりは新しいものであろう。規模と形状：確認全長34.5m(石田川調節池調査区(西野原遺跡(5))検出部分を含む)、最大上幅0.69m・下幅0.46m・深さ0.09m、断面は緩やかな逆台形状を呈する。埋土：暗灰色砂質土をベースとする。

#### (6) 68号溝跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の西端寄り、X38260～38280・Y-45340～45380の範囲を屈曲・蛇行しながら東西方向に流れる。重複：なし。規模と形状：ほぼ同位置に2時期にわたってあり、北側の溝が南溝を破壊しているが、位置や土層断面の状況から見れば、人為的な付け替えではなく、氾濫等の自然要因によるものと考えられる。確認全長41.1m、上幅(氾濫による拡張部分を除く)新溝0.39m・旧溝0.16m、下幅新溝0.26m・旧溝0.1m、深さ新溝0.44m・旧溝0.38m。埋土：暗褐色土をベースとする。

#### (7) 69号溝跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端寄り、X38235・Y-45250～45255の範囲を西北西～東南東方向に流れる。東端は太田市教育委員会文化財課調査区(西野原遺跡(6))に続く。重複：東端133号竪穴建物跡を破壊するが、その東隣に133号竪穴建物跡を掘り込んで造営される134号竪穴建物跡には破壊される。時期の変遷は古い順に(旧)133号竪穴建物跡→69号溝跡→134号竪穴建物跡(新)となる。西端は118・

第2節 西野原遺跡(2)で検出された遺構と遺物

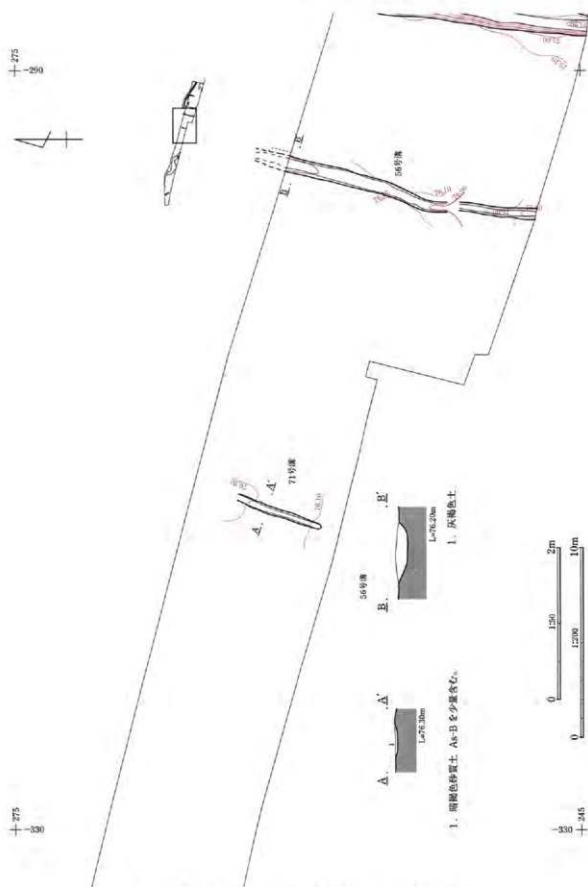


図64 西野原遺跡(2) 56・71号溝跡平面図・土層断面図

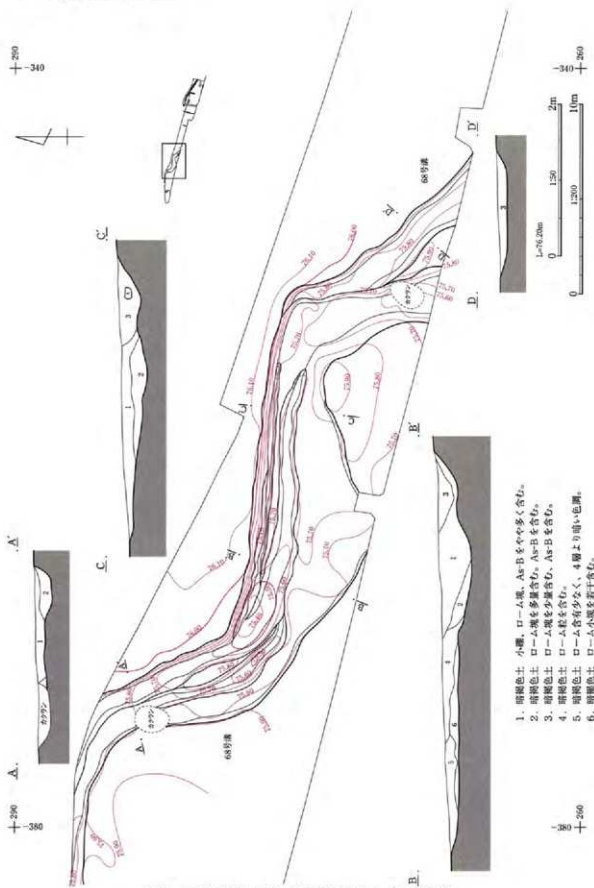


図65 西野原遺跡(2) 68号溝跡平面図・土層断面図

1. 暗褐色土 小礫、ロ-△礫、As-Bを多く含む。
2. 暗褐色土 ロ-△礫を少量含む、As-Bを含む。
3. 暗褐色土 ロ-△礫を少量含む、As-Bを含む。
4. 暗褐色土 ロ-△礫を含む。
5. 暗褐色土 ロ-△含有が少く、4層より細かい色調。
6. 暗褐色土 ロ-△小礫を若干含む。

第2節 西野原遺跡（2）で検出された遺構と遺物

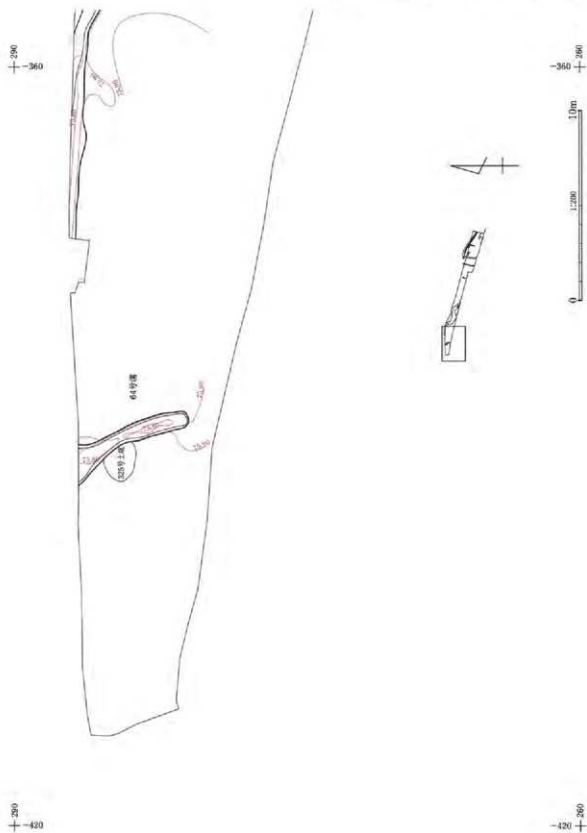


図66 西野原遺跡（2）64号溝跡平面図

### 第3章 発見された遺構と遺物

124号竪穴建物跡に破壊され、それ以西には続いていない。規模と形状：全長8m、上幅1.9m、下幅1.54m、深さ0.24m。埋土：暗褐色土をベースとする。

#### (8) 71号溝跡

位置：西野原遺跡（2）調査区の中央部やや東寄り、西側を119号竪穴建物跡に、東側を120号竪穴建物跡にはさまれた空間、X38255～38260・Y-45250～-45255の範囲を北北東～南南西方向に流れ、南端はX38255・Y-45310の交点付近で止まり、北端はX38260・Y-45313交点付近で確認面上面の削平により検出できなくなる。東端は太田市教育委員会文化財課調査区（西野原遺跡（6））に続く。重複：なし。規模と形状：確認全長4.5m、上幅0.42m、下幅0.28m、深さ0.03m。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

## 第3項 土坑跡

西野原遺跡（2）では、土坑跡は43基検出されている。

調査区の西端付近一帯と中央部、東端一帯で比較的まとまって検出されており、中央部から西寄りの部分と、中央部から東にやや寄った一帯では、土坑跡が全く検出されていない。ただし、その理由は不明である。

出土遺物がほとんど無いと言って良い状態なので、これらの土坑の時期は不明であるが、形状や規模、埋土の堆積状況から、中・近世～近代にかかるものである可能性が高いものと考えられる。

#### (1) 288号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区の北西端。北側と西側が調査区外に続く。X38283・Y-45410～45415。重複：なし。規模と形状：確認最大径1.0m、深さ0.44m、検出面積0.67㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

#### (2) 325号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区の北西端付近。64号溝跡の東側に隣接。X38280・Y-45410～45415。重複：64号溝跡に東辺上端を破壊される。規模と形状：南北にやや長い卵形楕円形状を呈し、長径2.21m・短径1.62m、深さ0.18m、面積2.57㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

#### (3) 327号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区の北西端付近。64号溝跡の東側に隣接。X38280・Y-45395。重複：なし。規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈し、長径1.31m・短径0.958m、深さ0.11m、面積1.137㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

#### (4) 328号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区の南西端付近。64号溝跡南端部の南東側。X38275・Y-45390。重複：なし。規模と形状：南側が北関東自動車道本線調査区（西野原遺跡（3））に続くので全体の形状は不明であるが、検出状態では東西に長い楕円形状を呈し、確認最大径1.31m、深さ0.18m、検出面積1.288㎡。埋



土：黒褐色砂質土をベースとする。

#### (5) 329号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の北東端付近。116号堅穴建物跡の南西側に隣接。X38245・Y-45275。  
重複：なし。規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈し、長径1.99m・短径0.86m、深さ0.18m、面積1.595㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

#### (6) 330号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の北東端付近。116号堅穴建物跡の南側に隣接。X38245・Y-45270。重複：北側を116号堅穴建物跡に破壊されたような格好になっているが、埋土の状況などから116号堅穴建物跡に先行する遺構であるとは考えにくい。規模と形状：北側が116号堅穴建物跡と重複するため、全体の形状は不明であるが、検出された現状では、南北に長い隅丸長方形形状を呈し、あたかも南端で止まる溝のような形状を呈する。現存長径2.11m・短径0.71m、深さ0.16m、面積1.283㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

#### (7) 331号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の北東端付近。430・431号土坑跡のすぐ南隣側、332・333・415号土坑跡のすぐ北側に隣接。X38249・Y-45269。重複：なし。規模と形状：東西に長い形状を呈し、長径1.53m・短径0.98m、深さ0.08m、面積1.133㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

#### (8) 332・333号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端付近。415号・331号土坑跡のすぐ南側に位置する。X38244、Y-45269。重複：ほぼ円形の332号土坑跡の北側を隅丸方形形状の333号土坑跡が掘り込む。規模と形状：333号土坑跡は、東西に長い隅丸長方形形状を呈し、長径1.82m・短径0.9m・深さ0.19m・面積1.492㎡。333号土坑跡に掘り込まれる332号土坑跡は、現存最大長径0.71m、深さ0.09m、面積0.277㎡。埋土：黒褐色・灰褐色砂質土をベースとする。

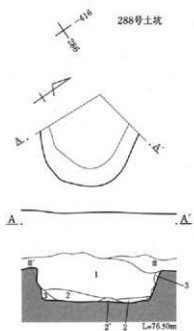
#### (9) 334号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東南端付近。118・124号堅穴建物跡のすぐ東側、133・134号堅穴建物跡のすぐ西側の空間に339号土坑跡と東西に並列する。X38236・Y-45258。重複：なし。規模と形状：南側が北関東自動車道本線調査区(西野原遺跡(3))に続くので、全体の正確な形状は不明であるが、隅丸のほぼ正方形形状を呈し、確認最大径2.04m・深さ0.22m・確認面積3.108㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

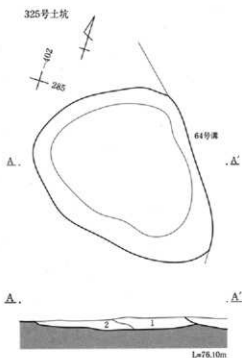
#### (10) 337号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東南端。121・122号堅穴建物跡のすぐ南側、133号堅穴建物跡のすぐ北側の空間に位置する。X38240・Y-45250。重複：なし。規模と形状：東西に長い隅丸の長方形形状を呈し、長径1.79m・短径0.88m・深さ0.11m・面積1.397㎡。埋土：灰褐色砂質土をベースとする。

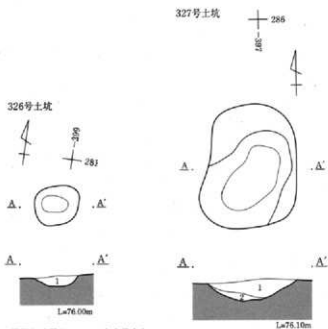
第3章 発見された遺構と遺物



1. 黒褐色砂質土 ローム小塊を含む。As-Bを少量含む。
2. 黒褐色砂質土 炭化物を多量に含む。
3. 明黄褐色粘質土 地山ローム崩落土

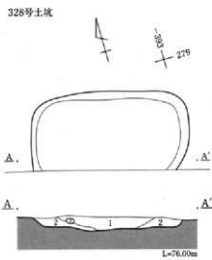


1. 黒褐色砂質土 小礫を含む。
2. 黒褐色砂質土 暗茶褐色砂質土を含む。



1. 黒褐色砂質土 As-Bを少量含む。

1. 黒褐色砂質土 As-Bを少量含む。
2. 黒褐色砂質土 暗茶褐色砂質土が混じる。



1. 黒褐色砂質土 小礫を含む。
2. 黒褐色砂質土 暗茶褐色砂質土を含む。

0 1:40 1m

図67 西野原遺跡(2) 288・325~328号土坑跡平面図・土層断面図

第2節 西野原遺跡(2)で検出された遺構と遺物

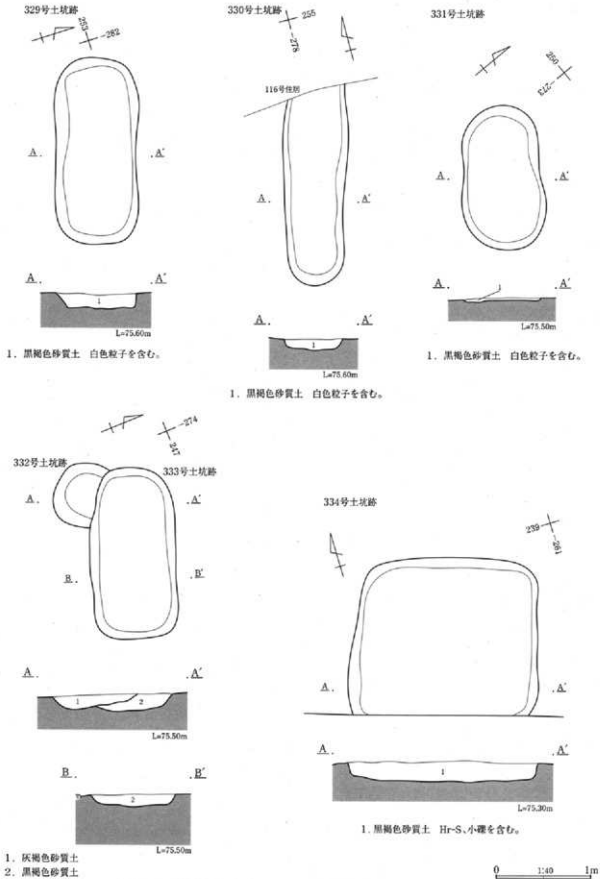


図68 西野原遺跡(2) 329~334号土坑跡平面図・土層断面図

(11) 339号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区の東南端付近。118・124号竪穴建物跡のすぐ東側、133・134号竪穴建物跡のすぐ西側の空間に334号土坑跡と東西に並列する。X382235・Y-45255。重複：なし。規模と形状：南側が北関東自動車道本線調査区（西野原遺跡（3））に続くので、全体の正確な形状は不明であるが、隅丸のほぼ正方形形状を呈し、確認最大径1.51m・深さ0.03m・確認面積0.116㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

(12) 408号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区のほぼ中央部付近。71号溝跡の東側、X38255・Y-45310。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.39m・深さ0.29m・面積0.116㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

(13) 409号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区のほぼ中央部付近。71号溝跡の東側、X38255・Y-45310。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径0.54m・短径0.5m・深さ0.14m・面積0.2㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

(14) 410号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区のほぼ中央部付近。71号溝跡の東側、411号土坑跡の南に隣接する。X38255・Y-45305。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径0.44m・短径0.39m・深さ0.2m・面積0.113㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

(15) 411号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区のほぼ中央部付近。71号溝跡の東側、410号土坑跡の北に隣接する。X38255・Y-45305。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径0.29m・短径0.26m・深さ0.18m・面積0.066㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

(16) 412号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区のほぼ中央部付近。71号溝跡の西側、119号竪穴建物跡の東側に位置し、413号土坑跡の南に隣接する。X38260・Y-45315。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径0.45m・短径0.44m・深さ0.12m・面積0.143㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

西野原遺跡（2）412号土坑跡出土遺物観察表

遺物番号	器種	出土状況 残存状態	流量 (cm)	①色調 ②焼成 ③胎土	器形・整形の特徴
412土坑-1	土師器 坏	埋土 口縁部～底 部約1.8残存	推定口径12.8、残存器高2.9、 器厚0.8	①5YR7/3に近い橙色 ②良好 ③緻密。	口縁部・体部内外面横撫で、底部内面撫で、 底部外面彫り。

第2節 西野原遺跡(2)で検出された遺構と遺物

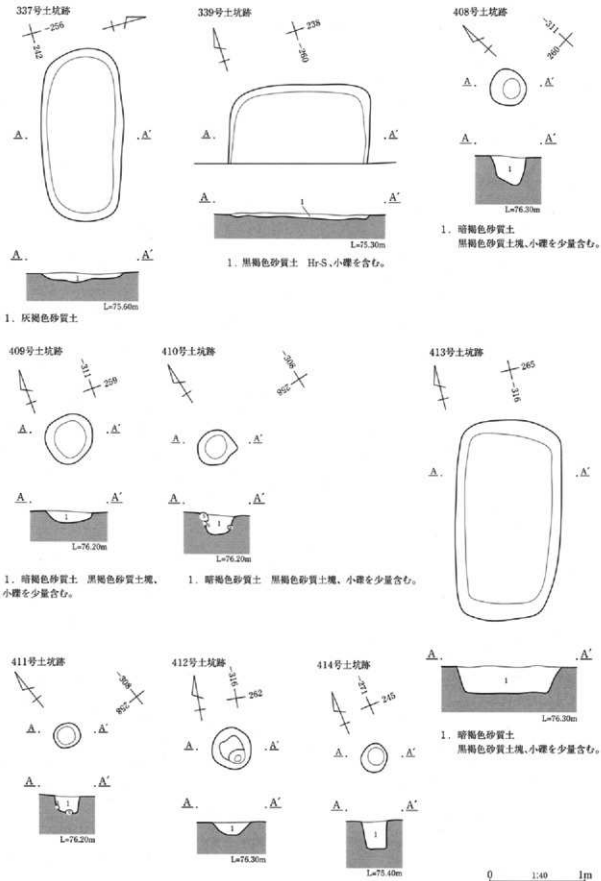


図69 西野原遺跡(2) 337・339・408~411号土坑跡平面図・土層断面図



図70 西野原遺跡(2) 412号土坑跡出土遺物

(17) 413号土坑跡

位置：西野原遺跡(2) 調査区のほぼ中央部付近。71号溝跡の西側、119号竪穴建物跡の東側に位置し、412号土坑跡の北に隣接する。X38260・Y-45315。重複：なし。規模と形状：隅丸の長方形を呈し、長径2.14m・短径1.18m・深さ0.31m・面積2.167㎡。埋土：暗茶褐色砂質土をベースとする。

(18) 414号土坑跡

位置：西野原遺跡(2) 調査区の東端部付近。65号溝跡の南側、118・124号竪穴建物跡の西側に位置する。X38240・Y-45270。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径0.32m・短径0.28m・深さ0.29m・面積0.065㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

(19) 415号土坑跡

位置：西野原遺跡(2) 調査区の東端部付近。65号溝跡の西側に位置し、416・417・418号土坑と東西に並列する。X38245・Y-45270。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径0.32m・短径0.28m・深さ0.29m・面積0.065㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

(20) 416号土坑跡

位置：西野原遺跡(2) 調査区の東端部付近。65号溝跡先端の西側に位置し、415・417・418号土坑と東西に並列する。X38245・Y-45270。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.38m・深さ0.19m・面積0.068㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

(21) 417号土坑跡

位置：西野原遺跡(2) 調査区の東端部付近。65号溝跡の西側に位置し、415・417・418号土坑と東西に並列する。X38245・Y-45275。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.32m・深さ0.38m・面積0.123㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

(22) 418号土坑跡

位置：西野原遺跡(2) 調査区の東端部付近。65号溝跡の西側に位置し、415・416・417号土坑と東西に並列する。X38245・Y-45275。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径0.36m・短径0.29・深さ0.1m・面積0.087㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

(23) 419号土坑跡

位置：西野原遺跡(2) 調査区の東端部付近。418号土坑の西に位置する。X38245・Y-45275。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径0.46m・短径0.42・深さ0.41m・面積0.144㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

## (24) 420号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。419号土坑の西に位置する。X38245・Y-45275。重複：なし。規模と形状：ほぼ円形状を呈し、径0.21m・深さ0.08m・面積0.039㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

## (25) 421号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。420号土坑の西に位置する。X38245・Y-45275。重複：北側を422号土坑跡に破壊される。規模と形状：北側を422号土坑跡に破壊されるため、全体の形状は不明である。現存径0.21m・深さ0.14m・現存面積0.02㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

## (26) 422号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。420号土坑の西に位置する。X38245・Y-45280。重複：南側421号土坑跡を破壊する。規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈し、長径0.42m・短径0.38・深さ0.32m・面積0.14㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

## (27) 423号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。421・422号土坑の西に位置する。X38245・Y-45280。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.24m・深さ0.19m・面積0.048㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

## (28) 424号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。116号竪穴建物跡の南西、329号土坑の南に位置する。X38250、Y-45280。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.38m・深さ0.29m・面積0.072㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

## (29) 425号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。116号竪穴建物跡の西南西、329号土坑跡の西に位置する。X38250、Y-45280。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.38m・深さ0.29m・面積0.072㎡。埋土：暗褐色砂質土をベースとする。

## (30) 426号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。116号竪穴建物跡の南西、329号土坑跡の北、330号土坑跡の西に位置する。X38250、Y-45275。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径0.54m・短径0.44・深さ0.5m・面積0.184㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

## (31) 427号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。116号竪穴建物跡・330号土坑跡の真南に位置する。428・429・430・431号土坑跡などと東西に並列する。X38250、Y-45275。重複：なし。規模と形状：楕円

第3章 発見された遺構と遺物

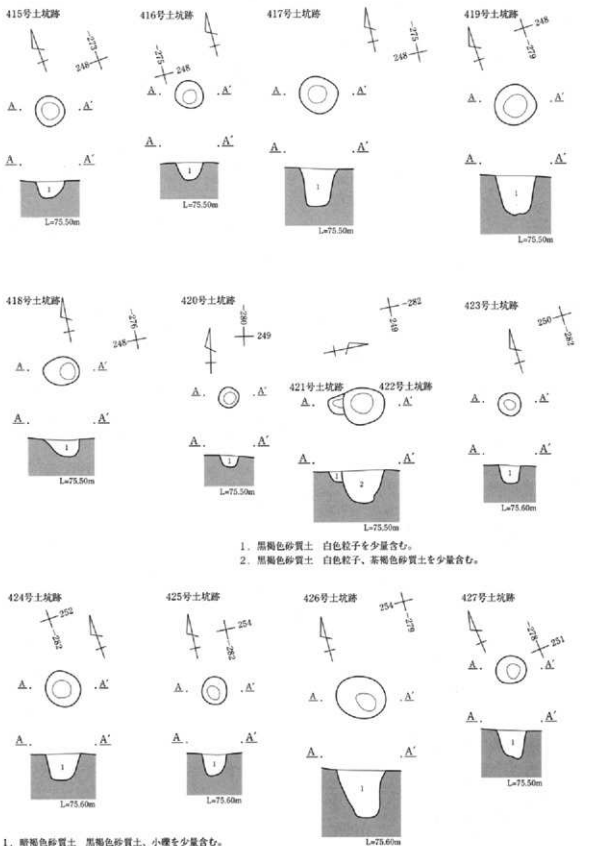


図71 西野原遺跡(2) 415~427号土坑跡平面図・土層断面図



形状を呈し、長径0.32m・短径0.3m・深さ0.3m・面積0.075㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

### (32) 428号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。116号竪穴建物跡・330号土坑跡の南東に位置する。427・429・430・431号土坑跡などと東西に並列する。X38250・Y-45275。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.29m・深さ0.21m・面積0.06㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

### (33) 429号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。116号竪穴建物跡・330号土坑跡の南東に位置する。427・428・430・431号土坑跡などと東西に並列する。X38250・Y-45270。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.4m・深さ0.22m・面積0.116㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

### (34) 430号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。116号竪穴建物跡・330号土坑跡の南東、331号土坑跡の北、65号溝跡の西に位置する。427・428・429・431号土坑跡などと東西に並列する。X38250・Y-45270。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.38m・深さ0.11m・面積0.101㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

### (35) 431号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。331号土坑跡の北、65号溝跡の西に位置する。427・428・429・430号土坑跡などと東西に並列する。X38250・Y-45270。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.42m・深さ0.13m・面積0.151㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

### (36) 432号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。436号土坑跡の南、65号溝跡の西に位置する。X38250・Y-45270。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.31m・深さ0.21m・面積0.067㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

### (37) 433号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。436号土坑跡の南西、65号溝跡の西に位置し、434号土坑と東西に隣接する。X38250・Y-45270。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.28m・深さ0.19m・面積0.063㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

### (38) 434号土坑跡

位置：西野原遺跡(2)調査区の東端部付近。436号土坑跡の南西、65号溝跡の西に位置し、433号土坑と東西に隣接する。X38250・Y-45270。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.28m・深さ0.48m・面積0.072㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

第3章 発見された遺構と遺物

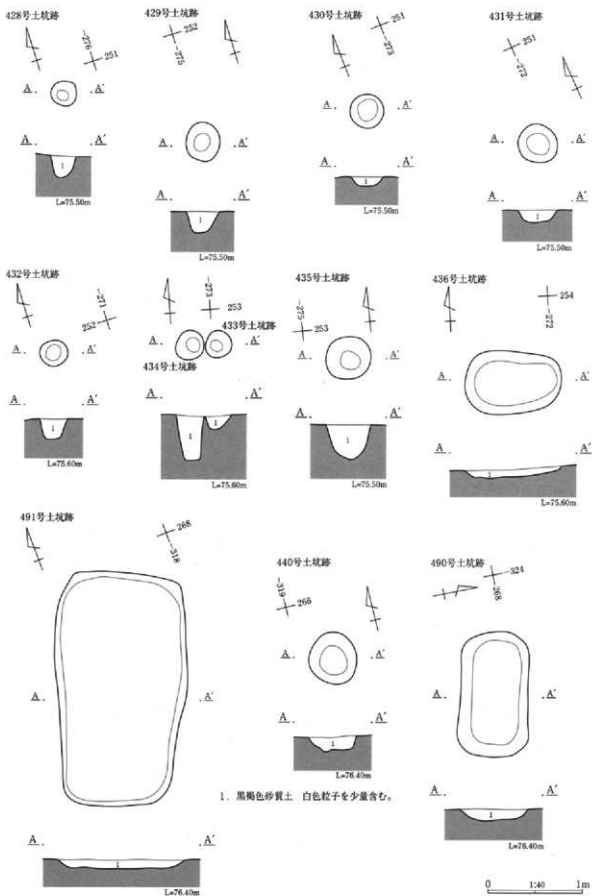


図72 西野原遺跡(2) 428~436・440・490・491号土坑跡平面図・土層断面図

(39) 435号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区の東端部付近。436号土坑跡の南西、65号溝跡の西に位置し、433・434号土坑と東西に隣接する。X38250・Y-45270。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、径0.49m・深さ0.39m・面積0.176㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

(40) 436号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区の東端部付近。65号溝跡の西に位置し、433・434号土坑の北東に隣接する。X38250・Y-45270。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径1.05m・短径0.65m・深さ0.09m・面積0.581㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

(41) 440号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区のはほぼ中央部付近。119号竪穴建物跡の北に位置し、491号土坑の南東隅に隣接する。X38265・Y-45315。重複：なし。規模と形状：楕円形状を呈し、長径0.56m・短径0.51m・深さ0.14m・面積0.223㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

(42) 490号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区のはほぼ中央部付近。119号竪穴建物跡の北に位置する。X38265・Y-45320。重複：なし。規模と形状：隅丸長方形を呈し、長径1.32m・短径0.72m・深さ0.12m・面積0.905㎡。埋土：黒褐色砂質土をベースとする。

(43) 491号土坑跡

位置：西野原遺跡（2）調査区のはほぼ中央部付近。119号竪穴建物跡の北に位置し、491号土坑の南東隅に隣接する。X38265・Y-45320。重複：なし。規模と形状：隅丸長方形を呈し、長径2.49m・短径1.42m・深さ0.12m・面積3.095㎡。埋土：暗茶褐色砂質土をベースとする。

## 第3節 西野原遺跡(1)(2)で検出された縄文時代の遺物

西野原遺跡(1)(2)で出土した縄文時代の遺物は24点で、内訳は土器が21点、石器が3点である。土器はいずれも全長数センチメートル足らずの小片ばかりである。石器は、鎌が1点と打斧が2点であるが、打斧は2点とも刃部が一部欠損している。縄文時代の遺物のうちの23点が西野原遺跡(1)調査区から出土している。土器は、西野原遺跡(2)調査区の413号土坑跡の埋土中から出土した前期中葉黒浜式の小片1点以外は、すべて中期後半加曾利E式のものである。

出土遺構別にみると、西野原遺跡(1)調査区の16号土坑跡の埋土中から、中期後半の加曾利E 3~4式の深鉢の胴部小片が、また同じく西野原遺跡(1)調査区の19号土坑跡の埋土中からチャート製の石鎌が、さらに先述したように、西野原遺跡(2)調査区の413号土坑跡の埋土中から前期中葉の黒浜式土器深鉢胴部小片が、それぞれ出土している。ただ、それら縄文時代遺物出土遺構の埋土の状況からみても、また、縄文時代の遺物がそれぞれでそれ1点しか出土していないという状況からみても、それらの土坑が縄文時代の遺構であると到底見なしがたい。西野原遺跡(1)(2)調査区内においては、確実に縄文時代まで遡る遺構は無く、これらの土坑跡から出土した縄文時代遺物は、後世の流れ込み、混入とみ方がよい。

それら3箇所土坑から出土した3点の遺物以外の21点の遺物、中期後半加曾利E式土器小片19点及び打斧2点は、西野原遺跡(1)調査区においてはほぼ全面的に検出された遺物包含層からの出土である。この遺物包含層は、現地表面より約30~40cm下に約10~25cmほどの厚さで、概ね水平かつ均質に堆積する褐色土で、白色軽石粒を少量混入する。包含層中からの縄文時代中期後半土器片の出土は、西野原遺跡(1)調査区の中央部やや東寄りのエリアにかなりまとまっており、とくにX38285~38290・Y-45480Gr.付近にややまとまって出土している。

西野原遺跡(1)(2)縄文時代出土遺物観察表

遺物番号	器種・部位 時期	出土場所	法量 (cm)	①色調 ②胎土	原体・施文方向・ほか特徴など
縄-1	深鉢・胴部 加曾利E3~4式	①116土坑埋土		①2.5YR6/2灰白色~8/4淡黄色 ②径1mm程度の砂礫と雲母・軽石粒を含む	LR斜め
縄-2	石鎌	①119号土坑埋土	全長28、幅13、厚0.4、重1g	①10Y5/1 灰色	
縄-3	深鉢・胴部 加曾利E3式	①①包含層Ⅲ層 X38295・Y-45500		①7.5YR6/4にぶい橙色 ②微細な砂礫を含む	LR横~斜め、縄-16と同一個体か?
縄-4	深鉢・口縁部 加曾利E2式	①①包含層Ⅲ層 X38290・Y-45475		①5YR5/4にぶい赤褐色 ②径2mm程度の砂礫を含む	LR斜め
縄-5	深鉢・口縁部 加曾利E2~3式	①①包含層Ⅲ層 X38290・Y-45475		①7.5YR4/2灰褐色 ②微細な砂礫を含む	不明
縄-6	深鉢・胴部 加曾利E2式	①①包含層Ⅲ層 X38290・Y-45475		①7.5YR6/3にぶい褐色 ②径1~4mm程度の砂礫を含む	LR横?
縄-7	深鉢・胴部 加曾利E3式	①①包含層Ⅲ層 X38290・Y-45475		①5YR5/4にぶい赤褐色 ②径2mm程度の砂礫を含む	LR横
縄-8	深鉢・胴部 加曾利E3式	①①包含層Ⅲ層 X38290・Y-45475		①5YR5/4にぶい赤褐色 ②径2~3mm程度の砂礫を含む	LR横
縄-9	深鉢・胴部 加曾利E3式	①①包含層Ⅲ層 X38290・Y-45475		①5YR5/4にぶい赤褐色 ②径1~4mm程度の砂礫を含む	LR横
縄-10	深鉢・胴部 加曾利E3式	①①包含層Ⅲ層 X38290・Y-45475		①2.5YR5/4にぶい赤褐色 ②径2mm程度の砂礫をふくむ	LR横
縄-11	深鉢・胴部 加曾利E3式	①①包含層Ⅲ層 X38285・Y-45475		①2.5YR4/4にぶい赤褐色 ②径2mm程度の砂礫を多量に含む	LR斜め
縄-12	深鉢・胴部 加曾利E3式	①①包含層Ⅲ層 X38285・Y-45475		①2.5YR4/6赤褐色 ②径1mm程度の砂礫を多量に含む	LR横
縄-13	深鉢・胴部 加曾利E3式	①①包含層Ⅲ層 X38285・Y-45475		①7.5YR6/3にぶい褐色 ②径1~2mm程度の砂礫を多量に含む	LR横
縄-14	深鉢・胴部 加曾利E3式	①①包含層Ⅲ層 X38290・Y-45475		①2.5YR5/6明赤褐色 ②径1mm程度の砂礫を多量に含む	LR横

第3節 西野原遺跡(1)(2)で検出された縄文時代の遺物

遺物番号	器種・部位 時期	出土場所	量 (cm)	①色調 ②胎土	原形・施文方向・ほか特徴など
縄-15	深鉢・胴部 加曾利E3式	①包含層Ⅲ層 X38295・Y-45500		①75YR6/4にぶい橙色 ②微細な砂礫を含む	LR斜め
縄-16	深鉢・胴部 加曾利E3式	①包含層Ⅲ層 X38295・Y-45500		①75YR6/4にぶい橙色 ②微細な砂礫を含む	LR斜め、縄-3と同一個体か?
縄-17	深鉢・胴部 加曾利E4式	①包含層Ⅲ層 X38295・Y-45515		①10YR7/3にぶい黄橙色 ②微細な砂礫を含む	LR斜め
縄-18	深鉢・胴部 加曾利E4式	①包含層Ⅲ層 X38295・Y-45515		①10YR7/3にぶい黄橙色 ②微細な砂礫を含む	LR斜め
縄-19	深鉢・胴部 加曾利E3式	①包含層Ⅲ層 X38285・Y-45480		①10YR7/4浅黄褐色 ②微細な砂礫を含む	条線文
縄-20	深鉢・胴部 加曾利E3式	①包含層Ⅲ層 X38285・Y-45480		①75YR7/4にぶい橙色 ②微細な砂礫を含む	条線文
縄-21	深鉢・胴部 加曾利E4式	①包含層Ⅲ層 X38295・Y-45520		①10YR8/4浅黄褐色 ②径1mm程度の砂礫を含む	LR横
縄-22	打製石斧	①包含層Ⅲ層 X38295・Y-45515	全長10.6、幅5.9、 厚さ1.8、重さ 1.35g	①濃い青緑色	分銅形、刃部右下端部欠損
縄-23	打製石斧	①包含層Ⅲ層 X38290・Y-45475	全長10.5、幅7、 厚さ1.5、重さ1.25	①緑灰色	ばら形、刃部欠損
縄-24	深鉢・胴部 黒沢式	②413号土坑跡		①5YR4/4にぶい赤褐色 ②極細な 入	LR横

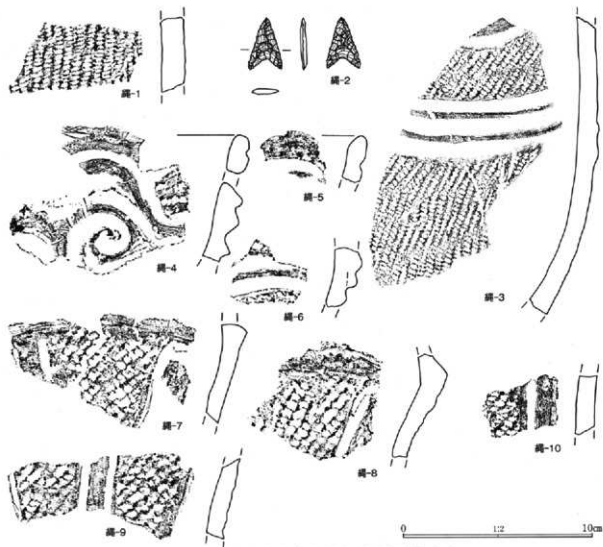


図73 西野原遺跡(1)(2)縄文時代出土遺物(1)

第3章 発見された遺構と遺物

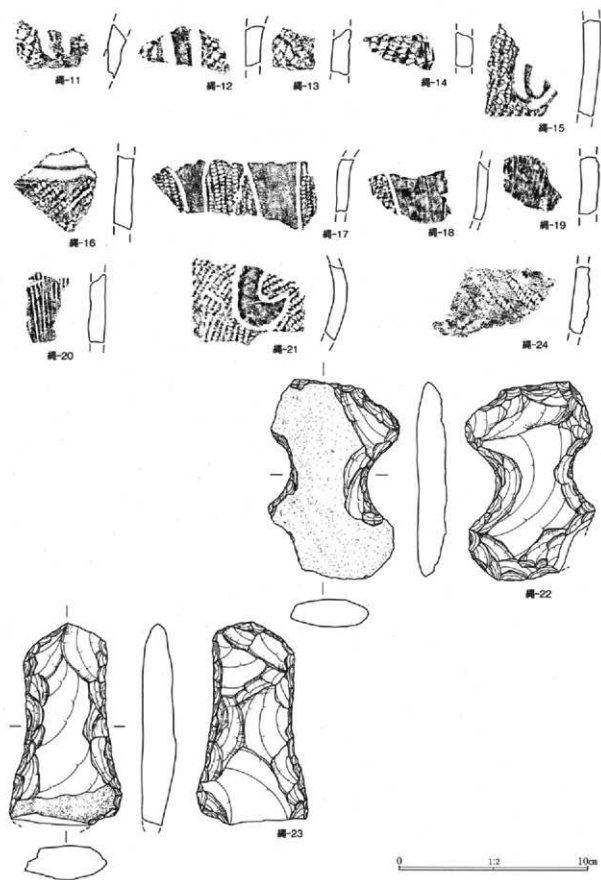


図74 西野原遺跡 (1) (2) 縄文時代出土遺物 (2)

## まとめ

本書で報告する一般県道国定敷線地方特定道路整備事業に伴う西野原遺跡（1）（2）の調査では、隣接する石田川流域調節池調査区（西野原遺跡（5）（7））を中心に検出された東日本最大級とも言える製鉄遺構群と関連する遺構はほとんど検出されなかった。

西野原遺跡（5）（7）地区では、縄文時代中期後半の集落、当該地域一帯で初めて見つかった弥生時代の集落、古墳時代後期の集落、平安時代前～中期の集落、中世の掘立柱建物跡等が検出されているが、なかでも特筆すべきが7世紀末の製鉄関連遺構群で、律令制成立期の製鉄に関わる様々な遺構の存在が確認されている。

西野原遺跡については、本書で報告する西野原遺跡（1）（2）調査区以外にはまだ整理事業に着手されていないので、全容は不確定な部分も少なくないが、西野原遺跡（5）（7）調査区で検出された製鉄遺構群では、長方形箱形製鉄炉跡が4基と鍛冶工房群を構成した掘立柱建物群が検出され、総延長80mほどにも及ぶ細長い範囲に、製鉄炉から掻き出された大量の鉄滓類がいくつかのグループを形成しながら地表面を覆い、累々と廃棄されたそのままの状態を保ったまま検出され、その下層からは、鉄滓や炉壁・炉底の残骸が大量に投棄された大規模な廃棄坑が検出されている。平成17年度における発掘調査で出土した鉄滓類の総重量は30トンにも及ぶ。

さらに周辺からは、炉体を形成するために採取された粘土の探掘坑が150基余り、作業場や製品の仮置きに使用されたとみられる方形堅穴遺構、製鉄炉から延びる廃滓溝、製鉄作業施設を区画する欄干などの施設の遺構が検出され、製鉄原料とみられる膨大な量の生砂鉄が一角に集中して出土しているところから、砂鉄の精錬場的な状況にあったことも判明している。

これらの検出された遺構全部を含み、さらに調査対象範囲外に広がる広大なエリアに、律令制成立期における一つの総合関連的な製鉄関連遺構群が形成されていたものとみるべきであろう。

この時期の、この地域における大規模な鉄製品生産の目的や経営主体、その歴史的な意義付けなどは、今後の西野原遺跡にかかる整理事業の進展の中で、徐々に解明していかなければならない課題である。

本書で報告する西野原遺跡（1）（2）調査区では、鉄生産に関わるものは、わずかに124号堅穴建物跡で鍛冶炉遺構とおぼしき極めて小規模なピットが検出されているに過ぎない訳であるが、7世紀末における大規模鉄生産施設群縁辺の一角の様相を解明した調査と位置づけることができる。

本調査区西半部にあたる西野原遺跡（1）調査区においては、溝跡群と用途不明の土坑跡群しか主立った遺構が検出されていないことからみれば、本調査区の北側に展開する大規模鉄生産遺構群は、少なくとも、調査区を画する現一般県道太田大岡々線以西には展開していないと言うことを示しており、また、本調査区東半部に当たる西野原遺跡（2）調査区において、製鉄関連遺構がほとんど検出されていないことからみれば、大規模鉄生産遺構群の南限は、当調査区の範囲まではほぼ及ばないということになる。すなわち、本調査区における調査成果が、西野原遺跡（5）（7）調査区で検出された7世紀末の稀有な巨大鉄生産関連施設の範囲を確定する上で、重要な意味を有してくるわけである。また、本調査区東半分の西野原遺跡（2）で検出された堅穴建物跡群が、いずれも5世紀末～6世紀初頭頃で、6世紀初頭を中心とするものであり、7世紀末が中心とされる西野原遺跡（5）（7）で検出された巨大鉄生産施設群からみれば約200年弱、先行するものであり、この点からも、本調査区と製鉄遺構群との関連性は見出すことはできない。

巨大鉄生産関連施設の消長と、それが形成・採集される以前・以後の当該地域における土地利用の様相

## まとめ

や歴史的環境の変化などについては、いずれ西野原遺跡全体の整理作業を進める中で、検出遺構・出土遺物の精緻な分析を行いながら、さらに深く検討していくべき課題と言えよう。

また、本調査区において検出された遺構・遺物に関して言えば、竪穴建物跡が検出された西野原遺跡（2）調査区では竪穴建物跡の分布は比較的まばらであり、重複しているものは少ない。調査した範囲に限って言えば、たびたび建物の建て替えを行った密集した集落というほどの遺構密度ではなく、集落自体の中心部分は調査区外に求めるべきであろう。また、先述したように、西側の調査区である西野原遺跡（1）において溝跡群と土坑跡群しか検出されていないことからみれば、微地形の変化に伴う集落範囲の縁辺部分が個々調査対象地にかかったと言うことになる。

さらに、西野原遺跡（2）調査区のほぼ中央で検出された119号竪穴建物跡から土器が55点、そのやや西側に位置する120号竪穴建物跡から土器が23点と、他の遺構からの出土遺物が極めて少ない中で、非常に目立っている。特に杯型の土器の出土量が際だっており、何らかの祭祀あるいはそれに伴う儀礼等の行為がなされた可能性も指摘できよう。ただ、それらの竪穴建物跡遺構自体に突出した諸要件を見出すことは困難であり、また、出土した遺物そのものの様相も、たとえば土器類の器形・器種や調整方法などに特異な部分を指摘できるわけではない。

いずれにしても、広大な西野原遺跡としては、本書によって、その最も小規模な調査区にかかる部分のみの調査成果がまとめられたに過ぎないわけであり、上記の諸点は、今後、西野原遺跡（3）～（7）の整理作業が進められ、遺跡の全貌が明らかにされていく過程において、改めてさらなる検討を加えて行くべき課題であろう。

そうすることによってはおじめて、これら一連の開発行為に伴う記録委保存の措置としての発掘調査の成果に拠る当該地域一帯の歴史像や検出された諸遺構群の歴史的な意義の解明、ひいては発掘調査成果の地域社会への還元につながるようになるわけである。今はまだ、その緒に着いたばかりの状態なのである。

## （参考文献）

- ・「山田郡誌」 大岡々町山田郡教育会 1939
- ・「嗣生市史 上巻」 嗣生市 1958
- ・「嗣生市史 中巻」 嗣生市 1968
- ・「嗣生市史 別巻」 嗣生市 1971
- ・「群馬県史 通史編2 原始古代2」 群馬県 1991
- ・「飯塚本町誌 上巻」 飯塚本町 1991
- ・「新田町誌 第1巻 通史編」 新田町 1990
- ・「太田市史 通史編 原始古代」 太田市 1996
- ・財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団「年報」23～24 2004～2005
- ・財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団「北関東自動車道発掘調査遺跡記念講演会 発掘が語る古代の太田」 2005
- ・財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団「平成17年度調査遺跡発表会」 2005
- ・財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団「平成18年度調査遺跡発表会」 2006





西野原遺跡(1)全景(西より)



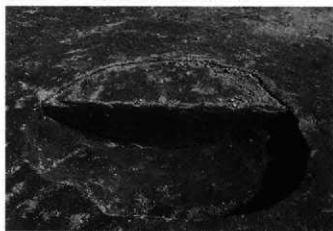
西野原遺跡(1)全景(東より)



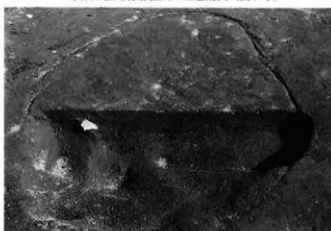
1号掘立柱建物跡全景(南より)



1号掘立柱建物跡柱穴1土層断面(西より)



1号掘立柱建物跡柱穴2土層断面(西より)



1号掘立柱建物跡柱穴3土層断面(西より)



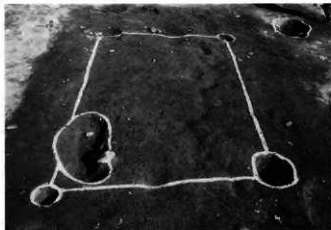
1号掘立柱建物跡柱穴4土層断面(西より)



1号掘立柱建物跡柱穴5土層断面(西より)



1号掘立柱建物跡柱穴6土層断面(西より)



2号掘立柱建物跡全景(西より)



3号掘立柱建物跡全景(南より)



1号溝跡全景(北より)



2号溝跡全景(北より)



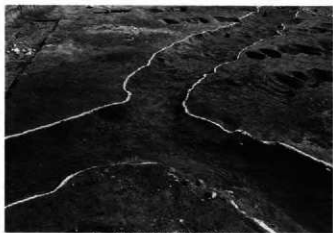
3・4号溝跡全景(西より)



3・4・15号溝跡交差点(南より)



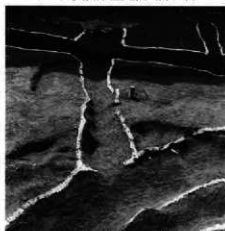
5号溝跡全景(西より)



5・9号溝跡交差地点 (南より)



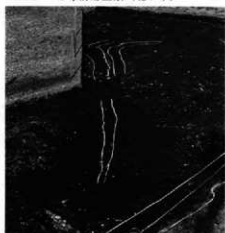
7号溝跡全景 (東より)



8号溝跡全景 (北より)



9号溝跡全景 (南より)



10・11号溝跡全景 (南より)



12号溝跡全景 (東より)



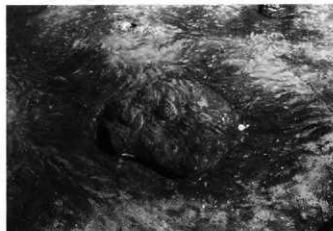
13・14号溝跡全景 (南より)



1号土坑跡全景 (東より)



2号土坑跡全景 (東より)



3号土坑跡全景 (南より)



4号土坑跡全景 (南より)



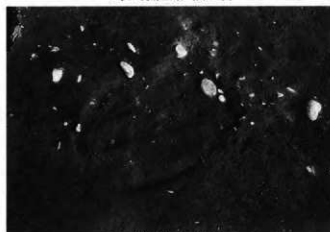
5号土坑跡全景 (南より)



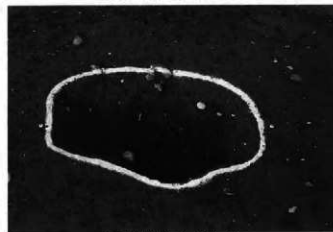
6号土坑跡全景 (南より)



8号土坑跡全景 (南より)



9号土坑跡全景 (南より)



10号土坑跡全景 (南より)



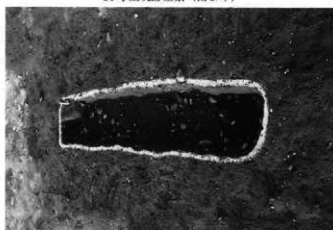
12号土坑跡全景 (南より)



14号土坑跡全景 (南より)



15号土坑跡全景 (南より)



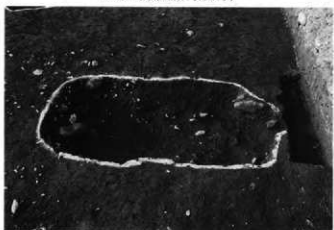
16号土坑跡全景 (南より)



17号土坑跡全景 (北より)



18号土坑跡全景 (北より)



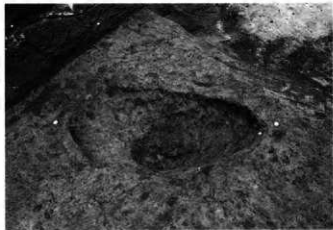
19号土坑跡全景 (南より)



22号土坑跡全景 (南より)



19号土坑跡 (西より)



1号ピット全景



116号竪穴建物跡全景 (西より)



116号竪穴建物跡遺物出土状況 (西より)



116号竪穴建物跡土層断面 (西より)



116号竪穴建物跡土層断面 (北より)



118・124号竪穴建物跡全景 (南東より)



118・124号竪穴建物跡遺物出土状況 (北西より)



118号竪穴建物跡遺物出土状況



118号竪穴建物跡遺物出土状況



118号竪穴建物跡土層断面 (北東より)



118号竪穴建物跡土層断面 (北西より)



118号竪穴建物跡竈 (南東より)



118号竪穴建物跡竈土層断面 (南西より)



118号竪穴建物跡竈場方 (南東より)



118号竪穴建物跡竈場方土層断面 (南西より)



118号竪穴建物跡電線方土層断面 (南東より)



118号竪穴建物跡貯蔵穴土層断面 (南東より)



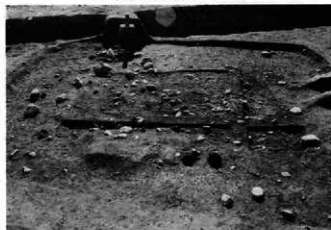
124号竪穴建物跡全景 (南西より)



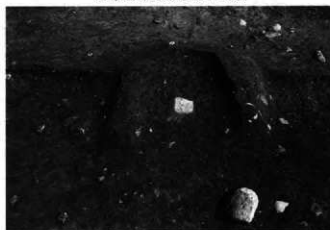
124号竪穴建物跡遺物出土状況



124号竪穴建物跡遺物出土状況



124号竪穴建物跡土層断面 (北東より)



124号竪穴建物跡竈 (南西より)

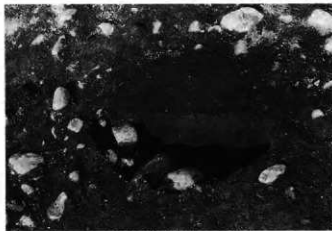


124号竪穴建物跡竈土層断面 (南西より)

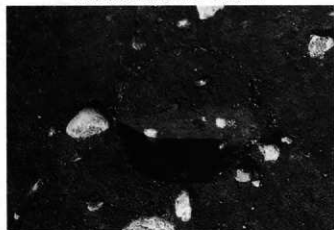




124号竪穴建物跡土層断面 (北西より)



124号竪穴建物跡柱穴1土層断面



124号竪穴建物跡柱穴3土層断面



124号竪穴建物跡全景 (南東より)



119号竪穴建物跡遺物出土状況 (南東より)



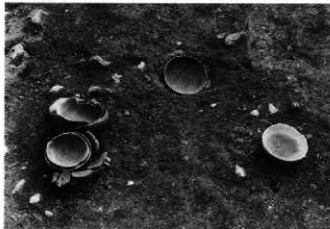
119号竪穴建物跡遺物出土状況 (南東より)



119号竪穴建物跡遺物出土状況



119号竪穴建物跡遺物出土状況



119号竪穴建物跡遺物出土状況



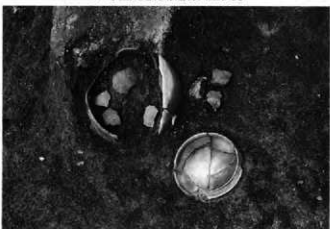
119号竪穴建物跡遺物出土状況



119号竪穴建物跡遺物出土状況



119号竪穴建物跡遺物出土状況



119号竪穴建物跡遺物出土状況



119号竪穴建物跡遺物出土状況



119号竪穴建物跡遺物出土状況



119号竪穴建物跡遺物出土状況



119号壑穴建物跡遺物出土状況



119号壑穴建物跡遺物出土状況



119号壑穴建物跡遺物出土状況



119号壑穴建物跡遺物出土状況



119号壑穴建物跡遺物出土状況



119号壑穴建物跡遺物出土状況



119号壑穴建物跡遺物出土状況



119号壑穴建物跡貯蔵穴遺物出土状況（南東より）



119号堅穴建物跡土層断面 (南東より)



119号堅穴建物跡土層断面 (北西より)



119号堅穴建物跡土層断面 (南東より)



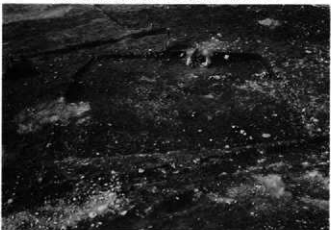
119号堅穴建物跡土層断面 (南東より)



119号堅穴建物跡土層断面 (南東より)



120号堅穴建物跡全景 (南東より)



120号堅穴建物跡遺物出土状況 (南東より)



120号堅穴建物跡遺物出土状況



120号竪穴建物跡遺物出土状況



120号竪穴建物跡遺物出土状況



120号竪穴建物跡遺物出土状況



120号竪穴建物跡遺物出土状況



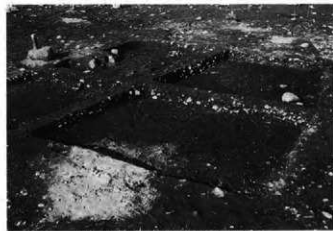
120号竪穴建物跡甕遺物出土状況（南東より）



120号竪穴建物跡甕遺物出土状況（北西より）



120号竪穴建物跡土層断面（北西より）



120号竪穴建物跡土層断面（南西より）



120号竪穴建物跡電土層断面 (南東より)



120号竪穴建物跡電土層断面 (南西より)



120号竪穴建物跡電層方 (南東より)



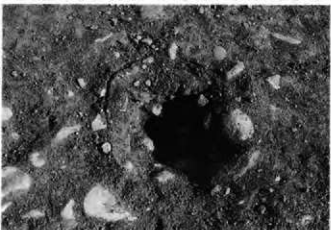
120号竪穴建物跡柱穴1土層断面 (南東より)



120号竪穴建物跡柱穴2土層断面 (南東より)



120号竪穴建物跡柱穴3土層断面 (南東より)



120号竪穴建物跡柱穴4土層断面 (南東より)



121・122号竪穴建物跡全景 (南西より)



121・122号竪穴建物跡土層断面 (南西より)



121・122号竪穴建物跡土層断面 (北西より)



121号竪穴建物跡竪 (南西より)



121号竪穴建物跡土層断面 (南東より)



123号竪穴建物跡土層断面 (北西より)



123号竪穴建物跡土層断面 (南東より)



131号竪穴建物跡全景 (南西より)



131号竪穴建物跡遺物出土状況 (南西より)



131号堅穴建物跡遺物出土状況 (南西より)



131号堅穴建物跡遺物出土状況



131号堅穴建物跡遺物出土状況



131号堅穴建物跡土層断面 (南より)



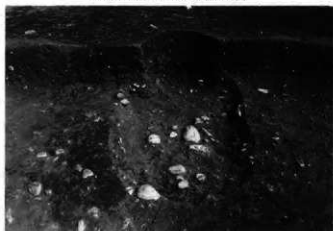
131号堅穴建物跡 (北西より)



131号堅穴建物跡竈 (南西より)

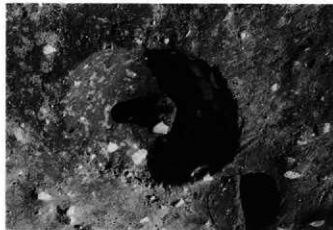


131号堅穴建物跡竈土層断面 (南西より)



131号堅穴建物跡竈掘方 (南西より)





131号壑穴建物跡貯蔵穴全景 (南西より)



132号壑穴建物跡全景 (南東より)



132号壑穴建物跡土層断面 (南西より)



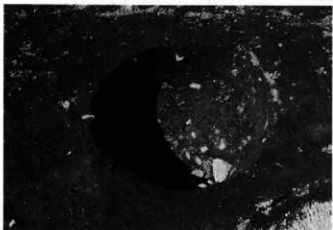
132号壑穴建物跡遺物出土状況



132号壑穴建物跡竈 (南東より)



132号壑穴建物跡竈土層断面 (南西より)



132号壑穴建物跡貯蔵穴全景 (南東より)



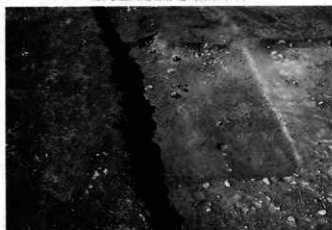
133号壑穴建物跡全景 (北東より)



133号堅穴建物跡窠 (北東より)



133号堅穴建物跡遺物出土状況 (南西より)



134号堅穴建物跡全景 (南東より)



134号堅穴建物跡窠 (南東より)



134号堅穴建物跡遺物出土状況



134号堅穴建物跡土層断面 (北東より)



134号堅穴建物跡土層断面 (北西より)



56号溝跡全景 (南より)



59・60号溝跡土層断面C-C' (南西より)



59・60号溝跡土層断面E-E' (南西より)



64号溝跡全景 (南西より)



65号溝跡土層断面A-A' (南より)



68号溝跡土層断面B-B' (東より)



68号溝跡土層断面C-C' (東より)



69号溝跡土層断面A-A' (西より)



71号溝跡土層断面A-A' (南より)



325号土坑跡全景（西より）



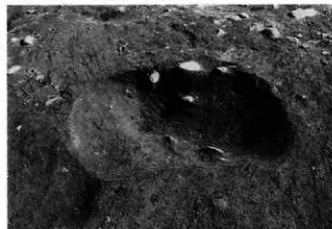
325号土坑跡土層断面（南より）



326号土坑跡全景（南より）



326号土坑跡土層断面（南より）



327号土坑跡全景（西より）



327号土坑跡土層断面（南より）



328号土坑跡全景（南より）



328号土坑跡土層断面（南より）



329号土坑跡全景（南より）



329号土坑跡土層断面（東より）



330号土坑跡全景（西より）



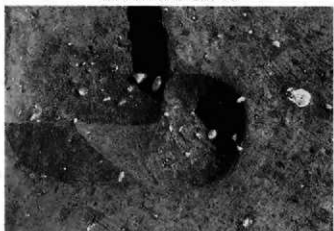
330号土坑跡土層断面（南より）



331号土坑跡全景（北より）



331号土坑跡土層断面（東より）



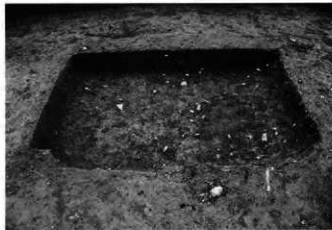
332号土坑跡全景（西より）



332・333号土坑跡土層断面（東より）



334号土坑跡全景（北より）



334号土坑跡土層断面（北より）



337号土坑跡全景（南より）



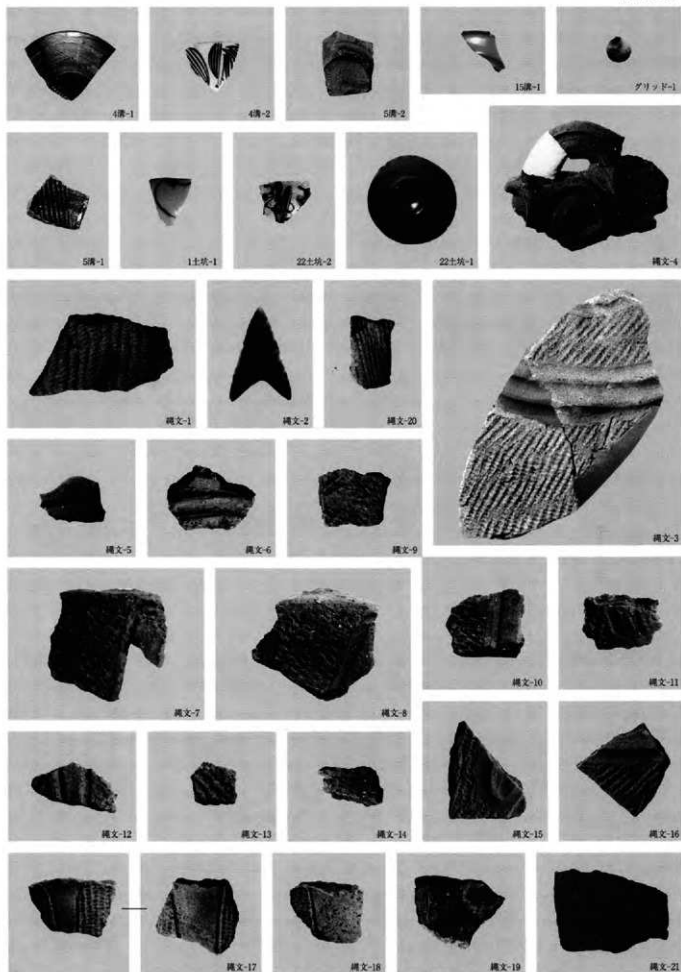
337号土坑跡土層断面（東より）



339号土坑跡全景（北より）



339号土坑跡土層断面（北より）



西野原遺跡（1）土坑跡・遺構外出土遺物、縄文時代出土遺物



西野原遺跡 (1) 縄文時代出土遺物、西野原遺跡 (2) 116~119号竪穴建物跡出土遺物

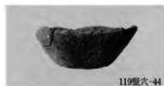




西野原遺跡(2) 119号穴建物跡出土遺物



119塚穴-43



119塚穴-44



119塚穴-45



119塚穴-46



119塚穴-47



119塚穴-48



119塚穴-49



119塚穴-52



119塚穴-53



119塚穴-54



120塚穴-1



120塚穴-2



120塚穴-3



120塚穴-4



120塚穴-5



120塚穴-6



120塚穴-7



西野原遺跡(2) 120号壑穴建物跡出土遺物



120壺穴-20



120壺穴-23



120壺穴-19



124壺穴-1



131壺穴-1



131壺穴-3



131壺穴-2



131壺穴-5



131壺穴-4



131壺穴-6



131壺穴-7



132壺穴-1



134壺穴-1



134壺穴-2



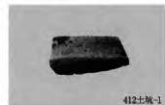
134壺穴-3



134壺穴-4



134壺穴-5



412土坑-1

## 報告書抄録

書名ふりがな	にしのはらいせき(いら) (に)
書名	西野原遺跡(1)(2)
副書名	一般県道国定藪塚線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	387
編著者名	高島英之
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20060831
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北碓町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	にしのはらいせき
遺跡名	西野原遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしやぶづかまちやぶづかあざにし
遺跡所在地	群馬県太田市藪塚町藪塚字西野
市町村コード	10205
遺跡番号	Y0039
北緯(日本測地系)	362038
東経(日本測地系)	1391942
北緯(世界測地系)	362049
東経(世界測地系)	1391891
調査期間	20040201-20050331
調査面積	3650
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	古墳
遺跡概要	古墳・竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土師器・近世・近代・溝跡・陶磁器
特記事項	大規模製鉄遺跡縁辺集落





財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第387集

## 西野原遺跡(1)(2)

一般国道固定敷板線地方特定道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 18 年 9 月 11 日 印刷

平成 18 年 9 月 15 日 発行

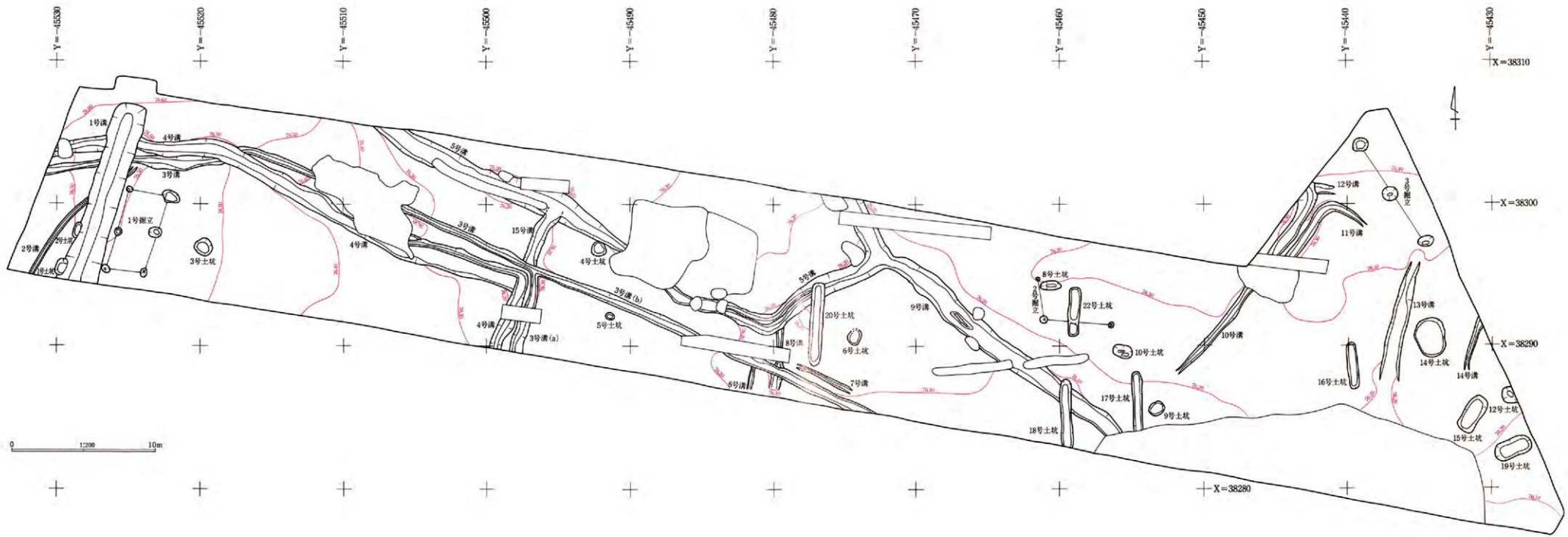
編集／発行 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橋町下箱田784-2

電話 0279-52-2511(代表)

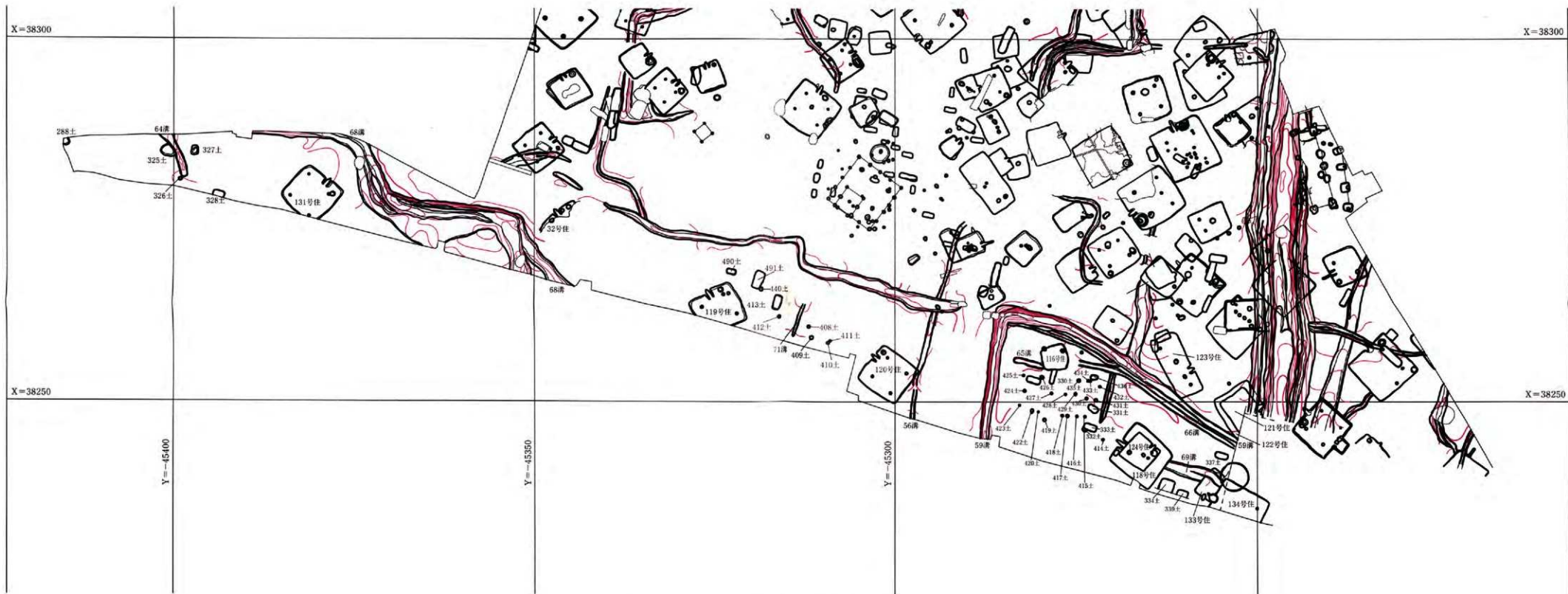
URL <http://www.gunmaibun.org>

印刷 松本印刷工業株式会社



付図1 西野原遺跡(1)全体図





付図2 西野原遺跡(2)全体図